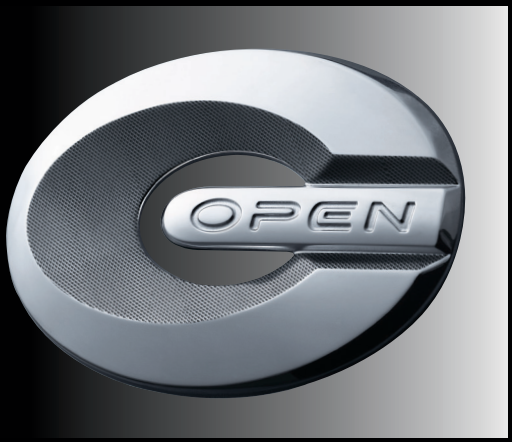
01999-B2545

Light you up

DAIHATSU

COPEN
取扱説明書



ご使用の前によくお読みください

DAIHATSU

このたびは、ダイハツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は、コペンの正しい取り扱いかたや、お手入れの方法などについて説明しているほか、車を操作するうえで必ず守っていただきたいこと、また、万一のときの処置についても記載しています。安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

必読！ドライバーのみなさまへ

特に重要な事柄です。必ず読んでから操作、あるいは作業に取りかかってください。これらを守らないと思わぬけがや事故につながったり、車を損傷するおそれがあります。

安全についての表示マーク・その他の表示マーク

本文中に記載されているマークの意味は下記の通りです。

⚠ 警告	**警告事項を守らないと、生命にかかわるけが、あるいは重大なけがにつながるおそれがあります。**
⚠ 注意	**注意事項を守らないと、けがや事故、車の破損につながるおそれがあります。**
知識	**お車を使ううえで守っていただきたい、または知っておいていただきたい事項です。**
オプション / グレード別装備	**オプション、またはグレードなどにより、装備の有無の異なる項目です。**

ご愛車のために

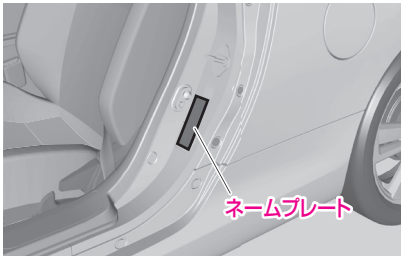
- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認したうえで操作を行ってください。車両型式、エンジン型式は本書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくと便利です。
- 保証および点検・整備については、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますのでお読みください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書を車に付けておいてください。
  - 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
  - 本書は別冊の「メンテナンス ノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
  - ご不明な点は、ご購入先のダイハツ サービス工場（営業スタッフ）におたずねください。

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネーム プレートをご覧ください。

ご愛車のメモ	
車名および型式	車名:
	型式:
車台番号	
エンジン型式	KF型エンジン
総排気量	658cc
車体色(番号)	
トランスミッション	・マニュアルトランスミッション ・CVT

ネーム プレートは助手席開口部に貼り付けしてあります。



MEMO

目次

絵目次 …… 2
こんなときは …… 8

必読！ドライバーのみなさまへ

走行する前に …… 12
エンジンをかけるときは …… 15
走行しているときは …… 16
駐停車するときは …… 19
お子さまを乗せるときは …… 21
こんなときは …… 23
お車を長持ちさせるには …… 26
知っておいていただきたいこと …… 28

安全なドライブのために

正しい運転姿勢 …… 32
正しい運転姿勢 …… 32
シートベルト …… 33
正しいシートベルトの着用 …… 33
シートベルトの使いかた …… 33
お子さま専用シート …… 39
チャイルドシート …… 39
SRS エアバッグ …… 42
SRS エアバッグ …… 42
SRS エアバッグコンピューター …… 47
セキュリティ機能 …… 48
イモビライザー機能 …… 48
セキュリティアラーム …… 48

各部の開閉と各部の調整

車体各部の開閉 …… 54
キー …… 54
キーフリーシステム …… 57
ドア …… 65
トランク …… 70
パワーウインド …… 74
アクティブトップ
（電動開閉式ルーフ） …… 77
給油のしかた …… 84
車体各部の調整 …… 87
シート …… 87
ルームミラー …… 88
ドアミラー …… 89
チルトステアリング …… 90

計器類とスイッチ

警告灯、表示灯 …… 92
警告灯 …… 92
表示灯 …… 101
メーターのはたらき …… 106
メーター …… 106
スイッチの使いかた …… 115
ライトスイッチ …… 115
フォグランプスイッチ …… 118
ワイパー・
ウォッシャースイッチ …… 118
ホーンスイッチ …… 119
方向指示スイッチ …… 120
非常点滅灯スイッチ …… 120

車を運転するにあたって

運転するときは …… 122
運転をする前に …… 122
運転のしかた …… 123
運転するときの注意事項 …… 126
運転装置の使いかた …… 129
エンジンスイッチ …… 129
駐車ブレーキ …… 134
シフトレバー（CVT 車）…… 135
シフトレバー（マニュアル車）… 139
ABS …… 140
ABS（EBD 機能付）…… 140
VSC&TRC …… 142
VSC …… 142
TRC …… 143
メーター表示 …… 145
VSC&TRC OFF スイッチ …… 147
**エマージェンシー
ストップシグナル …… 148**
エマージェンシー
ストップシグナル …… 148
アイドリングストップシステム… 149
eco IDLE（エコアイドル）…… 149
エコ発電制御 …… 160
エコ発電制御 …… 160

装備品の使いかた

空調 …… 162
オートエアコン …… 162
オーディオ …… 171
アンテナ …… 171
ステアリングスイッチ …… 171
室内装備品 …… 172
室内照明 …… 172
アクセサリーソケット …… 173
シートヒーター …… 174
ウインド＆サンバイザー…… 175
収納装備 …… 176
ドリンクホルダー …… 178

車のお手入れ

日常のお手入れ …… 180
ボデー、塗装面のお手入れ …… 180
室内のお手入れ …… 183
簡単な点検・部品の交換 …… 184
エンジンルーム内の点検 …… 184
消耗品の補給、交換 …… 186
タイヤの点検 …… 189
ワイパーの交換 …… 194
エアコンガス、
フィルターの交換 …… 196
ヒューズの交換 …… 197
電球（バルブ）交換 …… 199
キーの電池交換 …… 207

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の取り扱い …… 210
冬に向かってのお手入れ …… 210
走行前点検と準備 …… 211
積雪、寒冷時の走行 …… 212
走行中の点検と注意 …… 213
走行後の取り扱い …… 214

いざというときに

工具類 …… 216
格納場所 …… 216
ジャッキの使いかた …… 217
タイヤパンク応急修理セット … 220
いざというときの処置 …… 228
エンジンがかからないとき …… 228
スタック(立ち往生)したとき … 228
故障したとき …… 230
けん引されるとき …… 231
パンクしたとき …… 233
バッテリーあがりの処置 …… 233
オーバーヒートの処置 …… 235
電子カードキーが
使用できないとき …… 237
アクティブトップが
閉まらないとき …… 241
キーを閉じ込めたとき …… 247
車両を緊急停止するには …… 247
水没・冠水したときは …… 248
事故が起きたとき …… 248

サービスデータ

サービスデータ …… 250

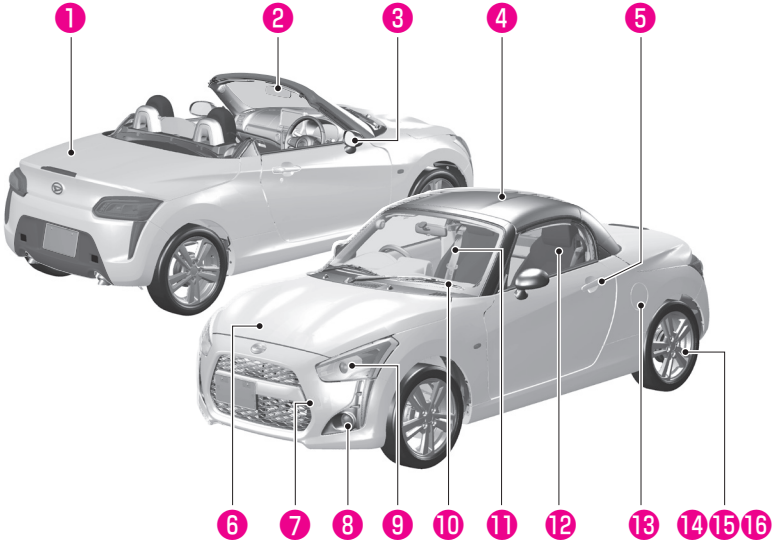
さくいん

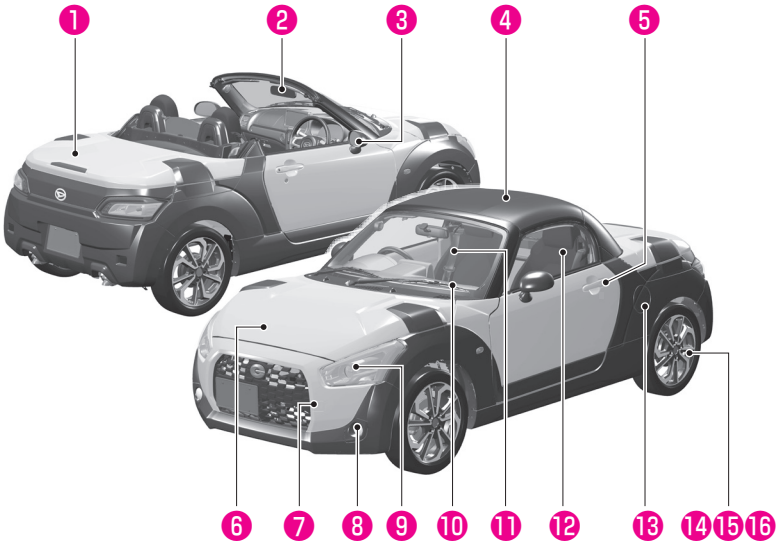
さくいん …… 254

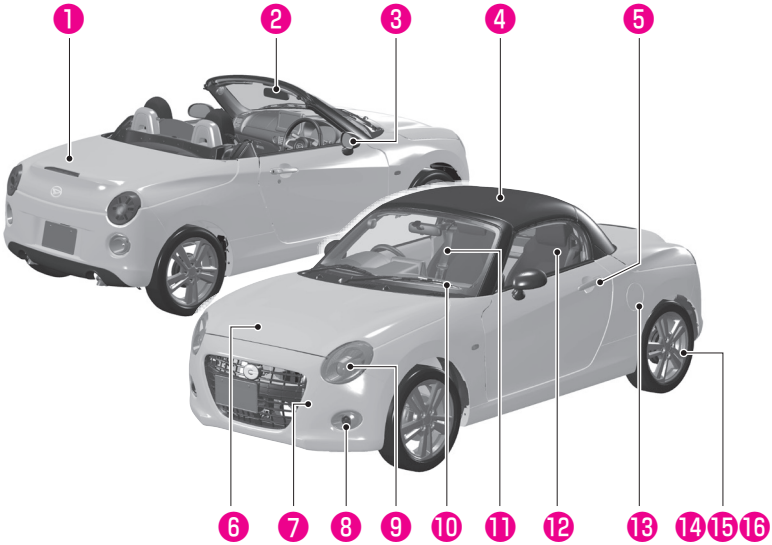
絵目次

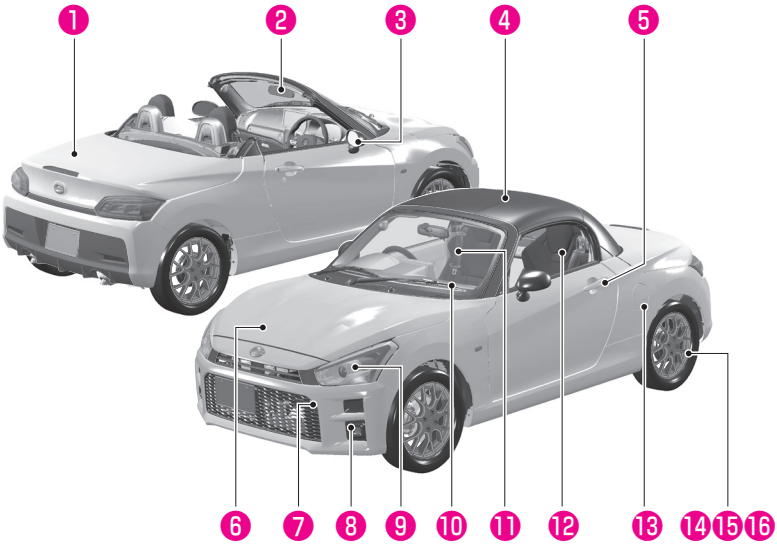
外観

グレードの違い、注文装備も記載しています。





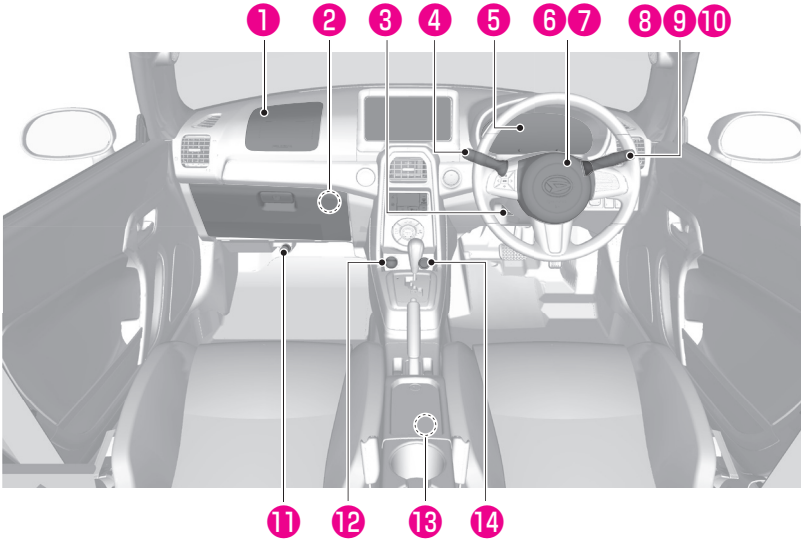

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16

❶トランク …… 70
❷ルームミラー …… 88
❸ドアミラー …… 89
❹アクティブトップ
（電動開閉式ルーフ） …… 77
❺ドア …… 65
❻ボンネット …… 184
❼けん引フック …… 231
❽フォグランプ …… 118
❾ライト …… 115
バルブ交換 …… 199
❿フロントワイパー …… 119
⓫シートベルト …… 33
⓬シート …… 87
⓭フューエルリッド …… 84
⓮タイヤの交換 …… 191
⓯タイヤのローテーション …… 190
⓰タイヤパンク
応急修理セット …… 220

内装

グレードの違い、注文装備も記載しています。

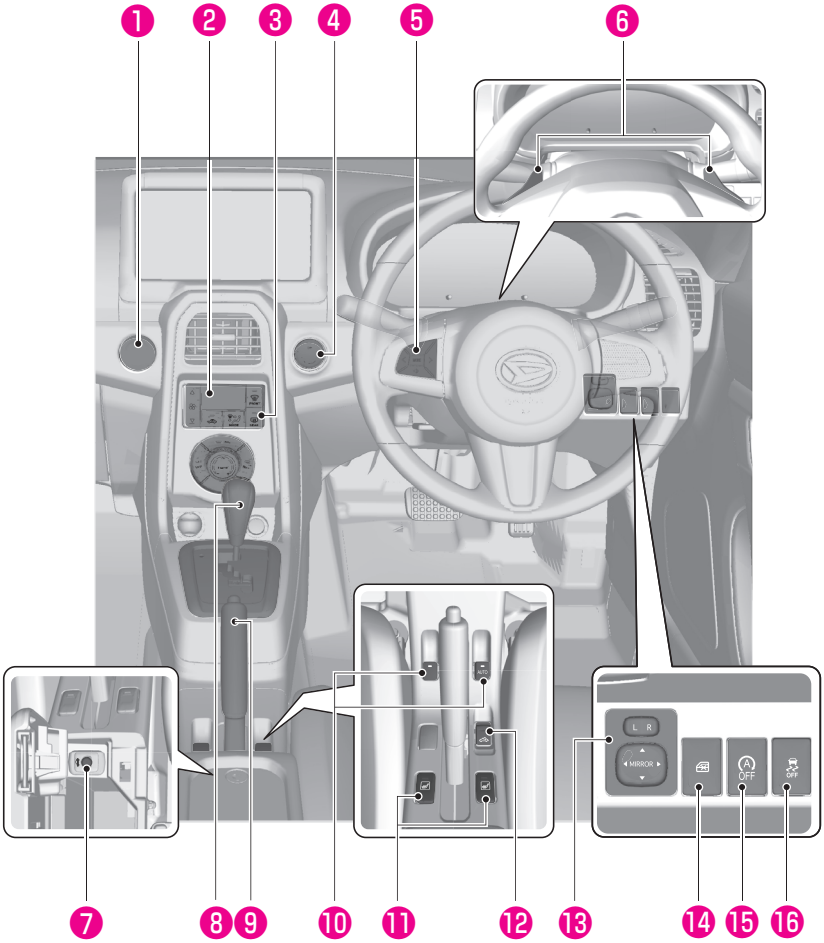


助手席側サンバイザーに図のようなラベルが貼られています。
このラベルは後ろ向きチャイルドシートを取り付けてはいけないということを示しています。
後ろ向きに取り付けた場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
ただし、このお車には前向きであっても、チャイルドシートを使用しないでください。

❶ 助手席 SRS エアバッグ … 42
❷ ボンネットオープナー …… 184
❸ チルトステアリング …… 90
❹ ワイパースイッチ …… 118
❺ 警告灯・表示灯…… 92
メーター …… 106
❻ 運転席 SRS エアバッグ … 42
❼ ホーンスイッチ …… 119
❽ ライトスイッチ …… 115
❾ フォグランプスイッチ …… 118
❿ 方向指示スイッチ …… 120
⓫ 発炎筒 …… 230
⓬ アクセサリーソケット …… 173
⓭ フューエルリッドオープナー… 85
⓮ アクティブトップ作動表示灯… 82

運転席まわり

グレードの違い、注文装備も記載しています。



❶非常点滅灯スイッチ …… 120
❷オートエアコン …… 162
❸リヤウインドデフォッガースイッチ …… 170
❹エンジンスイッチ …… 129
❺ステアリングスイッチ …… 171
❻パドルシフト …… 136
❼トランクオープナースイッチ …… 72
❽シフトレバー
CVT 車 …… 135
マニュアル車 …… 139
❾駐車ブレーキ …… 134
❿パワーウインドスイッチ …… 74
⓫シートヒータースイッチ …… 174
⓬アクティブトップ開閉スイッチ …… 82
アクティブトップ …… 77
⓭ドアミラースイッチ …… 89
⓮パワーウインド OFF スイッチ …… 76
⓯eco IDLE OFF スイッチ …… 157
⓰VSC&TRC OFF スイッチ …… 147

お困りの際は、次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

● 電子カードキーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

症状を確認して、該当すれば電池を交換してください。

→ 207 ページ（キーの電池交換）

● 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。

→ 59 ページ（作動範囲）

エンジンがかからない

● CVT 車 ブレーキペダルをしっかり踏めていますか？

● CVT 車 シフトレバーは P になっていますか？

● マニュアル車 クラッチペダルをいっぱいまで踏み込めていますか？

「エンジンのかけかた」を参照して、もう一度操作してください。

→ 129 ページ（エンジンのかけかた）

● ハンドルがロックされていませんか？

いったんペダルから足を離してエンジンスイッチを“OFF”にして、
ハンドルを軽く左右に回しながら、再度エンジンを始動してください。

● 電子カードキーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

電子カードキーの電池が切れているときは、一時的な対処として、
キーをエンジンスイッチに接触させるとエンジン始動が可能です。

→ CVT 車：238 ページ
→ マニュアル車：239 ページ
（電子カードキーが使用できないとき－エンジンのかけかた）
→ 240 ページ
（電子カードキーが使用できないとき－ハンドルロックを解除するには）

ルーフが開閉できない

● 作動条件を満たしていますか？

- 作動条件について、以下のページを参照してください。

→ 78 ページ（作動条件）

- 作動条件を満たしているのに、作動しない場合は、
  一時的な対処として手動でルーフを閉じることができます。

→ 241 ページ（アクティブトップが閉まらないとき）

eco IDLE によるアイドリングストップをしない
eco IDLE によるアイドリングストップ中にエンジンが再始動した

CVT 車

● eco IDLE には作動する条件、また再始動する条件があります。

以下のページを参照してください。

→ 151 ページ（システムの作業条件について）

警告灯が表示された

● 以下のページを参照してください。

→ 92 ページ（警告灯）

MEMO

安全のためにぜひ守りましょう

必読！
ドライバーのみなさまへ

ご使用の前に、特に守っていただきたいこと、
知っておいていただきたいことをまとめています。

警告に値する項目です

注意に値する項目です

走行する前に …… 12
エンジンをかけるときは …… 15
走行しているときは …… 16
駐停車するときは …… 19
お子さまを乗せるときは …… 21
こんなときは …… 23
お車を長持ちさせるには …… 26
知っておいていただきたいこと …… 28

走行する前に

お出かけの前に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

日常点検などをかかさず行ってください

安全で快適な運転をしていただくために、日常点検・定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。
点検・整備はメンテナンスノートにしたがって実施してください。
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。

各部を正しく調整してください

シート、ミラー類の位置を正しく調整してください。

（車体各部の調整→ 87 ページ）

シートベルトは乗員全員が必ず着用してください

「シートベルトの正しい着用」をよくお読みいただき、正しく着用してください。

（正しいシートベルトの着用→ 33 ページ）

危険物は持ち込まないでください

車内や荷室内には、ガソリン、灯油、シンナーなどの引火物の入った容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。

ペダル操作が確実に行える履き物を着用してください

安全な運転をしていただくために、ペダル操作が確実に行える履き物を着用してください。ペダル操作が確実に行えないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転席足元に物を置かないでください

走行中に空缶などの動きやすい物を足元に置くと、ブレーキペダルの下に挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなるなどのおそれがあり危険です。

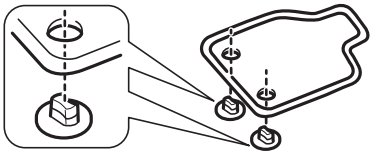
荷物を積み過ぎないでください

- 助手席や背もたれ後方に荷物を積み重ねないでください。視界をさまたげたり、ブレーキをかけたときや旋回しているときに荷物が飛び出して体にあたるなどして、思わぬけがや事故につながるおそれがあり危険です。
- 重い荷物を積み過ぎないでください。車両や走行に悪い影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フロアマットはこの車（年式）専用のダイハツ純正品を使用してください

- 運転席にフロアマットを使用するときは、以下の項目を必ず守って正しく装着してください。これらを守らないと、ブレーキペダルやアクセルペダルにフロアマットが引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

  - この車（年式）専用のダイハツ純正品を使用してください。
  - 付属の取付要領書に従って正しく装着してください。
  - 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
  - ずれないようにフロアマット付属の専用クリップで必ず固定してください。
  - フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返したりして使用しないでください。



- クリップの破損などにより、フロアマットが固定できなくなったときは、すみやかにフロアマットの使用を中止してください。
- 運転する前に、下記のことを確認してください。
  - フロアマットがすべての固定クリップで正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行ってください。
  - エンジンを停止状態にして、シフトレバーがマニュアル車はニュートラル、CVT 車は Ⓟ レンジの位置で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

タイヤ空気圧の点検をしてください

「タイヤ空気圧の点検」をお読みいただき、定期的に点検を実施して指定空気圧に調整してください。

（タイヤ空気圧の点検→ 189 ページ）

安全な燃料給油のために

燃料給油する場合に知っておいていただきたい、お守りいただきたいこと、特にセルフガソリンスタンドなどでお客様自身で燃料給油する場合に注意していただきたいことがあります。
「給油のしかた」をよくお読みいただき、安全に給油を行ってください。

（給油のしかた→ 84 ページ）

SRS エアバッグについて

SRS エアバッグについて知っておいていただきたい、お守りいただきたいこと、ご注意いただきたいことがあります。
「SRS エアバッグ」をよくお読みください。

（SRS エアバッグ→ 42 ページ）

CVT 車について

CVT 車の特性や操作上で注意していただきたいことがあります。
「運転するときは」をよくお読みください。

（運転するときは→ 122 ページ）

エンジンをかけるときは

エンジンをかけるときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

車両後方に可燃物がないことを確認してください

エンジン始動前に、車両後方や排気管の周りに可燃物（枯草・紙・木材など）がないか確認してください。可燃物があると排気管や排気ガスが高温になり、火災になるおそれがあり危険です。

排気ガスにご注意ください

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
換気の悪い場所（車庫など、周囲が閉鎖された場所）でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、一酸化炭素中毒事故を起こす危険があります。
排気管はときどき点検してください。排気管の異常（腐食による穴や亀裂など）または排気音の異常などに気付いたときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。そのまま走行すると排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。
車内に排気ガスが侵入してきたと感じたらすぐに換気をし、車内に新鮮な空気を入れてください。また、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

マニュアル車、CVT 車で注意していただきたいこと

マニュアル車の場合

マニュアル車には、エンジン始動時の誤作動を防ぐためクラッチスタートシステムが装備されています。クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないとエンジンがかかりません。
駐車ブレーキをかけ、シフトレバーをニュートラルにし、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んでからエンジンを始動してください。

CVT 車の場合

駐車ブレーキをかけた状態でシフトレバーを必ず P レンジにして、ブレーキペダルをしっかり踏みエンジンを始動してください。

走行しているときは

走行しているときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

走行中はエンジンを止めないでください

走行中にエンジンを止めると、下記のような現象が起こるおそれがあります。

- ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるため、ブレーキの効きが悪くなり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 各警告灯が作用しなくなります。
- ハンドル操作が重くなります。
- 触媒装置を損傷するおそれがあります。

万一、車が止まらなくなったときの非常時は、車両の緊急停止方法にしたがってください。

（車両を緊急停止するには→ 247 ページ）

下り坂ではエンジンブレーキを併用してください

長い下り坂や急な下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなり危険です。
路面状態やスピードに応じてシフトダウンしてエンジンブレーキを併用しましょう。

マニュアル車

- 1 速ずつ落とす

CVT 車

- シフトレバーを S レンジに入れる、またはマニュアルモードにして1速ずつ落とす

その際には、急激なエンジンブレーキ（シフトレバー操作）を避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。
また、ぬれた路面や、積雪路、凍結路などのスリップしやすい路面では、十分速度を落としてエンジンブレーキを使用してください。

エンジンブレーキ

エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキのことです。低速ギヤになるほどよく効きます。

雨、風の強い日には走行に注意してください

雨や風の強い日は、スピードを控え目にしましょう。特に橋や土手の上、トンネルの出口、山の切通しの部分など、横風の発生しやすい場所では、ハンドルをしっかり持ち、スピードを落として走行してください。

冠水した道路を走行しないでください

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。
万一、水中に浸かってしまったときは、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。

水たまりを走行したあとはブレーキの効きを確認してください

深い水たまりを走行したあとや洗車をしたあとは、ブレーキパッドがしめり、効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキの効き具合が正常かを確かめてください。
効き具合が悪いときは前後の車に十分注意し、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速でしばらく走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。

スタック（立ち往生）などしたときにはタイヤを高速で回転させないでください

タイヤのバースト（破裂）、トランスミッションなどの損傷による思わぬ事故につながるおそれがあります。

（スタック（立ち往生）したとき→ 228 ページ）

高速道路を走行するときに注意していただきたいこと

- 燃料、冷却水、エンジンオイルの量、タイヤの空気圧、摩耗状態などの点検は特に念入りに行ってください。
- 高速での急ブレーキは特に危険です。十分な車間距離を取って走行してください。
- 法定速度を守って走行してください。

ブレーキペダルに足をのせたまま走行しないでください

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

クラッチペダルに足をのせたまま走行しないでください

マニュアル車

クラッチペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行わないでください。クラッチが早く摩耗したり、過熱し思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルの中からの操作をしないでください

走行中にはハンドルの中に手を入れて、スイッチなどの操作をしないでください。ハンドル操作のさまたげになり、万一のときに大変危険です。

「急」の付く運転はしないでください

急激なハンドル操作、急発進、急加速、急ブレーキや急激なエンジンブレーキなど「急」の付く運転はさけてください。

後退するときは子供や障害物に気を付けてください

ルームミラー、ドアミラーなどでは確認しにくい死角があります。安全確認をしながらゆっくり後退してください。

窓から手や顔などを出さないでください

窓から身を乗り出したり、手や顔を絶対に出さないでください。思わぬけがをするおそれがあります。

駐停車するときは

駐停車するときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

長時間駐車するときに注意していただきたいこと

エンジンを必ず止めて駐車してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐停車のときは駐車ブレーキをかけてください

駐停車するときは、必ず駐車ブレーキをかけ、シフトレバーをマニュアル車は 1 速（上り坂）または後退（下り坂）、CVT 車は Ⓟ レンジに入れます。坂道で駐車するときは、さらに輪止めを置いて駐車すると安全です。

燃えやすい物のそばに車を止めないでください

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物（枯草・紙・木材など）があると、火災になるおそれがあり危険です。車の後方に可燃物があるときは、車両後端を 30cm 以上離して止めてください。隙間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。また、可燃物（枯草・紙・木材など）の上で走行したり、車を止めたりしないでください。

車から離れるときに注意していただきたいこと

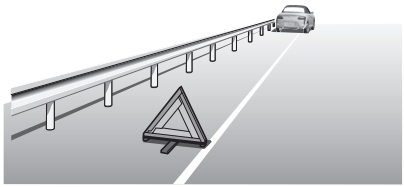
車から離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずドアを施錠してください。
車が動き出したり、車両盗難、貴重品盗難のおそれがあります。
また、乳幼児のみを車内に残して車を離れないでください。炎天下での車内の温度は、想像以上に高くなり危険です。

仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

エンジンがかかった状態のままで仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の不意な発進やエンジン過熱による火災など、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、風通しの良くない所や、風向きによっては排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。

高速道路で停車するときに注意していただきたいこと

高速道路で、故障などのためやむを得ず停車するときは道路の端によせ、必ず停止表示板（停止表示灯）を置いてください。
万一のために停止表示板（停止表示灯）は車に常備しましょう。高速道路では停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務付けられています。



ターボ車は走行後にアイドリングを行ってください

高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、停車後、1 分程度アイドリング運転でエンジンを冷やしてからエンジンを止めてください。（ただし、CVT 車で、eco IDLE が作動してアイドリングストップしたときは、アイドリング運転は不要です。）

高温になっている場所には触れないでください

- 荷物の積み降ろし時などに、手や足がマフラーに触れないようにしてください。エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ交換時などに、ディスクホイールやブレーキ回りに触れないようにしてください。走行後のディスクホイールやブレーキ回りは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

車が雪でおおわれたときに注意していただきたいこと

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあり危険です。

お子さまを乗せるときは

車を離れるときはお子さまも一緒に離れてください

お子さまのいたずらによる車の発進、火災など思わぬ事故が起こるおそれがあり危険です。また、炎天下での車内の温度は想像以上に高くなり、危険です。
必ずお子さまと一緒に車を離れてください。

ドアやルーフ、ウインドなどの開閉、シートの調整は大人が注意しながら操作してください

- ドアやルーフ、ウインドの開閉、シートの調整など、特にお子さまの手や足を挟まないよう注意しましょう。また、お子さまが作動部に触れないように注意しましょう。
- ドアやルーフ、ウインドの開閉、シートの調整などは大人が操作してください。
- パワーウインドは、お子さまが自分で操作できないようにパワーウインド OFF スイッチを“OFF”にしてください。

（パワーウインド OFF スイッチ→76 ページ）

お子さまを荷室に乗せたり、遊ばせないでください

荷室は、シートの状態にかかわらず人が乗る構造になっていないため、絶対にお子さまを乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が飛ばされ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、停車中であってもお子さまを荷室で遊ばせないでください。

お子さまにもシートベルトを着用させてください

- お子さまをひざの上に抱いて走行しないでください。衝突したときなど十分に支えることができず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまを乗せるときは、シートベルトが首やあごに当たっておらず、腰骨に密着していることを確認してください。
  正しく装着されないと、衝突したときなどに首や腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

シートベルトでお子さまを遊ばせないでください

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一シートベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
誤ってそのような状態になってしまい、シートベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシートベルトを切断してください。

助手席にチャイルドシートを取り付けないでください

助手席にベビーシートやチャイルドシートを取り付けないでください。SRS エアバッグが膨らんだときの衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

（SRS エアバッグ→ 42 ページ）

お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう

走行中に限らず、お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう。思わぬけがをするおそれがあります。
絶対に身を乗り出したり、シートの上に立たせたりしないでください。転落などして重大な傷害をうけるおそれがあります。

こんなときは

警告灯が点灯、点滅したとき

警告灯類が異常を知らせたとき、そのまま走行すると危険な場合があります。安全な場所に停車し、正しい処置を行ってください。

（警告灯→ 92 ページ）

オーバーヒートしたとき

水温警告灯が赤色に点滅・点灯して、警告ブザーが鳴ったときは、オーバーヒートが考えられます。そのときボンネットから蒸気が出ている場合は、絶対にボンネットを開けないでください。
また、あわててラジエーターキャップを外さないでください。熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

（オーバーヒートの処置→ 235 ページ）

エンストしたとき

落ち着いて操作してください。
ブレーキの倍力装置やパワーステアリング装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合、通常より強い力でハンドルやブレーキを操作してください。

パンクしたとき

走行中にパンクやバースト（破裂）をしたときは、ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

（タイヤパンク応急修理セット→ 220 ページ）
（タイヤの交換→ 191 ページ）

床下に強い衝撃を感じたとき

車体の床下に強い衝撃を感じたときは、すぐに安全な場所に車を停車し、下回りを点検してください。
ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などが見つかった場合はそのまま運転すると思わぬ事故につながるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

いつもと違うとき

地面に油や液の漏れたあとが残っているときや、異臭、異音、振動などに気付いたときは、車に異常のおそれがあります。このようなときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

車両の火災につながるおそれがあるため、下記の点に注意をしてください

- 車内（特にインストルメントパネルの上など）に、ライターなどの発火物や炭酸飲料を置かないでください。車内が高温になり火災や爆発につながるおそれがあり危険です。
- ライターを車内（グローブボックス内など）に放置したままにしないでください。荷物を押し込んだときや、シートを動かしたときに、ライターの操作部が誤作動し、火災になるおそれがあり危険です。
- ウインドガラスには吸盤を付けたり、インストルメントパネルに芳香剤の容器などを置いたりしないでください。吸盤や容器がレンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドガラスを開けたまま放置しないでください。ドアやウインドガラスを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
- エンジン始動前にエンジンルームに可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジンルームに小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。
  また、走行中にエンジンルームからこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

車内に水などをかけないでください

- インストルメントパネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
  万一、水、飲み物などがかかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにダイハツサービス工場にご相談ください。

こんな点にも注意をしてください

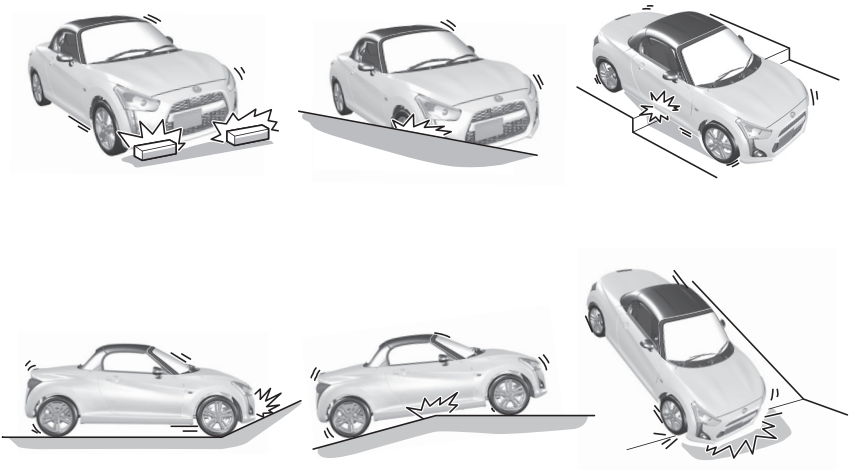
- 炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを車内に放置したり、小物入れなどに入れたままにしないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレーム、耐熱性の低い物は、変形・ひび割れを起こすことがあります。

- インストルメントパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行時に動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者はハンズフリー以外の携帯電話などを走行中に使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者は走行中、テレビを見たり、カーナビゲーションを操作しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。

車止めなどに注意をしてください

下記のような場合には、バンパーや床下などを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

- 車止めのある場所への駐車、路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 駐車場など急な坂道への出入り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある場所の通過



お車を長持ちさせるには

点検整備を行いましょう

車は日頃の管理が大切です。安全、快適にご使用いただくため、必ず実施してください。

- 日常点検
- 新車時点検
- 定期点検
- 定期交換部品の交換整備

これらの点検整備は法令で定められているものと、ダイハツが推奨するものに基づいています。
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。

海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは

海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路などを走行したあとは、早めに洗車をしてください。特に車体の下回り、足回りは念入りに洗車してください。洗車をせずに放置すると腐食の原因となります。
腐食が進行すると、ブレーキや燃料、オイル、エアコンなどの配管類からの液漏れ、ガス漏れにつながるおそれがありますので、早めの洗車とともに定期的な点検整備を実施してください。

エンジン冷却水温が低い間は、エンジンに負担のかかる運転をさけてください

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をさけた運転でエンジンを暖機させてください。暖機不足の状態で、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をすると、エンジンに悪い影響をあたえたり、触媒装置の損傷の原因になるおそれがあります。
- 暖機は水温表示灯が消灯すれば十分です。

無鉛ガソリンのみ使用してください

必ず、無鉛レギュラーガソリン、または無鉛プレミアムガソリンを使用してください。
給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

車の改造や自己流の調整はしないでください

- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- ガラス面に、着色フィルムやステッカーなどを貼り付けないでください。運転のさまたげになり危険です。特にフロントガラスおよびフロントドア左右のガラスへの貼り付けは法令で禁止されています。
- タイヤを交換するときは、指定以外の物を装着しないでください。また、ホイール、ホイール取り付けナットを交換するときは、この車専用以外の物を装着しないでください。性能や機能に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。交換するときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 無線機やダイハツ純正部品以外の電装品などを取り付けると、取り扱い方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。ダイハツサービス工場にご相談ください。RF 送信機の取り付けは、28 ページ「RF 送信機の取り付けについて」もご参照ください。
- バッテリー端子にダイハツ純正部品以外の電装品やアース線を直接つなげないでください。バッテリーあがりや火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お客様自身でのハンドルの取り外しはしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと誤作動につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

純正部品を使いましょう

部品を交換する場合は「ダイハツ純正部品」のご使用をおすすめします。

知っておいていただきたいこと

RF 送信機の取り付けについて

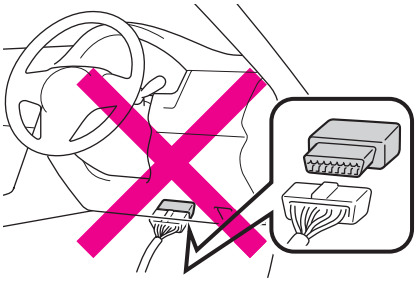
お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- 燃料噴射システム
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグシステム
- プリテンショナー付シートベルト
- キーフリーシステム&プッシュボタンスタート

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずダイハツサービス工場にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をダイハツサービス工場にてご提供します。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて



故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

車両データの記録について

このお車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

参考

- グレードやオプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
- コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。
なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

磁石式の運転標識の取り付けについて

磁石式の初心者標識や高齢者標識などを樹脂部分（バンパーやボンネット、トランクなど）に取り付けることはできません。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

MEMO

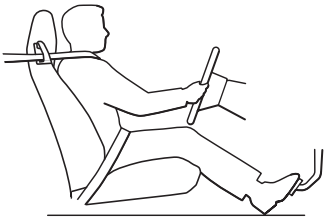
安全なドライブのために

正しい運転姿勢
正しい運転姿勢 …… 32
シートベルト
正しいシートベルトの着用 … 33
シートベルトの使いかた …… 33
お子さま専用シート
チャイルドシート …… 39
SRS エアバッグ
SRS エアバッグ …… 42
SRS エアバッグ
コンピューター …… 47
セキュリティ機能
イモビライザー機能 …… 48
セキュリティアラーム …… 48

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢

安全な運転操作を行うため、正しい運転姿勢が取れるように、下記のことに注意して走行前にシートやミラーなどを調整してください。



- ペダル類が十分に踏み込めること
- 背もたれから背中を離すことなく、ハンドル操作ができること
- シートベルトが正しく着用できること

（車体各部の調整→ 87 ページ）

⚠ 警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対にしないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを必要以上に倒して走行しないでください。シートベルトの性能が発揮されません。正しい運転姿勢を取りましょう。
- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

（シートベルト→ 33 ページ）

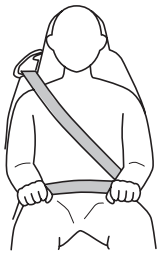
シートベルト

正しいシートベルトの着用

運転者は車を運転する前に、下記のことに注意してシートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。

シートベルトの使用方法を十分に理解し、正しい取り扱いかたを身に付けてください。

▼ 正しい着用のしかた



- シートを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること
- シートベルトにねじれがないこと
- シートベルトが肩に十分かかっていること、また必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

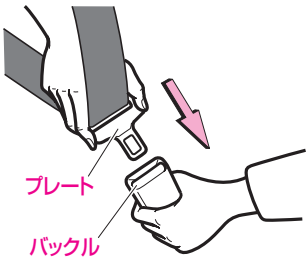
⚠ 警告

- シートベルトの着用は腹部をさけ、必ず腰骨の位置にしてください。衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、シートベルトによりけがをするおそれがあります。
- シートベルトの肩にかかる部分を脇の下に通して着用しないでください。シートベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されるおそれがあります。

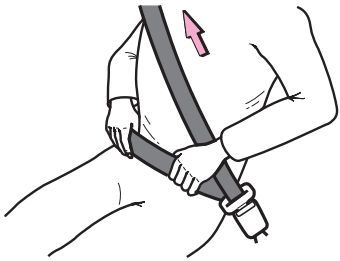
シートベルトの使いかた

長さ調整の必要はありません。通常は体の動きに合わせて伸縮しますが、緊急時にはロックし、体を固定します。

▼ 着けるとき

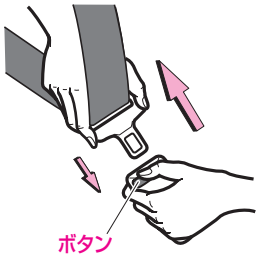


1 プレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込む



2 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引いて腰部に密着させる

▼ 外すとき



バックルのボタンを押します。ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがないかを確認しながら、プレートに手を添えてゆっくり戻します。

⚠ 注意

プレートを差し込むときは

- プレートでバックルを無理にこじらないでください。

知識

ベルトがロックし引き出せないときは

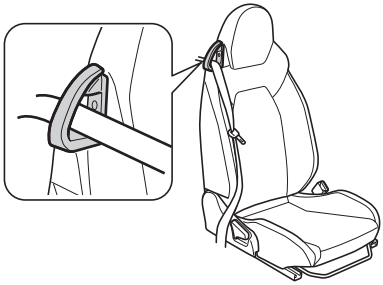
- ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。

シートベルト未装着警告について

- 運転席および助手席のシートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約20km/h 以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

（シートベルト未装着警告灯（運転席・助手席）→ 96 ページ）

シートベルトガイド



シートベルトはガイドに通した状態で使用します。

プリテンショナー & フォースリミッター機構

プリテンショナー機構

前方からの強い衝撃を受けると、シートベルトを瞬時に引き込み、上体をシートにしっかりと固定してシートベルトや SRS エアバッグの効果をいっそう高めます。

フォースリミッター機構

前方からの強い衝撃を受けた場合、シートベルトにある一定以上の荷重がかかったときに、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸に加わる力を減少させます。

⚠ 警告

- プリテンショナー & フォースリミッター機構付シートベルトは絶対に取り外したり、分解、改造をしないでください。
- 下記のような場合は必ずダイハツサービス工場にご相談ください。お客様自身で行うと、プリテンショナー機構が思いがけなく作動するおそれがあるほか、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 車両前部を修理するとき
  - 無線機を取り付けるとき
  - 廃車にするとき

⚠ 注意

- プリテンショナー & フォースリミッター機構付シートベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのダイハツサービス工場で交換してください。

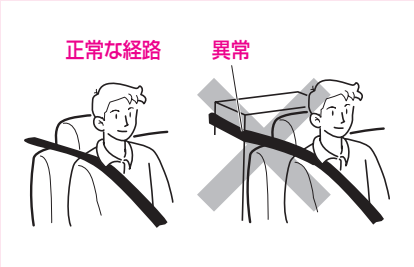
知識

- プリテンショナー機構はシートベルトを着用していなくても前方からの強い衝撃を受けると作動します。

シートベルトの取扱いとお手入れ

⚠ 警告

- シートベルトの経路をさまたげる荷物の積みかたはしないでください。衝突したときなどに効果が十分発揮されません。



- お子さまをひざの上に抱いて走行しないでください。
  ひざの上でお子さまを抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは、それを着用するのに十分な大人の体格を持った人用に設計されています。
  - 正しい位置でシートベルトを着用できるお子様の場合、シートベルトがお子さまの首やあごに当たっておらず、腰骨に密着していることを確認してください。
    正しく着用されないと、衝突したときなどに首や腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

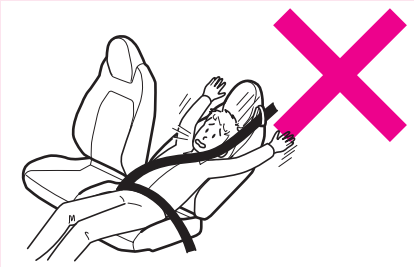
⚠ 警告

● シートベルトは 1 人用です。2 人以上で 1 本のシートベルトを使用しないでください。衝突時にシートベルトが正常に動かず、けがをするおそれがあります。

● 妊娠中の方もシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シートベルトの着用については、医師に相談のうえ、注意事項を確認してください。

- 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させます。
- 肩部ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用します。

● シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシートベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シートベルトによりけがをするおそれがあります。



⚠ 警告

- ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しないでください。衝突したときなどシートベルトの効果が発揮されません。
- シートベルト使用時、洗濯ばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。衝突時など効果を発揮しなくなります。
- シートベルトが汚れた場合は中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。
- シートベルトを着用した状態で万一事故にあった場合は、ダイハツサービス工場でシートベルト一式を交換してください。シートベルト自体が損傷している場合があり、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 常にシートベルトにほつれや、擦り切れなどの異常がないかを点検してください。異常がある状態で使用をすると衝突時に正常にはたらかず、性能を十分発揮できないおそれがありますので、ダイハツサービス工場で交換してください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。また、シートベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。

お子さま専用シート

チャイルドシート

この車にチャイルドシートを取り付けることはできません。

⚠ 警告

- チャイルドシートを取り付けた場合、事故などで SRS エアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
（助手席サンバイザーに図のようなラベルが貼られています。このラベルは後ろ向きチャイルドシートを取りつけてはいけないということを示しています。後ろ向きに取り付けた場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただし、この車には前向きであっても、チャイルドシートを使用しないでください。）

- お子さまをひざの上に抱いて走行しないでください。
ひざの上でお子さまを抱いていると、衝突したときなど十分に支えることができず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまを乗せるときは、シートベルトが首やあごに当たっておらず、腰骨に密着していることを確認してください。
正しく着用されていないと、衝突したときなどに首や腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一シートベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
誤ってそのような状態になってしまい、シートベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシートベルトを切断してください。

知識

チャイルドシートについて

- ここでは、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートの総称として、「チャイルドシート」と呼んでいます。

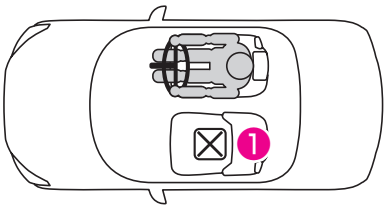
チャイルドシートの質量グループについて

ECE R44 の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重により、5 種類の質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループⅠ	9～18kg
グループⅡ	15～25kg
グループⅢ	22～36kg

【ECE R44：チャイルド シートに関する国際的な安全基準です】

シート位置別チャイルドシートの適合性



チャイルドシートの取り付けに適していません。

座席位置	
シート位置の番号	❶
汎用(ユニバーサル)ベルト式に搭載可能な座席位置(有／無)	×
ISO FIX座席位置(有／無)	×
搭載可能な横向きチャイルドシート座席位置の固定具(L1／L2)	×
搭載可能な後ろ向きチャイルドシートの固定具(R1／R2X／R2／R3)	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの固定具(F2X／F2／F3)	×
搭載可能なジュニアシートの固定具(B2／B3)	×

ISO FIX チャイルドシートはいくつかの固定具に分かれています。上記の一覧表に示す固定具の座席位置でチャイルドシートを使用することができます。固定具の種類は、次の一覧表を確認ください。

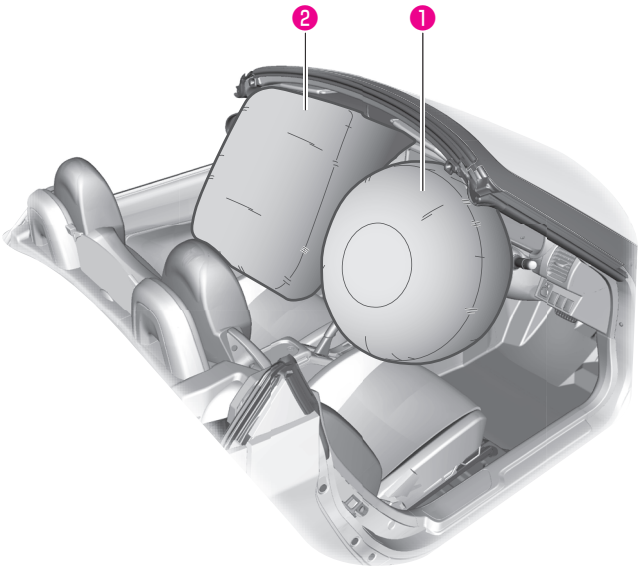
固定具	仕様
F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート(F2と別形状のもの)
R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
R2X	小型後向き幼児用チャイルドシート(R2と別形状のもの)
R1	後向き乳児用チャイルドシート
L1	左向き位置用チャイルドシート(キャリコット)
L2	右向き位置用チャイルドシート(キャリコット)
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

SRS エアバッグ

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは、車両前方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみます。

【SRS：Supplemental Restraint System（サプリメンタル レストレイント システム）の略で、乗員保護補助拘束装置の意味です】



❶運転席 SRS エアバッグ

シートベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

❷助手席 SRS エアバッグ

シートベルトで体を拘束するはたらきと併せて、助手席同乗者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

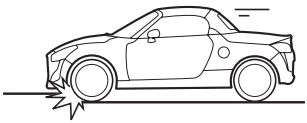
作動する場合

SRS エアバッグは車両前方からフロントバンパーに強い衝撃を受けたとき作動します。（同時にシートベルトのプリテンショナー機構も作動します）

また、下記のように走行中に路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときは、まれにSRS エアバッグが作動することがあります。

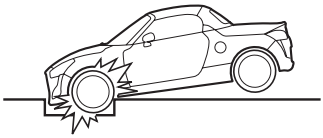
● 高速で縁石などに衝突したとき

縁石など

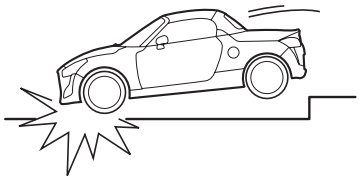


● 深い穴や溝に落ち込んだとき

深い穴や溝



● ジャンプして地面に衝突したとき



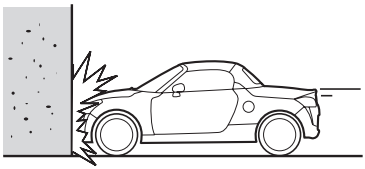
作動しない場合

下記のときは、SRS エアバッグが作動しません。

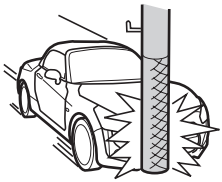
● エンジンスイッチが“OFF”、“ACC”のときに衝突したとき

下記のように前方からの衝撃が弱い場合や、衝撃が車体により十分吸収された場合など、車両の損傷が大きくても作動しないことがあります。

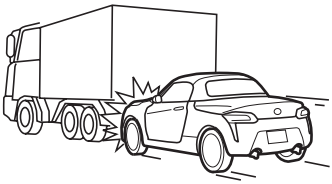
● コンクリートの壁に約 20km/h 以下の速度で正面衝突したとき



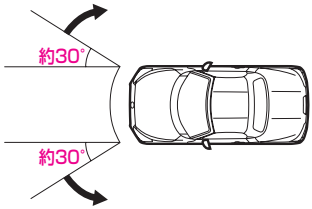
● 電柱などポール状の物に正面衝突したとき



● 大型トラックの後部荷台下にもぐり込んだとき



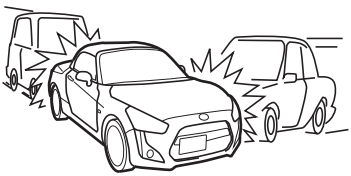
● 前方約 30°以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



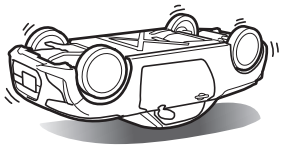
● SRS エアバッグ警告灯点灯時

下記のようなときも作動しないことがあり効果を発揮しません。

● 側面や後方から衝撃を受けたとき



● 車両が横転、転覆したとき



SRS エアバッグの取り扱い

⚠ 警告

● シートベルトは必ず着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するための装置でシートベルトの代わりではありません。

● シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時に SRS エアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。

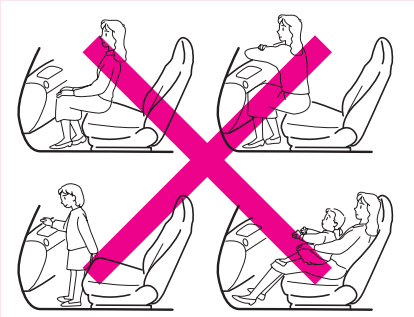
（正しいシートベルトの着用→ 33 ページ）

● シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRS エアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないと SRS エアバッグの効果を発揮させることができません。また、運転席 SRS エアバッグはハンドルに近付きすぎると、SRS エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 警告

- ハンドル、インストルメントパネルは、絶対に取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRS エアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRS エアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのでやけどをするおそれがあります。
- 助手席 SRS エアバッグについては必ず下記の注意事項をお守りください。
  - シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。また、お子さまをインストルメントパネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。助手席 SRS エアバッグは瞬時に車室内に大きく膨らみますので、SRS エアバッグが膨らんだときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

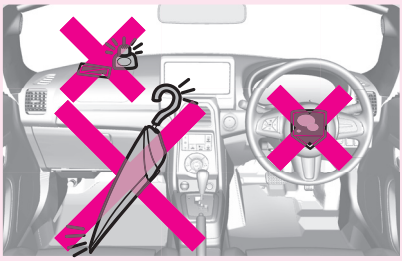


- 助手席にチャイルドシートを取り付けないでください。事故などで SRS エアバッグが膨らんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを乗せるときは、シートベルトが首やあごに当たっておらず、腰骨に密着していることを確認してください。
  正しく着用されていないと、衝突したときなどに首や腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かず SRS エアバッグが作動しないおそれがあります。

⚠ 警告

- インストルメントパネルの上に飲み物や物を置かないでください。SRS エアバッグが膨らむときの衝撃でけがをするおそれがあります。



- ステアリングパッド、インストルメントパネルの上など SRS エアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
  - サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わると SRS エアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
  - 車両前部にグリルガードなどを装着する場合は、最寄りのダイハツサービス工場にご相談ください。
- 無線機の電波などは、SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- SRS エアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRS エアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

⚠ 注意

- SRS エアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
  この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
  また、SRS エアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 衝突時などに助手席 SRS エアバッグが膨らむことによって、車両のフロントウインドガラスが破損することがあります。

⚠ 注意

- SRS エアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずダイハツサービス工場で交換してください。
- 下記のような場合は必ずダイハツサービス工場にご相談ください。
  お客様自身で行うと、SRS エアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ハンドルを取り外すとき
  - 車両前部を修理するとき
- 車や SRS エアバッグを廃棄するときは必ずダイハツサービス工場にご相談ください。SRS エアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずダイハツサービス工場で交換してください。衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

SRS エアバッグコンピューター

SRS エアバッグを制御する装置です。

⚠ 注意

- SRS エアバッグコンピューターは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
  SRS エアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRS エアバッグコンピューターには、水、飲み物などをかけないように注意してください。
- SRS エアバッグコンピューターおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。
- SRS エアバッグが一度作動すると再使用できません。ダイハツサービス工場で交換してください。

セキュリティ機能

イモビライザー機能

車両の盗難防止のため、電子カードキーおよびメインキーには信号発信機が内蔵されており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンの始動ができません。

▼ 操作方法

- エンジンスイッチを“OFF”にすると、イモビライザー機能が作動し、セキュリティインジケーターが点滅します。
- エンジンスイッチを“OFF”から“ACC”にすると、イモビライザー機能が解除され、セキュリティインジケーターが消灯します。

（セキュリティインジケーター→ 103 ページ）

知識

- セキュリティインジケーターはセキュリティアラームと兼用しているため、キーフリー操作・電子カードキーのリモコン操作により施錠すると、約 30 秒間点灯に変わります。
- セキュリティアラームが解除されていない場合は、エンジンスイッチを“ACC”にしても消灯しない場合があります。
- 電子カードキー、メインキーに登録された信号はキーごとに異なります。

イモビライザー機能のメンテナンスについて

イモビライザー機能のメンテナンスは不要です。

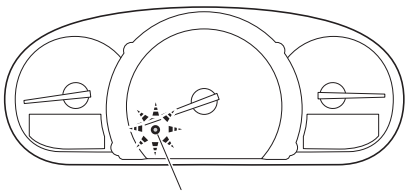
⚠ 注意

イモビライザー機能を正常に作動させるために

- イモビライザー機能の改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

セキュリティアラーム

セキュリティアラームは、不正な侵入を検知した場合に、音と光で周囲に異常を知らせる機能です。



知識

セキュリティアラームについて

- セキュリティアラームは、周囲に異常を知らせる機能です。室内への侵入・盗難を防ぐ機能ではありません。
- ほかの方にお車を貸したときや、セキュリティアラームの作動について知らない方が運転するときは、セキュリティアラームについて十分ご説明ください。
  セキュリティアラームの作動について知らない方が操作を誤った場合、警報が作動し周辺への迷惑になります。

ドアを施錠する前の確認

- セキュリティアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため以下のことを必ず確認してください。
  - 車内に人が乗っていないか
  - ドアガラス、アクティブトップが閉じているか
  - 車内に貴重品などを放置していないか

セキュリティアラームのセット方法

アクティブトップが開いているときは閉じてください。

1 すべてのドア・トランクを閉める

2 次のいずれかの方法ですべてのドアを施錠する
（セキュリティインジケーターが点灯）
- キーフリーシステムのリクエストスイッチ操作
- 電子カードキーのリモコン操作

3 30 秒以上経過すると、自動的にセットされる
（セットされると、セキュリティインジケーターが点灯から点滅に変わる）

知識

- キーフリーシステムのリクエストスイッチ操作または電子カードキーのリモコン操作以外で施錠した場合、セキュリティアラームはセットされません。
  （タイマーロック機能で施錠された場合は、セットされます）
- セキュリティインジケーターが点灯してから約 30 秒以内に下記の操作をしたときは、セキュリティアラームのセットが中断されます。
  - 運転席ドアを解錠したとき
  - ドアまたはトランクを開けたとき
  - エンジンスイッチを“ON”にしたとき

セキュリティアラームのセット解除

下記のいずれかの操作でセキュリティアラームのセット（警戒状態）を解除します。

- キーフリーシステムのリクエストスイッチ操作でドアを解錠する
- 電子カードキーのリモコン操作でドアを解錠する、またはトランクを開ける
- エンジンスイッチを“ON”にする

知識

セキュリティアラームのセット中にトランクを開けたときは

- リクエストスイッチ操作でトランクを開けると、待機状態になり、そのままトランクを閉めると、約 30 秒後に自動的にセットされます。
- 電子カードキーのリモコン操作でトランクを開けると、ドアが解錠された段階でセット解除されます。

セキュリティインジケーターについて

- イモビライザー機能のインジケーターを兼ねているため、セキュリティアラームのセットを解除しても、エンジンスイッチを“ACC”にするまで消灯しません。
  また、エンジンスイッチを“ACC”から“OFF”にすると点滅します。

セキュリティアラーム作動

セキュリティアラームがセットされた状態で、ドアまたはトランクがキーフリーシステムのリクエストスイッチ操作または電子カードキーのリモコン操作以外で解錠されたり、開けられたりすると、セキュリティアラームが 2 段階で作動します。

▼ 1 次作動

- セキュリティインジケーターが点滅
- 非常点滅灯が 10 秒間点滅
- 室内ブザーが 10 秒間断続して鳴る

1 次作動の間に警報が解除されなかった場合、2 次作動に入ります。

▼ 2 次作動

- セキュリティインジケーターが点滅
- 非常点滅灯が 30 秒間点滅
- 室内ブザーが 30 秒間断続して鳴る
- ホーンが 30 秒間断続して鳴る

知識

- セキュリティアラーム作動中にドアまたはトランクを閉めても、作動は停止しません。
- セキュリティアラーム作動後にドアまたはトランクを閉めると、セキュリティアラームが再び警戒状態になりますが、施錠はされません。お車を離れる際は確実に施錠してください。

セキュリティアラーム作動の停止方法

以下のいずれかの操作でアラーム作動を停止できます。

- 電子カードキーの“LOCK”または“UNLOCK”スイッチを押す
- 電子カードキーを携帯して乗車する
- エンジンスイッチを“ON”にする

電子カードキーが使用できないとき

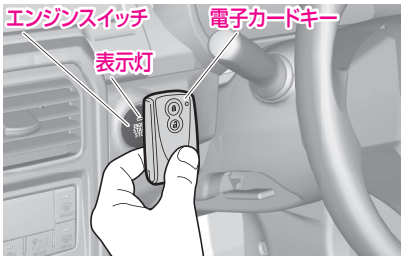
電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できないときは、次の操作でアラーム作動を停止してください。

▼ 操作方法

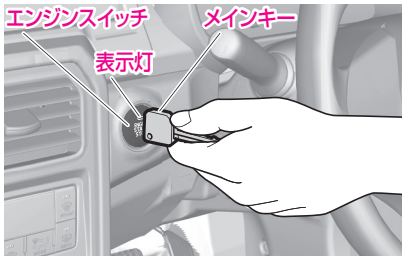
1 ＜CVT 車＞ブレーキペダルをしっかりと踏む
＜マニュアル車＞クラッチペダルをいっぱいまで踏み込む

2 ペダルを踏んだまま、キーを図のようにエンジンスイッチに接触させる

電子カードキー



メインキー



- 電子カードキーは、裏面の中心付近をスイッチの中心に接触させます。

3 キーが認識されて警報が停止する

- 表示灯が点灯します。

知識

電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できないときは

- メインキー、またはエマージェンシーキーでドアの施錠、解錠、およびエンジンスイッチの操作を行うことができます。

（電子カードキーが使用できないとき→ 237 ページ）

セキュリティアラーム作動履歴の確認

セキュリティアラームのセット中にアラームが作動したことを確認することができます。（2 次作動までした場合のみ）

▼ 確認方法

エンジンスイッチを“ON”にすると、室内ブザーが「ピーッピッ」と鳴ります。

知識

- 作動履歴の確認は、2 次作動後、1 回のみ行うことができます。

セキュリティアラームのメンテナンスについて

セキュリティアラームのメンテナンスは不要です。

⚠ 注意

セキュリティアラームを正常に作動させるために

- セキュリティアラームの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

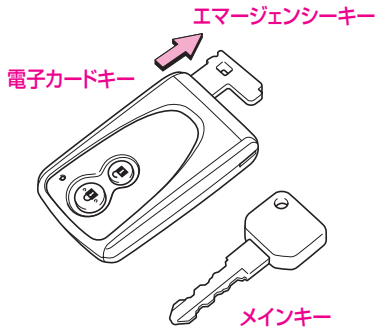
各部の開閉と各部の調整

車体各部の開閉
キー …… 54
キーフリーシステム …… 57
ドア …… 65
トランク …… 70
パワーウインド …… 74
アクティブトップ
（電動開閉式ルーフ） …… 77
給油のしかた …… 84
車体各部の調整
シート …… 87
ルームミラー …… 88
ドアミラー …… 89
チルトステアリング …… 90

車体各部の開閉

キー

キーはエンジンの始動や停止のほかに、ドアの施錠・解錠など車を操作するためになくてはならない物です。大切に管理してください。



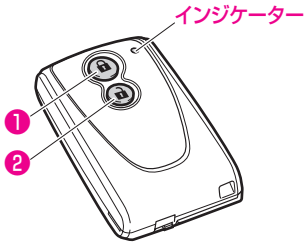
▼ お客様にお渡しするキー

● お車には、電子カードキー 1 つとメインキー 1 つが付いています。

知識

● 電子カードキーは必ず運転者が携帯し、管理してください。

電子カードキー



▼ リモコン操作

● スイッチを押すと、以下の操作ができます。

❶：ドアの施錠
❷：ドアの解錠
❷（長押し）：トランクを開ける
（ドアの施錠・解錠→ 66 ページ）
（トランクを開く→ 72 ページ）

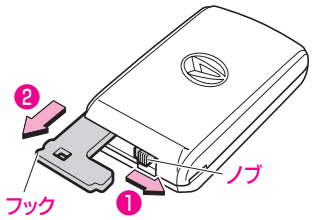
▼ キーフリーシステム

● 電子カードキーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。

- ドアを施錠・解錠する
- トランクを開ける
- エンジンを始動する

（キーフリーシステム→ 57 ページ）

エマージェンシーキー



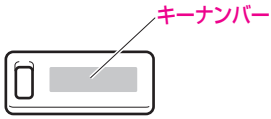
▼ エマージェンシーキーの取り出しかた

● 電子カードキーのノブを（❶）の方向にスライドさせたまま、エマージェンシーキーのフック部を（❷）の方向に引いて取り出します。

知識

● 使用後は元に戻し、必ず電子カードキーと一緒に携帯してください。
電子カードキーが電池の消耗などで使用できなくなったときに必要になります。

キーナンバープレート



キーナンバーは、キーではなくプレートに打刻しています。

● プレートは、お客様以外にキーナンバーがわからないように、車両以外の場所に大切に保管してください。

キーの取扱い

⚠ 注意

故障を防ぐために

● 電子カードキー・メインキーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因になりますので、下記のことを守り、取り扱いには注意してください。
- 電子カードキーをズボンなどの後ろポケットに入れない
- 直射日光や高温下に放置しない
- 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えない
- 水にぬらさない
- 分解をしない
- 超音波洗浄機などにかけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない

知識

● 電子カードキーは、人体に影響しない程度の微弱な電波を使用しています。

航空機に乗るときは

● 航空機に電子カードキーを持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

電子カードキーが使用できないときは

● 電池の消耗などにより電子カードキーが使用できないときは、エマージェンシーキー、またはメインキーを使用してください。

（電子カードキーが使用できないとき→ 237 ページ）

電子カードキーの電池寿命について

● 1 日 10 回程度の乗降で約 2 年です。（電子カードキーは車両との通信のために常に受信動作をしているため電池を消費しています）
ただし、電子カードキーのスイッチ操作（ドアの施錠・解錠など）の使用頻度が高い場合、または電子カードキーの保管状況によって著しく電池寿命が短くなるおそれがあります。

● 電子カードキーの電池残量が少なくなると、警告灯とブザー音でお知らせします。

（キーフリー電池残量警告→ 63 ページ）

● 下記のような強い電波を発するおそれのある機器の近くや車内、または車両の近くに電子カードキーを置かないでください。電子カードキーが常時通信状態になり、電池が著しく消耗します。
- テレビ
- オーディオ
- パソコン
- AC アダプター
- 携帯電話、コードレス電話
- 充電器
- 電気スタンド
- 低周波治療器などの医療用電気機器
- 液晶表示器
- モーター類

● ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

（キーの電池交換→ 207 ページ）

知識

メインキーについて

● 大切に保管しておいてください。

キーのご購入について

● 電子カードキーとメインキーはそれぞれ最大 4 個（合わせて8個）まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはダイハツサービス工場にご相談ください。

万一キーを紛失したときは

● キーナンバーをダイハツサービス工場にご連絡いただければ、純正キーを作ることができます。

キーフリーシステム

電子カードキーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。

●ドアを施錠・解錠する

●トランクを開ける

● エンジンの始動・モード切り替えをする

また、電子カードキーのスイッチを操作すると、次の操作が行えます。

●ドアを施錠・解錠する

●トランクを開ける

（ドアの施錠・解錠→ 66 ページ）
（トランクを開く→72 ページ）
（エンジンスイッチ→ 129 ページ）

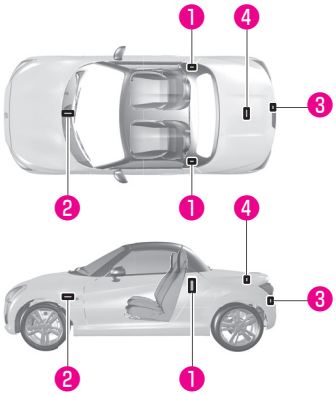
知識

● 電子カードキーは必ず運転者が携帯し、管理してください。

発信機

車両の発信機から発せられる電波を電子カードキーが感知することによって、キーフリーシステムが作動します。

▼ 発信機の位置



❶車外発信機

❷車内発信機

❸トランク外発信機

❹トランク内発信機

⚠ 警告

植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器を使用されている方へ

- 車室外発信機・車室内発信機から約 22㎝以内に近付かないようにしてください。
  ドア開閉時、各ドア・トランクのリクエストスイッチ操作時、エンジン始動時などに車両の発信機から発せられる電波により、植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器の作動に影響をあたえるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用されている方は、電波による影響について、医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。
  電波により、医療用電気機器の作動に影響をあたえるおそれがあります。

知識

発信機の電波を停止したいときは

- 発信機から発する電波を停止（キーフリーシステムを停止）させることもできます。詳しくは、最寄りのダイハツサービス工場にご相談ください。
- 発信機から発する電波を停止させたときは、エンジンスイッチに電子カードキー、またはメインキーを接触させなければエンジンを始動できません。（電子カードキーのリモコン操作は行えます）

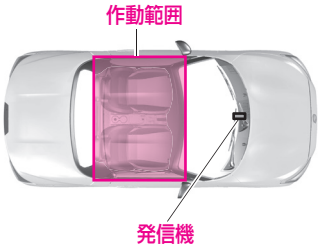
（エンジンのかけかた→ 238 ページ）

作動範囲

▼ リクエストスイッチ作動

▼ リモコン作動

▼ エンジンスイッチ作動



知識

● 周囲の状況により、作動範囲が変化することがあります。

リクエストスイッチ作動が正常に作動しないおそれのある状況

● 電子カードキーの携帯のしかたにより、リクエストスイッチを押しても施錠・解錠がされない場合があります。

● 下記のような場合は、電子カードキーが作動範囲にあっても、正常に作動しない場合があります。

- ドアの施錠・解錠時に、電子カードキーをドアガラスやドアハンドル周辺に近付けすぎたとき
- トランクを開閉するときに、電子カードキーをトランクのリクエストスイッチ周辺に近付けすぎたとき
- トランクを閉めるときに、電子カードキーをトランクの上に置いているとき
- 地面の近く、もしくは高い場所に電子カードキーがあるとき

知識

エンジンスイッチ作動が正常に作動しないおそれのある状況

- インストルメントパネルの上や中（グローブボックス内など）・荷室・ドアポケット内など、電波を感知しない場所があります。
- 車外でもドアやドアハンドルに近付きすぎた場合は、エンジン始動が可能になることがあります。

キーフリーシステムが正常に作動しないおそれのある状況

- 近くに下記のような強い電波を発生する設備があるとき
  - TV 塔
  - 発電所
  - 放送局
  - 電光掲示板
  - ガソリンスタンド
  - コインパーキング
- 無線機や携帯電話などの無線通信機器やポータブルオーディオ、または他車の電子カードキーと一緒に携行したとき
- 電子カードキー本体が金属製の物と接していたり、覆われたりしているとき
- 電子カードキーの電池が消耗しているとき

警告ブザー、メーター表示による警告

キーフリーシステムでは、誤操作や車両の盗難を防ぐために、警告ブザーとメーター表示で警告を行います。

電子カードキー持ち出し警告

▼ 原因
- エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、いずれかのドアを開けて電子カードキーを車外に持ち出しドアを閉める

▼ 警告音
- 車内で「ピピピピピ」、車外で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴る

▼ メーター表示
- キーフリー警告灯が高速点滅する

▼ 対処方法
電子カードキーを携帯して乗車してください。

知識
- ドア開閉をせずに電子カードキーを車外に持ち出したときは、警告は行われません。
- 電子カードキーを車外に置いたまま、いずれかのドアを一度開けてから閉めたときも、同様の警告が行われます。

エンジンスイッチ切り忘れ警告 ①

▼ 原因
- エンジンスイッチが“ACC”のときに運転席ドアを開ける

▼ 警告音
- 車内で「ピッピッピッ・・・」と警告ブザーが鳴り続ける

▼ 対処方法
エンジンスイッチを“OFF”にして、ドアを閉めてください。

エンジンスイッチ切り忘れ警告 ②

▼ 原因
- エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、ドアのリクエストスイッチで施錠しようとする

▼ 警告音
- 車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴る

▼ 対処方法
エンジンスイッチを“OFF”にして、ドアを施錠してください。

電子カードキー置き忘れ警告

▼ 原因
- 車内に電子カードキーが放置された状態で、ドアのリクエストスイッチで施錠しようとする

▼ 警告音
- 車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴る

▼ 対処方法
電子カードキーを携帯して、ドアを施錠してください。

半ドア警告

▼ 原因

●いずれかのドアが開いているとき（半ドア警告灯が点灯時）に、

- ドアのリクエストスイッチで施錠しようとする
- 電子カードキーのリモコン操作でドアを施錠しようとする

▼ 警告音

●車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴る

▼ 対処方法

すべてのドアを閉めてから施錠してください。

電子カードキー閉じ込み警告①

▼ 原因

Ⓐ車内に電子カードキーが放置された状態で、車内の運転席ドアのロックレバーを施錠方向に押し込み、運転席アウターハンドルを引いたままドアを閉めた

Ⓑトランクに電子カードキーが放置された状態で、トランクを閉めた

▼ 警告音

Ⓐ車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、同時にすべてのドアが解錠する

Ⓑ車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、トランクが開く

▼ 対処方法

電子カードキーを携帯して、

Ⓐドアを施錠してください。

Ⓑトランクを閉めてください。

電子カードキー閉じ込み警告②

▼ 原因

●エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のときに、すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドアロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めた

▼ 警告音

●車外で「ピーッ」と警告ブザーが鳴り、同時にすべてのドアが解錠する（エンジンスイッチが“ACC”のときは、警告ブザーは鳴りません）

▼ 対処方法

電子カードキーを携帯して、ドアを施錠してください。

キーフリー電池残量警告

▼ 原因
- 電子カードキーの電池切れが近いときに、エンジンスイッチを“OFF”にした

▼ 警告音
- 車内で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴る

▼ メーター表示
- キーフリー警告灯が点滅する

▼ 対処方法
新しい電池に交換してください。

（キーの電池交換→ 207 ページ）

ハンドルロック未完了警告

▼ 原因
- 運転席ドアが開いているときに、エンジンスイッチを“ON”から“OFF”にする

▼ 警告音
- 車内で「ポーン ポーン ポーン・・・」と警告ブザーが鳴り続ける

▼ 対処方法
運転席ドアを閉めてください。

キー無し警告

▼ 原因
- 電子カードキーを携帯せずにエンジンスイッチを押した

▼ メーター表示
- キーフリー警告灯が点滅する

▼ 対処方法
- 電子カードキーを携帯してエンジンスイッチを押してください。
- 電子カードキーを携帯してエンジンスイッチを押しても、キーフリー警告灯が点滅する場合は、電子カードキーの電池が切れています。新しい電池と交換してください。
（一時的な対処として、電子カードキーをエンジンスイッチに接触させるとエンジン始動が可能です）

（キーの電池交換→ 207 ページ）
（電子カードキーが使用できないとき→ 237 ページ）

キーフリーシステム異常警告

▼ 原因
- キーフリーシステムに異常がある

▼ メーター表示
- キーフリー警告灯が点灯する

▼ 対処方法
ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

メーター表示

キーフリー警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチに関係なく、キーフリーシステムに異常があると点灯します。
- 下記の場合に点滅します。
  - 電子カードキーを携帯せずにエンジンスイッチを押したとき
  - エンジンスイッチが“ACC”または“ON”で、いずれかのドアを開けて電子カードキーを車外に持ち出しドアを閉めたとき
  - 電子カードキーの電池切れが近い状態で、エンジンスイッチを“OFF”にしたとき

（警告ブザー、メーター表示による警告 → 60 ページ）

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

ドア

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

- ドアの開閉は確実に行ってください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながったり、運転者や同乗者、または荷物が車から投げ出されるおそれがあります。
- 走行中は絶対にドアを開けないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確認してください。いきなり開けると後続車にぶつかるおそれがあり危険です。風が強いときは特に注意してドアを開けてください。
- 車から離れるときは、必ずエンジンを止め施錠してください。無人で車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。
- お子さまに各ドアの開閉をさせたり、いたずらをさせないでください。思わぬ事故の原因となるおそれがあります。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

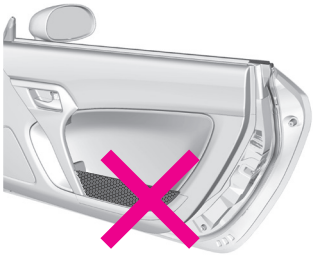
知識

車を離れるときは

- ドアハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- 貴重品などを車の中に置いたままにしないでください。

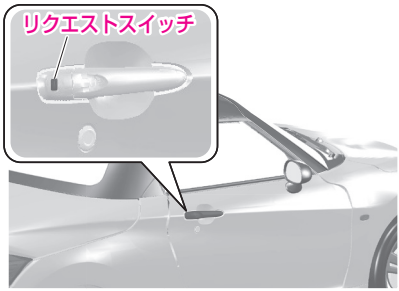
ドアを開閉するときは

- ドアポケット部分に手をかけてドアの開閉を行わないでください。



車外からの施錠・解錠

キーフリーシステム

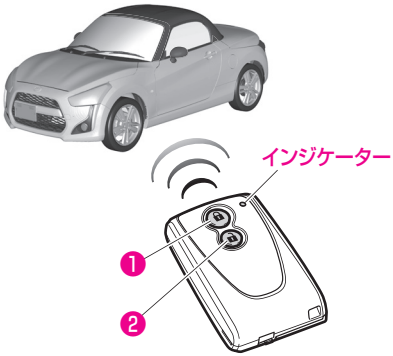


▼ 操作方法

1 電子カードキーを携帯する

2 ドアのリクエストスイッチを押すと、すべてのドアが施錠・解錠される

リモコン操作



▼ 操作方法

❶:スイッチを押すと、すべてのドアが施錠される

❷:スイッチを押すと、すべてのドアが解錠される

⚠ 注意

●ドアおよびトランクのリクエストスイッチは強い力で押したり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

知識

ドアの施錠・解錠ができない状況

●エンジンスイッチが“ACC”、または“ON”のとき
●いずれかのドアが開いているとき

リクエストスイッチの取扱いについて

●リクエストスイッチは確実に押して、施錠・解錠したことを確認してください。スイッチを早押しした場合、施錠・解錠されないことがあります。
●電子カードキーを携帯している人が作動範囲にいるときは、携帯していない人でも、同じ作動範囲のリクエストスイッチでの施錠・解錠が可能です。

ドアのタイマーロック機能について

●ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

車内からの施錠・解錠

▼ 操作方法

施錠：ロックレバーを車両前方に押込む

解錠：ロックレバーを車両後方に引く

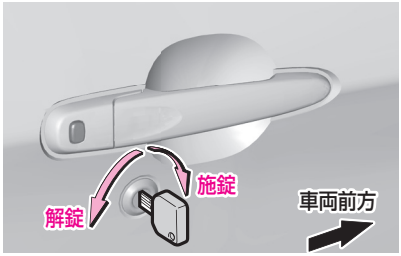
車外からキーを使用した施錠・解錠

知識

セキュリティアラームがセットされている場合

- キーを差して解錠しドアを開けると、セキュリティアラームが作動します。
  アラームが作動した場合は、ただちに「セキュリティアラーム作動の停止方法」にしたがって、警報を停止させてください。

（セキュリティアラーム作動の停止方法→ 51 ページ）



▼ 操作方法

キーを確実に差し込み、

施錠：車両前方に回す

解錠：車両後方に回す

知識

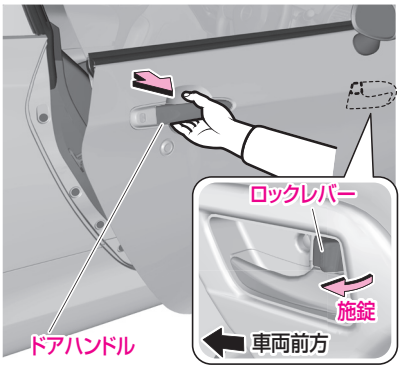
- キーは挿入口に確実に差し込んでください。
- キー挿入口は助手席側ドアには設定していません。

車外からキーを使用しない施錠

知識

- キーを使用せずにドアを施錠するときは、キーを手に持っていることを確認してからドアを閉めてください。キーを閉じ込めてしまうおそれがあります。

運転席ドア



▼ 操作方法

1 ロックレバーを車両前方に押し込む

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉めると、施錠される

助手席ドア

▼ 操作方法

1 ロックレバーを車両前方に押し込む

2 ドアを閉めると、施錠される

ドアの施錠・解錠の合図（アンサーバック）

ブザーと非常点滅灯の点滅でお知らせします。

施錠：1 回

解錠：2 回

知識

- ドアの施錠・解錠と連動して、室内照明（スイッチ位置が "DOOR" のとき）は点灯・消灯します。
（ドア連動機能→ 172 ページ）
- アンサーバックの設定を変更することができます。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

パワードアロック

運転席ドアを施錠・解錠すると、連動して助手席ドアが施錠・解錠します。

キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。
以下の状態で作動します。

- エンジンスイッチが“ACC”か“ON”のとき、または車内に電子カードキーがあるとき

▼ キー閉じ込み防止機能が作動するとき

以下の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- 車内の運転席ドアのロックレバーを施錠方向に押し込み、運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドアロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき

知識

- 必ずキーを携帯していることを確認してから施錠してください。

閉じ込み防止機能が作動しないおそれのある状況

- 電子カードキーの状態（電池の消耗、車内での位置等）や周囲の電波状況により、施錠されることがあります。

トランク

⚠ 警告

けがや事故を防ぐために

- 以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - トランクを開けたときは、いっぱいに持ち上げて降下しないことを確認してください。不十分な開け方ではトランクが不意に閉じるおそれがあります。特に傾斜した場所では、トランクの開閉がしにくい場合があります。平坦な場所で開閉をおこなってください。
  - トランクを閉じるときに自分や他の人の手などをはさまないように注意してください。
  - トランクを閉じるときは、トランク後端部中央を押さえ込むようにゆっくり閉じてください。両サイドに手を添えて閉じると手や指をはさみけがをするおそれがあります。
  - トランクを閉じたときはトランクを軽く押さえ確実にロックされていることを確認してください。走行中にトランクが開くと大変危険です。
  - トランクを開けた状態で走行しないでください。荷物が道路に落下するなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするときは、排気管の後方に立たないでください。排気熱でやけどをするおそれがあります。

お子さまを乗せているときは

- トランクでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などになるおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉をさせないでください。不意にトランクが動いたり、閉めるときに頭をぶつけたり、首や手を挟んだりするおそれがあります。

⚠ 注意

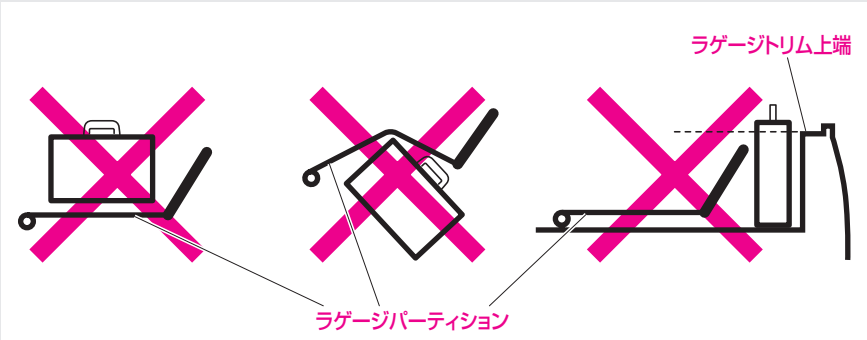
- トランクを開閉する際など、トランクに過大な力をかけすぎると油圧ダンパーが損傷しトランクの開閉がしにくくなるおそれがありますので、トランク後端部中央をゆっくり操作してください。
- 雨、雪などでトランクが濡れているときは、ふき取ってからトランクを開けてください。
- 格納したルーフとトランクリッドのすきまから荷物などを出し入れしないでください。アクティブトップ機構が損傷するおそれがあります。

ラゲージパーティションを取り付けたときは

- トランク内に荷物を載せるときは、以下のことをお守りください。お守りいただかないとアクティブトップを開閉するときに、アクティブトップ機構や荷物を損傷するおそれがあります。

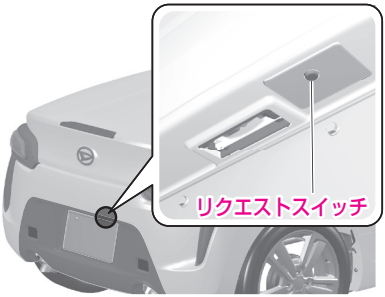
（ラゲージパーティション→ 81 ページ）

  - ラゲージパーティションの上に荷物などを置かないでください
  - ラゲージパーティション下側には荷物を置かないでください。
  - ラゲージパーティションの後ろに荷物を載せるときは、ラゲージトリム上端より高くなる様な荷物は載せないでください。



車外からトランクを開く

キーフリーシステム



▼ 操作方法

1 電子カードキーを携帯する

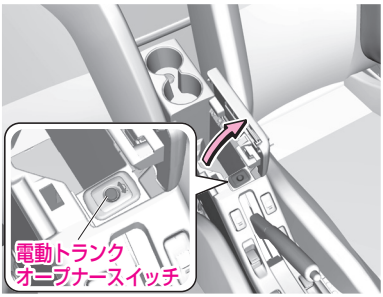
2 トランクのリクエストスイッチを押すと、トランクが開く

リモコン操作

▼ 操作方法

UNLOCK スイッチを約 2 秒間押し続けると、トランクが開く

車内からトランクを開く



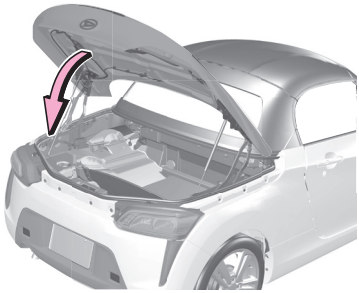
コンソールボックス内の電動トランクオープナースイッチを押す

知識

アクティブトップが作動しているときは

●トランクは開きません。 アクティブトップの作動が完了してから、トランクを操作してください。

トランクを施錠する



トランクリッドを静かに下げ、上から手で押さえる

イージークローザー機構

トランクリッドを閉めると、自動でロック機構がはたらきます。

知識

●トランクを閉じるときは、 強い力で押さえすぎないでください。

●イージークローザーが作動中はトランクに無理な力をかけないでください。 無理な力をかけると故障の原因になります。

キー閉じ込み防止機能

キーをトランクに置いたまま、 施錠することを防ぐ機能です。

● キーをトランクに置いた状態でトランクを閉めると、警告ブザーが鳴って、トランクが開きます。

知識

● 必ずキーを携帯していることを確認してからトランクを閉めてください。

● 電子カードキーをトランク周辺に近付けすぎると、キー閉じ込み防止機能が作動することがあります。

閉じ込み防止機能が作動しないおそれのある状況

● 電子カードキーの状態（電池の消耗、車内での位置等）や周囲の電波状況により、施錠されることがあります。

パワーウインド

⚠ 警告

けがや事故を防ぐために

- パワーウインドは大変強い力で開閉しますので、開閉するときは、ほかの人の手･腕･頭･首などを挟んだり巻き込んだりしないよう注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまにパワーウインドの操作をさせないでください。開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。お子さまを乗せているときは、パワーウインド OFF スイッチを“OFF”にしてください。

⚠ 注意

故障を防ぐために

- 以下のことをお守りください。お守りいただかないと、故障の原因となります。
  - 運転席スイッチとほかのスイッチを同時に逆方向へ動かさない
  - ドアガラスを完全に開閉した状態でウインドスイッチを押し続けない
  - ガラスが凍りついて固着したような状態でウインドスイッチの“開”または“閉”を連続操作しない

バッテリーあがりを防ぐために

- パワーウインドの開閉はなるべくエンジン回転中に行ってください。

知識

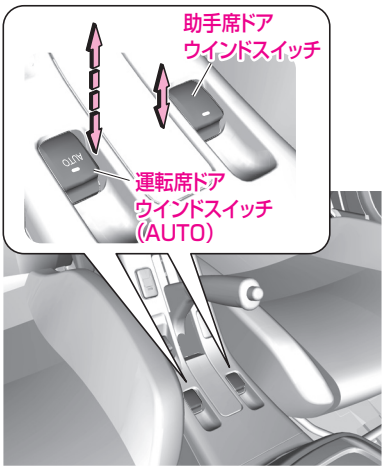
- エンジンスイッチを“ON”にすると、スイッチの照明が点灯します。

パワーウインドモーターの過熱保護機能について

- パワーウインドモーターには、過熱保護機能を内蔵しています。パワーウインドモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、過熱保護機能が作動し一時的にパワーウインドが停止することがあります。数十秒経過すると、通常どおり使用できるようになります。

開閉のしかた

エンジンスイッチが“ON”のとき、スイッチでドアガラスを開閉できます。



▼ 開きかた

● スイッチを軽く押し下げる

▼ 閉じかた

● スイッチを軽く引き上げる

運転席ドアガラス（AUTO）操作

▼ 自動全開

● スイッチを「カチッ」と音がするまで押し下げる

▼ 自動全閉

● スイッチを「カチッ」と音がするまで引き上げる

▼ 途中で止めるときは

● スイッチを軽く逆方向に操作する

知識

アクティブトップが完全に開閉していないときは

● パワーウインドは作動しません。アクティブトップの作動が完了してから、パワーウインドを操作してください。

運転席ドアガラス挟み込み防止機能

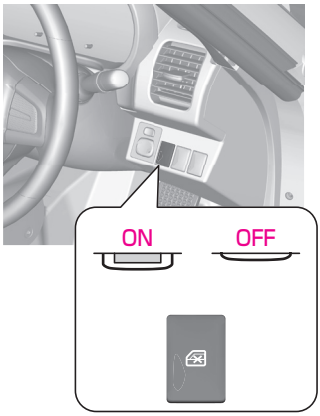
運転席ドアガラスを（AUTO）操作で閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動的に下降します。

知識

● 特に小さな物を挟み込んだとき、挟み込み防止機能が作動しないことがあります。

● 環境や走行条件により、異物を挟み込んだときと同じ衝撃がドアガラスに加わると、挟み込み防止機能が作動することがあります。

パワーウインド OFF スイッチ



スイッチを押し込むと“OFF”になり、ドアガラスの開閉ができなくなります。

スイッチをもう一度押すと解除されます。

アクティブトップ（電動開閉式ルーフ）

⚠ 警告

けがや事故を防ぐために

● 以下のことを必ずお守りください。守らないと、重大な傷害や思わぬ事故につながるおそれがあります。

アクティブトップを開閉するときは

- お子さまにアクティブトップの操作をさせないでください。誤った操作により、お子さまや他の人が首、頭、手などをアクティブトップに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- アクティブトップは各部が連動して作動します。アクティブトップ機構の近くに頭や手など身体がかかっていないことを必ず確認してください。
- アクティブトップの作動中に、首、頭、手などをはさんだり巻き込んだりしないようにしてください。万一、身体などがはさまれたときは、ただちに操作を中止してください。
- アクティブトップ部分に手をかけないでください。
- 強風時にはアクティブトップを開閉しないでください。
- 開閉が完了していない状態で長時間放置しないでください。アクティブトップが自重落下するおそれがあります（エンジンスイッチが“ON”のときは、10 分後に警告音が約 20 秒間鳴り続けます）
- 夜間などにアクティブトップを開閉するときは尾灯を点灯させ、車両後方に停止表示板などを置いてください。
  アクティブトップを開閉するときに尾灯の一部が隠れるため、自車の存在を知らせることができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行するときは

- アクティブトップが半開状態のままで絶対に走行しないでください。
- シートの上に立ったり、車体から身を乗り出さないでください。

開閉操作の前に

安全な開閉操作のために必ず次の状態でおこなってください。

- 交通のさまたげにならず、傾斜や段差がない平らな場所に停車する
- 駐車ブレーキをしっかりとかける
- アクティブトップの作動範囲に障害物がない
  （地上高：約 1.5 m、車両後方約 0.3m）
- アクティブトップやトランクの上に物がのっていない
- ドアガラスが凍結していない
- トランク内にアクティブトップ開閉作動の障害になるような荷物の載せかたをしない

（トランク→ 70 ページ）

作動条件

- 車両が停車状態である
  - CVT 車はシフトレバーを P にする
  - マニュアル車はシフトレバーが N で、駐車ブレーキがかかっている（駐車ブレーキがかかっていれば作動しますが、安全のためシフトレバーはニュートラルで操作してください。）
- エンジンがかかっている（エンジンスイッチが“ON”であれば作動しますが、正しく作動させるためにエンジンがかかっている状態で操作してください。）
- トランク内のラゲージパーティションが正しくセットされている
- トランクが閉まっている
- ルーフロックが解除されている
- 気温が－ 10℃以上である

（ラゲージパーティション→ 81 ページ）
（トランク→ 70 ページ）
（ルーフロック→ 81 ページ）

知識

気温について

- メーターのマルチインフォメーションの外気温表示と異なる場合があります。

開閉のしかた

スイッチ操作で、アクティブトップを開閉できます。

アクティブトップを開ける

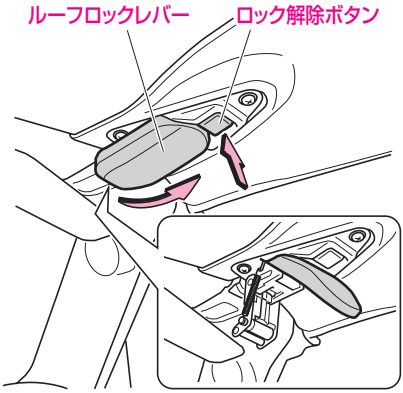
1 車両の状態が作動条件を満たしていることを確認する

（開閉操作の前に→78 ページ）

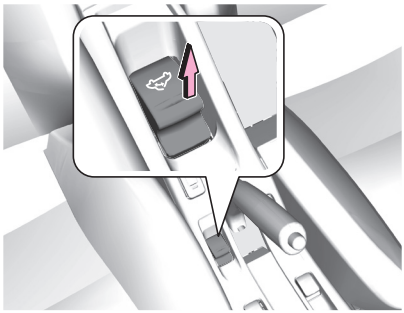
2 ルーフロックを解除する

●「ピッ」とブザーが鳴り、作動表示灯が点灯します。

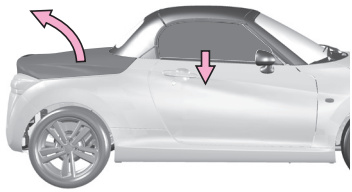
（アクティブトップ作動表示灯 → 82 ページ）

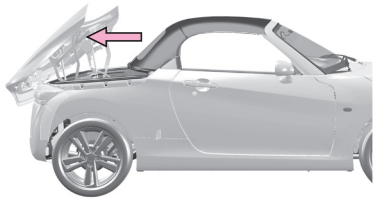


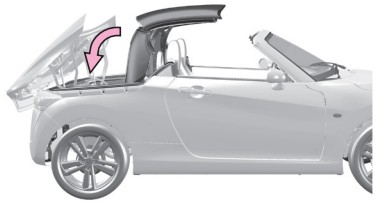
3 開閉スイッチを引き上げ続ける



4 ドアガラスが全開してアクティブトップが後方に開き、トランクに収納される







5 作動が完了すると「ピッ」とブザーが鳴り、作動表示灯が消灯する

アクティブトップを閉める

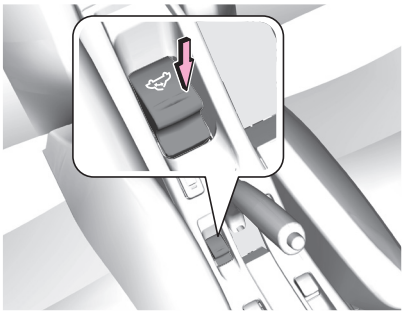
1 車両の状態が作動条件を満たしていることを確認する

（開閉操作の前に→78 ページ）

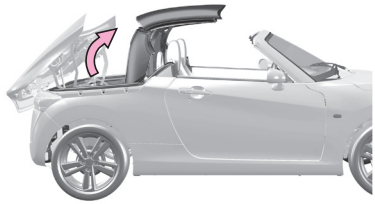
2 開閉スイッチを押し続ける

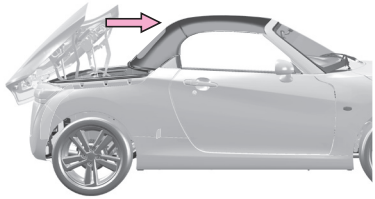
●「ピッ」とブザーが鳴り、作動表示灯が点灯します。

（アクティブトップ作動表示灯→82 ページ）

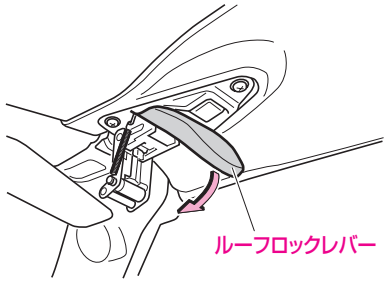


3 ドアガラスが全開してトランクが開き、アクティブトップが前方に移動して、トランクが閉まる





4 ルーフをロックする

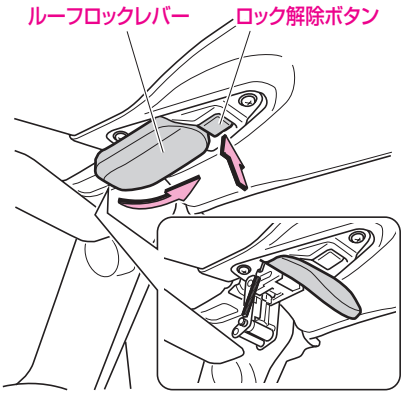


5 作動が完了すると「ピッ」とブザーが鳴り、作動表示灯が消灯する

アクティブトップの各機構

ルーフロック

左右 2 ヶ所に設定しています。



▼ 解除するとき

1 ロック解除ボタンを押す

2 ルーフロックレバーを完全に止まる位置まで引き起こす

▼ ロックするとき

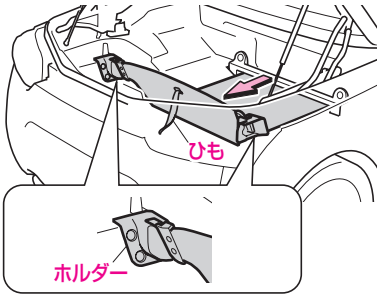
1 ルーフロックレバーを押し上げる

2 確実にロックしたことを確認する

ラゲージパーティション

アクティブトップを開いたときに、アクティブトップを収納するスペースを確保するために使用します。

● ラゲージパーティションを正しく取り付けることで、アクティブトップが操作できるようになります。



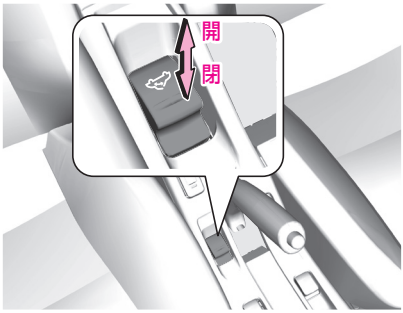
▼ 取り付けかた

ラゲージパーティションの先端にある引き出しひもを持ち、ラゲージパーティションを引き出し、ホルダーにかける

▼ 戻しかた

ホルダーからラゲージパーティションを外すと、自動的にラゲージパーティションが巻き取られる

開閉スイッチ



▼ 開けるとき

スイッチを引き上げ続ける

▼ 閉めるとき

スイッチを押し続ける

知識

開閉を途中で停止するときは

● スイッチから指を離すと開閉作動を中止し、アクティブトップが途中で停止します。

アクティブトップが開閉できないときは

●トランクを開けてください。トランクを閉じた後、もう一度アクティブトップを操作してください。

アクティブトップ作動表示灯

アクティブトップの状態を確認することができます。

作動表示灯	表示内容
点灯	半開状態
点滅 ※	作動不可状態 （いずれかの作動条件が成立していない）
消灯	全開または全閉の状態

※スイッチを操作したときのみ

知識

作動表示灯が点滅するときは

● 作動条件が成立していません。すべての作動条件が成立しているか確認してください。

● すべての作動条件が成立しているにもかかわらず、作動表示灯が点灯し、アクティブトップが開閉しないときは、バッテリー電圧の低下が考えられます。エンジンを始動してから開閉作動をおこなってください。

● すべての作動条件が成立しているにもかかわらず、作動表示灯が点灯または消灯したままアクティブトップが開閉しないときは、システムの異常が考えられます。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

半開警告チャイム

アクティブトップ作動が完了していない状態で走行すると、警告チャイムが鳴り続けます。この場合は、ただちに交通のさまたげにならず、安全に操作できる平らな場所に停車し、アクティブトップの作動を完了してください。

アクティブトップの取扱い

⚠ 注意

故障を防ぐために

● 以下のことをお守りください。お守りいただかないと、故障の原因となります。

アクティブトップを開閉するときは

- アクティブトップの作動範囲（地上高：約 1.5 m、車両後方約 0.3m）に障害物がないことを確認してください。
- パッケージトレイの上にはどんなに小さな物でも置かないでください。
- ドアガラスとルーフの接合部に異物がないことを確認してください。
- アクティブトップの上に座ったり、アクティブトップに荷重をかけないでください。
- 坂道や段差に乗り上げた状態で、アクティブトップを開閉しないでください。
- 気温が－ 10℃以下のとき、または凍結によりドアガラスが開かないときは、アクティブトップを開閉しないでください。
- 短時間に、繰り返しアクティブトップを開閉しないでください。モーターの保護制御が作動し、操作できなくなるおそれがあります。
- アクティブトップ作動時はルーフロックレバーを解除状態のままにしてください。
  レバーをロック状態に戻すと、クローズ作動時に車両を損傷する恐れがあります。

⚠ 注意

アクティブトップを開けるときは

- 必ずトランク内をラゲージパーティションで仕切ってください。
- ラゲージパーティションの上には荷物などを置かないでください。
- ラゲージパーティション下側には荷物を置かないでください。
- アクティブトップの上にたまった水や雪は取り除き、湿っていたり濡れているときは、よく拭き取ってください。内装材が傷んだり、汚れやしみがつくおそれがあります。
- リヤウインドデフォッガーを“OFF”にしてください。

知識

アクティブトップの開閉を数週間行わなかったときは

● アクティブトップの油圧が低下します。アクティブトップを作動させると作動音がしても、油圧が上昇し作動するまで少し時間がかかることがありますが、故障ではありません。
もう一度アクティブトップを操作すると、通常の作動時間に戻ります。

給油のしかた

▼ 給油をする前に

⚠ 警告

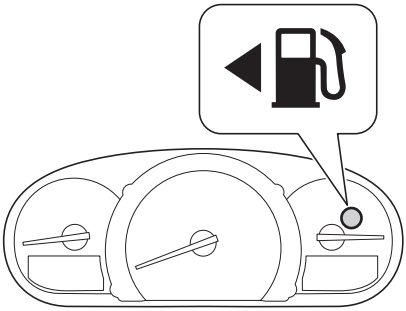
- 燃料は引火しやすいため、下記のことを守らないと火災につながり、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  - エンジンは必ず止めてください。
  - 車のドア、窓は閉めてください。
  - タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。
  - フューエルキャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花が引火するなどして、やけどのおそれがあります。
  - フューエルキャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方お一人で行ってください。
  - 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
  - フューエルキャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
  - フューエルキャップを少しゆるめた時に「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
  - 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布きれなどでふき取ってください。
  - こぼれた燃料が車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したままで放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。
  - 給油口にほかの人を近付けないでください。
  - 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
  - 給油機によっては、早期にオートストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリンスタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
  - 給油終了後、フューエルキャップを閉めるときは「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。
  - ダイハツ純正フューエルキャップ（指定）以外は使用しないでください。燃料漏れなどを起こすおそれがあり危険です。
  - その他ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油ができない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
- 燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、燃料の気化ガスを吸わないようにご注意ください。

⚠ 注意

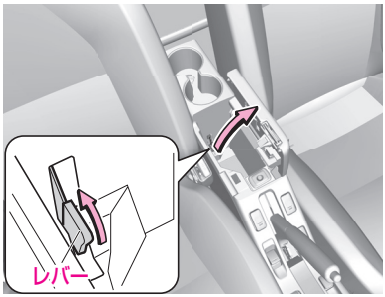
- 指定燃料は無鉛レギュラーガソリン、または無鉛プレミアムガソリンです。
  - 給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
  - 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま利用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

フューエルリッドの開閉

▼ フューエルリッドの位置



メーター内にフューエルリッドの車両取り付け方向を示しています。



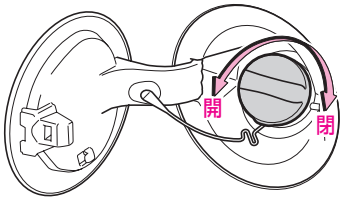
▼ 開けかた

コンソールボックス内にあるオープナーを引き上げる

▼ 閉めかた

リッドを押して閉める

フューエルキャップの開閉



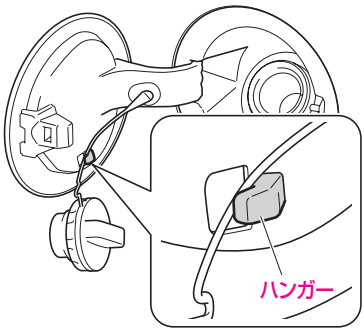
▼ 開けかた

左に回す

▼ 閉めかた

「カチッ」という音が一度するまで、右に回す

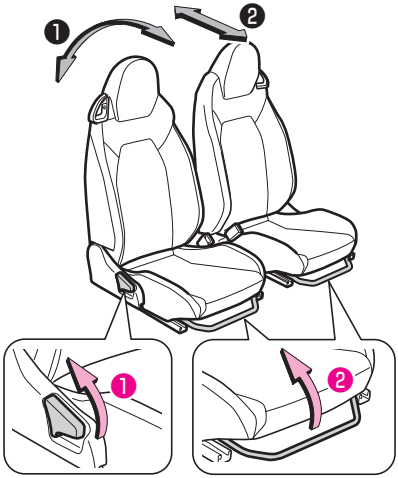
▼ 給油するときは



外したフューエルキャップをフューエルリッド裏面のハンガーにかけることができます。

車体各部の調整

シート



❶リクライニング操作

- レバーを引き上げながら背もたれ角度を調整します。

❷スライド操作

- レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。

⚠警告

- シートの調整は必ず走行前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

シートを調整するときは

- 次のことを守ってください。
  守らないと、けがをしたり、シートが破損したりするおそれがあります。
  - 手足を挟んだり、体にあたらないように十分注意する
  - シートの下や動いている部分に手足を近付けない
  - 同乗者や物に当てない

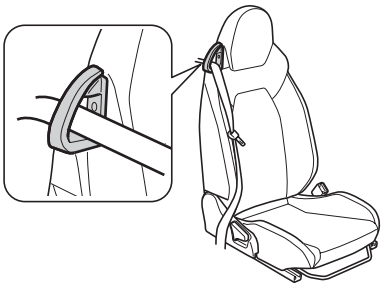
背もたれを調整するときは

- リクライニングレバーを引き上げるときは背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。
- 背もたれが急に戻るおそれがありますので、必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。

知識

背もたれを前に倒すときは

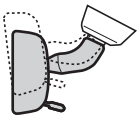
- フロントガラスの角に、顔や頭などをぶつけないように十分注意してください。
- シートベルトがガイドにかかっていると、シートを元に戻したあとにシートベルトが取り出せなくなることを防ぎます。



ルームミラー

防眩式ルームミラー

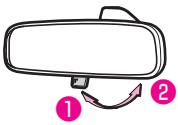
角度調整のしかた



ルームミラー全体を持って、角度を調整する

防眩機能

レバーを手前に引くと、後続車のヘッドライトの反射を減少させます。



❶防眩
❷通常

注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。
- 視界の調整をするときは、レバーを戻した状態でおこなってください。

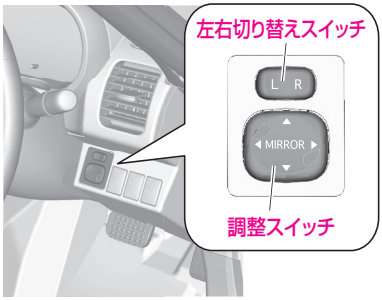
ドアミラー

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときにミラーの角度調整ができます。

⚠ 注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。
- ミラーを格納したまま走行しないでください。
- ミラーの操作を行う際は、ドアとミラーの間に手を挟まないように注意してください。

鏡面の角度調整のしかた



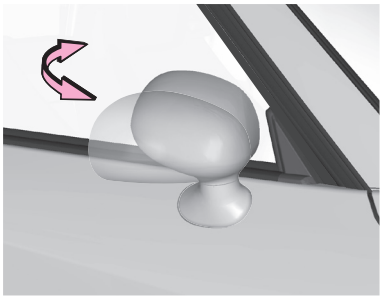
1 左右切り替えスイッチを調整したい側に合わせる

2 調整スイッチを操作して、鏡面の角度を調整する

知識

- 調整するとき以外は、左右切り替えスイッチを中立（中央）の位置に合わせておいてください。
- 中立（中央）の位置にすると調整操作ができません。

格納のしかた



ミラーを手で後方に倒して格納する

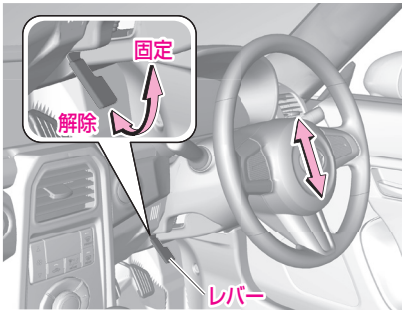
チルトステアリング

ハンドルの位置を運転しやすいように調整できます。

⚠ 警告

- 走行中はハンドル位置の調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。
- ハンドル位置の調整をしたあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドル位置が突然変わり、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

調整のしかた



1 レバーを押し下げる

2 ハンドルを上下に動かし適切な位置に調整する

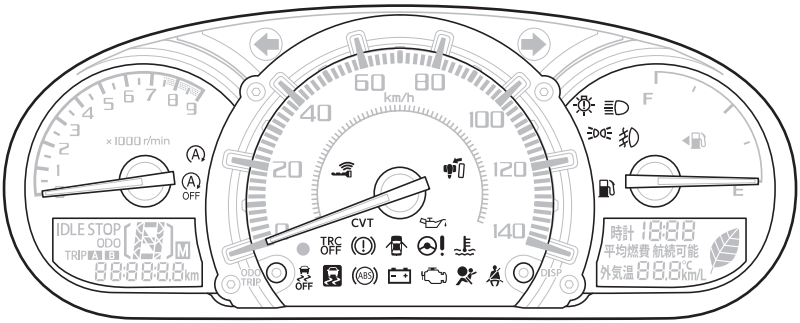
3 レバーを引き上げ固定する

計器類とスイッチ

警告灯、表示灯
警告灯 …… 92
表示灯 …… 101
メーターのはたらき
メーター …… 106
スイッチの使いかた
ライトスイッチ …… 115
フォグランプスイッチ …… 118
ワイパー・ウォッシャー
スイッチ …… 118
ホーンスイッチ …… 119
方向指示スイッチ …… 120
非常点滅灯スイッチ …… 120

警告灯、表示灯

警告灯、表示灯の有無やメーターのデザインは、グレードやオプション装備により一部異なることがあります。



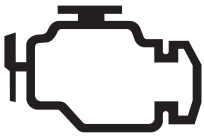
警告灯

さまざまなシステムの異常や、安全運転に関わる項目をメーター内に警告します。

⚠ 注意

- 警告灯が点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
  この場合、それぞれの警告灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- エンジンスイッチを“ON”にしても警告灯が点灯（または点滅）しないときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

エンジン警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン電子制御システムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠ 注意

点灯・点滅した場合

- ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

油圧警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

⚠ 注意

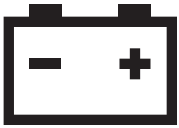
点灯した場合

- そのまま走行すると、エンジンが故障するおそれがあります。
  ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

知識

- 油圧警告灯は、オイル量を示すものではありません。オイル量の点検は、オイルレベルゲージで行ってください。
  （オイル量の点検方法は、別冊の「メンテナンスノート」参照）

充電警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、充電系統に異常（ベルトののび、損傷など）があると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車して、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

知識

- エンジン始動後に警告灯がしばらく点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。

ブレーキ警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、駐車ブレーキを完全に解除すると消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記の場合に点灯します。
  - 駐車ブレーキが完全に解除されていないとき
  - ブレーキ液の液量が不足しているとき
  - EBD 制御に異常があるとき
  （ABS（EBD 機能付）→ 140 ページ）

▼ **駐車ブレーキが解除されている場合**

エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

警告ブザー

駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h 以上で走行すると、ブザーが鳴ります。

駐車ブレーキを解除すると、ブザーが鳴りやみます。

⚠ 注意

- 制動時、常に異音（キーキー音など）が発生するときは、ブレーキパッドの摩耗が考えられます。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

エンジン回転中、駐車ブレーキを解除しても、点灯したまま消灯しない場合

- ブレーキ液量の不足が考えられます。
  この場合、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。
  効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏み、ただちに安全な場所に停車して、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合

- 強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
  ただちに安全な場所に停車して、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

水温警告灯（赤色）

- エンジンスイッチを“ON”にすると赤色に点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、エンジン冷却水温が異常に高くなると赤色に点滅し、その後、さらに水温が高くなると点灯に変わります。

⚠ 注意

赤色に点滅・点灯した場合

- エンジン冷却水温の異常な上昇によるオーバーヒートが考えられます。
  ただちに安全な場所に停車して、処置を行ってください。

（オーバーヒートの処置→ 235 ページ）

知識

エンジン冷却水温が低いときは

- 水温表示灯としてはたらき、青色に点灯します。

（水温表示灯（青色）→ 102 ページ）

警告ブザー

エンジン冷却水温の異常な上昇により、警告灯が赤色点滅、または赤色点灯しているときは、ブザーが鳴ります。

知識

- ブザーは警告灯が赤色点滅時は断続的に鳴り、警告灯が赤色点灯に変わると同時に連続音に変わります。

CVT 警告灯

CVT 車

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、CVT システムに異常があると点滅します。

⚠ 注意

点滅した場合

- ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

シートベルト未装着警告灯（運転席・助手席）

- エンジンスイッチが“ON”で、運転席・助手席の乗員がシートベルトを着用していないと点滅します。
- シートベルトを着用すると消灯します。

知識

助手席の乗員検知センサーについて

- 助手席シート座面に、ある一定の重量がかかったときに検知します。このため、荷物などを置いた場合にも検知し、警告灯が点滅することがあります。
- 助手席シート座面上に座布団などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

警告ブザー

シートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

知識

- 一度警告ブザーが鳴ると、たとえ約20km/h以下で走行しても、約2分間鳴り続けますので、走行するときは必ずシートベルトを着用してください。
- ブザーが鳴り始めてから、約 30 秒後に断続音の速さが変わります。

半ドア警告灯

エンジンスイッチに関係なく、いずれかのドアを開けると点灯し、すべてのドアを完全に閉めると消灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- 警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 警告灯が点灯した場合は、もう一度ドアを閉めなおして、警告灯が消灯したことを確認してください。
  消灯しないときや、再び点灯するときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

燃料残量警告灯

エンジンスイッチが“ON”のとき、燃料残量が約4.5ℓ以下になると、燃料残量警告灯が数回点滅した後、点灯します。

（燃料計→ 107 ページ）

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちに燃料を給油してください。
  燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

知識

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

警告ブザー

燃料残量警告灯が点滅すると、ブザーが鳴ります。

ABS 警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、ABS に異常があると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- 通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABS としての作動はしません）、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

ブレーキ警告灯と同時に点灯した場合

- ABS に異常があるだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。ただちに安全な場所に停車して、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

知識

- 走行中に警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、点灯・消灯をくり返す場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

SRS エアバッグ警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼ 異常があると点灯するシステム

- SRS エアバッグ
  （SRS エアバッグ→ 42 ページ）
- プリテンショナー機構
  （プリテンショナー機構→ 35 ページ）

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

LED ヘッドランプ警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、ライトスイッチが“≡D”のとき、LED ヘッドランプに異常があると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

- ライトスイッチを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“OFF”にするまで点灯し続けます。

電動パワーステアリング警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると数秒後に消灯します。
- エンジンが回転中で、電動パワーステアリングシステムに異常があると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

- ハンドル操作を行ったとき、モーター音（「ウィーン」という音）が聞こえることがあります。
  これは、パワーステアリングモーターが作動しているときの音で、異常ではありません。
- 停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防止するため、パワーステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなります。
  この場合、しばらくハンドル操作を控えてください。
  ハンドル操作をしないまま約 10 分が経過すると、通常の重さに戻ります。

VSC & TRC 警告灯

（VSC & TRC 警告灯→ 145 ページ）
（VSC → 142 ページ）
（TRC → 143 ページ）

キーフリー警告灯

（キーフリー警告灯
→ 64 ページ）

表示灯

車両のさまざまな状態をメーター内に表示します。

⚠ 注意

- 表示灯によっては、点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
  この場合、それぞれの表示灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 点灯操作を行っても、表示灯が点灯しないときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

方向指示表示灯・非常点滅表示灯

方向指示表示灯

エンジンスイッチが“ON”で、方向指示灯を点滅させると、同時に表示灯が点滅します。

非常点滅表示灯

- エンジンスイッチに関係なく、非常点滅灯を点滅させると、同時に左右の表示灯が点滅します。
- 約 60km/h 以上で走行中に急ブレーキをかけると、自動で非常点滅灯が高速点滅し、同時に左右の表示灯が高速点滅します。

（エマージェンシーストップシグナル
→ 148 ページ）

知識

点滅する間隔が異常に速くなった場合

- 方向指示灯（非常点滅灯）の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドランプ上向き表示灯

エンジンスイッチに関係なく、ヘッドランプを上向きの状態にすると点灯します。

テールインジケーター

エンジンスイッチに関係なく、車幅灯を点灯させると点灯します。

フォグランプ表示灯

エンジンスイッチに関係なく、フォグランプを点灯させると点灯します。

（フォグランプスイッチ→ 118 ページ）

水温表示灯（青色）

エンジンスイッチが“ON”で、エンジン冷却水温が低いとき、青色に点灯します。

⚠ 注意

● エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

暖機を十分続けていても青色に点灯したままの場合

● ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

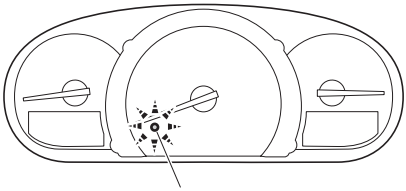
知識

エンジン冷却水温が異常に高いときは

● 水温警告灯としてはたらき、赤色に点滅・点灯します。

（水温警告灯（赤色）→ 95 ページ）

セキュリティインジケーター



- エンジンスイッチを“ACC”から“OFF”にして、イモビライザー機能を作動させると点滅します。
- エンジンスイッチを“OFF”から“ACC”にして、イモビライザー機能を解除すると消灯します。

（イモビライザー機能→ 48 ページ）

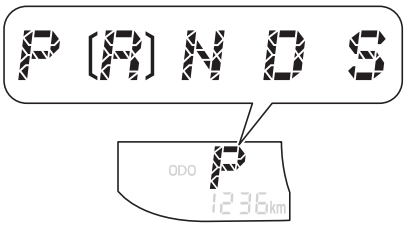
知識

- キーフリー操作または電子カードキーのリモコン操作でドアを施錠してセキュリティアラームがセットされると、約 30 秒間点灯に変わります。

（セキュリティアラーム→ 48 ページ）

CVT シフトインジケーター

CVT 車

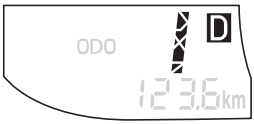


- エンジンスイッチが“ON”のとき、使用中のシフトレバーの位置が点灯します。
- R レンジにすると、“[ ]”が点滅します。

シフトレンジ表示灯

CVT 車

〈マニュアルモード〉



〈一時的なマニュアルモード〉

シフトがマニュアルモード、または一時的なマニュアルモードになったときに、現在使用中のシフトレンジが表示されます。

（シフトレバー（CVT 車）→ 135 ページ）

eco IDLE 表示灯

CVT 車

（eco IDLE 表示灯→ 155 ページ）

eco IDLE OFF 表示灯

CVT 車

（eco IDLE OFF 表示灯→ 156 ページ）

VSC OFF 表示灯

（VSC OFF 表示灯→ 146 ページ）
（VSC → 142 ページ）

TRC OFF 表示灯

（TRC OFF 表示灯→ 146 ページ）
（TRC → 143 ページ）

ブレーキオーバーライドシステム表示灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれ、ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに点灯します。

（ブレーキオーバーライドシステム
→ 122 ページ）

知識

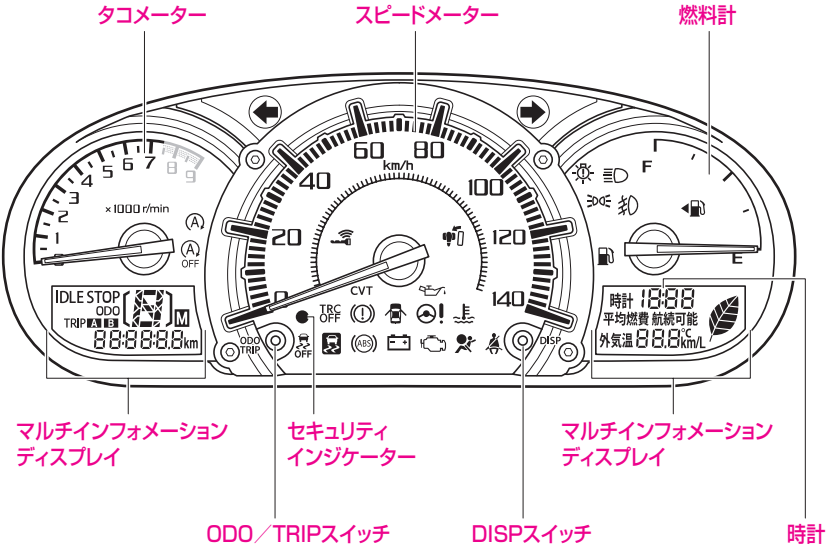
点灯した場合

- アクセルペダル、またはブレーキペダルから足を離してください。

メーターのはたらき

メーター

警告灯、表示灯の有無やメーターのデザインは、グレードやオプション装備により一部異なることがあります。



知識

エンジンスイッチ“ON”時のメーター演出

- マルチインフォメーションディスプレイのデジタル数字が、上の桁から順に左へシフトしながら表示されます。
- メーターの全ての指針が一度最大値を指し、すみやかに戻ります。

メーター照明

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、“ACC”または“OFF”にすると、消灯します。
- メーター照明には昼間用と夜間用があり、次のときに切り替わります。

昼間用

周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているとき

夜間用

周囲が暗いときに車幅灯を点灯しているとき

- 夜間用になると、メーター照明が減光します。

知識

●メーター照明の照度は調整することができます。また、夜間用になったときに、減光しないようにすることもできます。

（照度調整→ 110 ページ）

スピードメーター

走行速度を km/ hで表示します。

タコメーター

1分間当たりのエンジン回転数を示します。

注意

●指針が赤色表示域（エンジンが許容回転数を超える範囲）に入らないよう運転してください。赤色表示域に入ると、エンジンが損傷するおそれがあります。

燃料計

エンジンスイッチが“ON”のとき、燃料残量を表示します。

燃料が少なくなると、燃料残量警告灯が点滅・点灯します。

（燃料残量警告灯→ 97 ページ）

注意

燃料残量警告灯が点灯した場合

●ただちに燃料を給油してください。
燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

時計

エンジンスイッチが“ON”のとき、時計を表示します。

●DISP スイッチで、時計を調整します。

（時計調整→ 113 ページ）

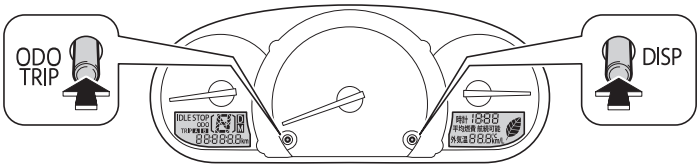
知識

●バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、時計表示がリセットされ、“1:00”が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ

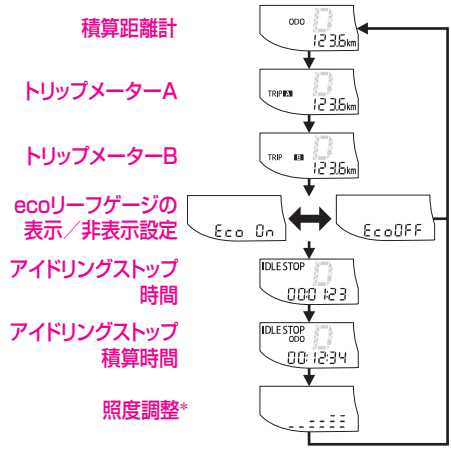
エンジンスイッチが“ON”のとき表示します。

● ODO/TRIP スイッチ、または DISP スイッチを押すごとに、表示が切り替わります。

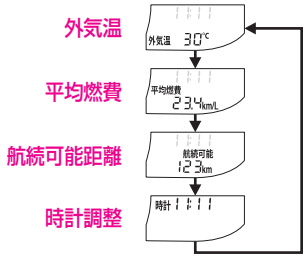


▼ ODO/TRIP スイッチによる切り替わりかた

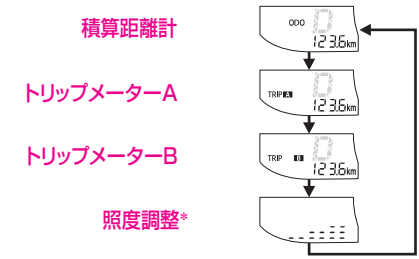
CVT 車



▼ DISP スイッチによる切り替わりかた



マニュアル車



→：短押し
➡：長押し（1秒以上）

＊：車幅灯が点灯しているときに表示されます。

オドメーター（積算距離計）

走行した総距離を表示します。

トリップメーター（区間距離計）

リセットした地点からの走行距離を表示します。

●トリップメーターは、同時に 2 つの区間の走行距離を表示することができます。

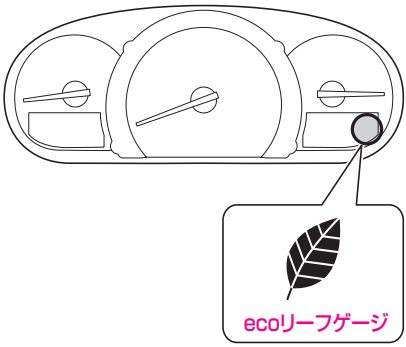
▼ トリップメーター表示をリセットするには

●リセットするトリップメーター（A または B）を表示させ、ODO/TRIP スイッチを押し続けると、表示が“0.0”になります。

eco リーフゲージの表示／非表示設定

CVT 車

“Eco On”“Eco OFF”を切り替えることで、eco リーフゲージの表示、非表示を切り替えることができます。



▼ 切り替え方法

1 ODO/TRIP スイッチを押して、“Eco On”（または“Eco OFF”）を表示する

2 スイッチを約 1 秒以上押し続けるごとに、“Eco On”“Eco OFF”が切り替わる

（eco リーフゲージ→ 114 ページ）

アイドリングストップ時間

CVT 車

エンジンスイッチを“ON”にしてからのeco IDLEによるアイドリングストップ時間を表示します。

▼ アイドリングストップ時間表示のリセットについて

- エンジンスイッチを“OFF”にすると、表示がリセットされます。
- リセット後、エンジンスイッチを“ON”にすると、表示が“00:00:00”になります。

アイドリングストップ積算時間

CVT 車

表示をリセットしてからの eco IDLE によるアイドリングストップ積算時間を表示します。

▼ アイドリングストップ積算時間表示をリセットするには

- アイドリングストップ積算時間を表示させ、ODO/TRIP スイッチを押し続けると、表示が“00:00:00”になります。

照度調整

夜間用のメーター照明を調整します。

明るさ	表示	照度レベル
明るい		レベル1
↑		レベル2
↓		レベル3
暗い		レベル4

▼ 操作方法

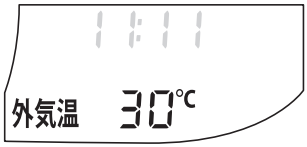
1. 周囲が暗く車幅灯が点灯しているときに、ODO/TRIP スイッチを押して、照度調整を表示する
2. スイッチを約 1 秒以上押し続けている間、メーター照明の明るさが左表のように切り替わる

知識

- “レベル 1”に設定すると、夜間用になったときにメーター照明が減光しません。

外気温

外気温度を表示します。



▼ 路面凍結警告表示

外気温度が 3℃以下になると、温度表示が点滅し、路面凍結の可能性があることをお知らせします。

知識

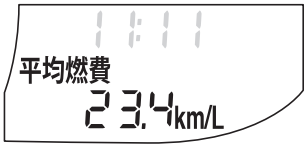
- ほかの計測装置により計測した外気温とは、異なることがあります。
- エンジンスイッチを“ON”にした直後は、外気温が表示されないことがあります。
- 表示範囲は、「－ 30 ～ 50℃」です。
- 異常検出したときの表示は、「－－℃」です。
- 下記の場合は、正しい外気温が表示されないことがあります。
  - 停車しているときや低速走行しているとき
  - 外気温が急激に変化したとき（トンネルの出入り口付近など）
- 実際の外気温が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温表示が変動することがあります。

路面凍結警告表示

- 路面凍結警告表示は目安です。必ず路面状況を確認してください。
- エンジンスイッチを“ON”にしたとき、外気温度がすでに 3℃以下の場合、警告表示されません。
- 路面凍結警告がいったん表示されると、外気温度が 4℃以上に上がってから、3℃以下に下がらないと再び警告表示されません。

平均燃費

表示をリセットしてからの平均燃費を約 10 秒ごとに更新して表示します。



▼ 平均燃費表示をリセットするには

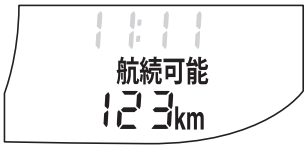
● 平均燃費を表示させ、DISPスイッチを約 1 秒以上押し続けると、表示が“0.0km/L”になります。

知識

● エンジンスイッチを“ON”にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。
● 最大表示は、「99.9km/L」です。
● 表示を更新するときにデータが受信できない、または無効なデータを受信した場合は、平均燃費が表示されません。

航続可能距離

現在の燃料残量と過去の燃費から航続可能距離を算出します。



⚠ 注意

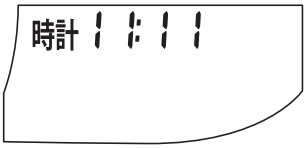
● 航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計が“E”に近付くか、燃料残量警告灯が点灯したら、早めに燃料を給油してください。

知識

● 表示の更新時間は、運転状況（走行中・停車中）によって異なります。
● 新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
● 表示される航続可能距離は、過去の燃費をもとに計算しているため、運転方法・道路状況により増減することがあります。
● 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
● 最大表示は、「999km」です。
● 異常検出したときは、航続可能距離がしばらく表示されないことがあります。
● バッテリーとの接続が断たれたときは、学習した燃費はリセットされます。

時計調整

時計の調整ができます。



▼“時”“分”を調整する

1 DISP スイッチを押して、時計調整表示に切り替える
（“時計”が表示）

2 スイッチを約 1 秒以上押し続け、時計調整モードにする
（“時”“分”が点滅）

●操作をせずに約 10 秒経過すると、時計調整モードが終了し、外気温表示に替わります。

3 スイッチを押して、“分”調整モードにする
（“分”が点滅）

4 スイッチを押して、“分”を調整する

●スイッチを押し続けると、早送りします。

5 操作をせずに約 5 秒待機する
（“時”が点滅）

6 スイッチを押して、“時”を調整する

●スイッチを押し続けると、早送りします。

7 操作をせずに約 5 秒経過すると、時計調整モードが終了し、外気温表示に替わる

▼“分”を「：00」にする（時報合わせ）

1 時計調整モード中に、スイッチを約 1 秒以上押し続ける

（例）1:00 ～ 29 → 1:00

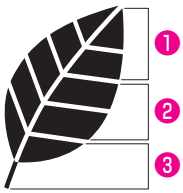
（例）1:30 ～ 59 → 2:00

2 “分”が：00 に替わると、時計調整モードが終了し、外気温表示に替わる

eco リーフゲージ

CVT 車

eco リーフゲージの表示／非表示の設定が“Eco On”のときに、走行状態に応じてエコ運転（二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転）の度合いを判定し、eco リーフゲージが変化します。



エンジンスイッチを“ON”にすると、全ての目盛りが数秒間点灯します。

走行状態に応じて、目盛りが図の❶～❸の3 段階で増減、または消灯します。

- 走行速度にあったアクセルペダルの操作でエコ運転をしていると、目盛りが増えます。

（eco リーフゲージの表示／非表示設定 → 109 ページ）

知識

- eco IDLE によるアイドリングストップ中は、すべての目盛りが点灯します。

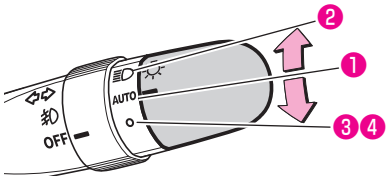
（eco IDLE（エコアイドル）→ 149 ページ）

スイッチの使いかた

ライトスイッチ

ライトの点灯

自動または手動でヘッドランプ、車幅灯などが点灯・消灯します。



▼ 操作方法

● エンジンスイッチが“ON”のとき、スイッチを操作すると、下表のライト類が点灯・消灯します。

スイッチ位置＼ライト		前照灯	車幅灯 番号灯 尾灯	LED イルミネーションランプ （オプション/グレード別装備）
❶	AUTO	自動点灯･消灯		点灯
❷	≡D	点灯*1		
❸*2、3	○（OFF）	消灯	点灯	
❹*2、4		消灯		

*1　エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のときも点灯します。
*2　スイッチを“OFF”の位置にして手を離すと、“AUTO”の位置に戻ります。
*3　車速が約3km/h 以下で自動点灯しているとき
*4　車速が約3km/h 以下でスイッチを約1秒以上操作したとき

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

● エンジン停止中は、ライト類を長時間点灯しないでください。また、車から離れるときは、必ずライト類を消灯してください。

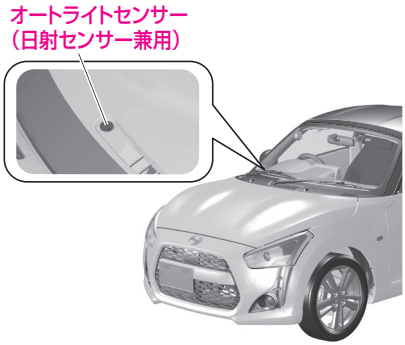
ライト類の再点灯について

スイッチを“OFF”の位置にしてライト類を消灯したあと、次のいずれかの場合、ライト類が再点灯します。

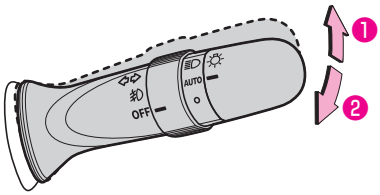
● 車速が約 3km/h を超えたとき
● 再度スイッチを“OFF”にしたとき
● エンジンスイッチを再度“ON”にしたとき
● 車速が約 3km/h 以下（停車時を除く）の状態のまま約 30 秒経過したとき

知識

● オートライトセンサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。



ヘッドランプの切り替え



▼ ハイビームに切り替える

● 前照灯が点灯しているときにレバーを押します。（❶）
（戻すと下向き（ロービーム）になります）

▼ 一時的に使用する

● 前照灯が消灯していても、レバーを手前に引いている間（❷）、前照灯が上向きに点灯します。
（レバーを離すと下向き（ロービーム）または消灯します）

注意

● 対向車のあるときや市街地走行のときは、対向車や通行人の迷惑となり危険ですので前照灯を下向きにして走行してください。

ライト自動消灯機能

車両のバッテリーあがりを防ぐため、ライト類を点灯したまま、エンジンスイッチを“ON”から“OFF”または“ACC”にすると、ライト類が自動で消灯します。

再びライトを点灯させる場合は、以下の操作をします。

- エンジンスイッチを“ON”にする

または

- ライトスイッチを再度“≡D ”の位置にする（ただし、節電機能が働き、約 10 分後に自動で消灯します）

知識

- 運転席ドアを開けたときに、自動で消灯するように機能を変更することができます。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

節電機能

車両のバッテリーあがりを防ぐため、エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”の状態でライト類が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後に自動消灯します。

自動消灯した後、次のいずれかの操作を行うと、節電状態は解除され、ライト類が点灯します。

- エンジンスイッチを“ON”にする

または

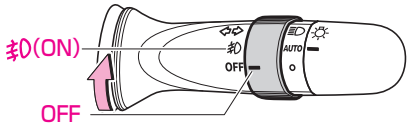
- ライトスイッチを操作する、またはいずれかのドアを開閉する（ただし、約 10 分後に再び自動で消灯します）

ライト消し忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”の状態で、ライトを点灯して、運転席のドアを開けると、ブザー（連続音）が鳴りライトの消し忘れを知らせます。

フォグランプスイッチ

夜間の雨、霧のような天候のときにご利用ください。



▼ 点灯のしかた

● 車幅灯が点灯しているとき、スイッチを“ON”にします。
（メーター内の表示灯が点灯します）

▼ 消灯のしかた

● スイッチを“OFF”にします。
（メーター内の表示灯が消灯します）

ワイパー・ウォッシャースイッチ

⚠ 注意

● 乾ぶきはガラス面に傷を付けますので、ウォッシャー液を噴射させてからワイパーを作動させてください。

● 寒冷時、または長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。張り付いたまま作動させるとワイパーモーターが損傷し、故障の原因になります。

● 積雪などの障害物によりワイパーが途中で止まってしまうときは、障害物を取り除いてからワイパーを作動させてください。無理に作動させるとワイパーモーターに負担がかかり故障の原因となります。

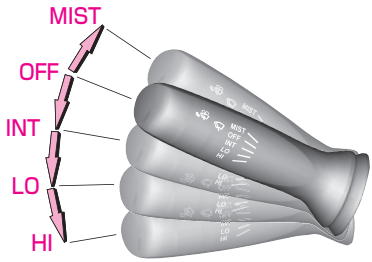
● ウォッシャー液を連続して 20 秒以上噴射させないでください。またウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを作動させないでください。モーターに負担がかかり故障の原因となります。

● 寒冷時は、ガラスが暖まるまで、ウォッシャー液を吹き付けないでください。吹き付けられた液が凍結し、視界をさまたげることがありますので、先にガラス面を暖めてください。

フロント

エンジンスイッチが“ON”のとき使用できます。

ワイパーの使いかた



レバーを上下に操作すると、ワイパーが作動します。

- MIST：一時作動
- OFF：停止
- INT：間欠作動
- LO：低速作動
- HI：高速作動

▼ MIST（一時作動）の使いかた

レバーを“OFF”から押し上げている間、ワイパーが低速作動します。
手を離すと“OFF”に戻ります。

▼ 車速感応式フロントワイパー

レバーを“INT”の位置（間欠作動）にしたとき、車速に応じてワイパーが作動します。

知識

- 間欠作動中は、車速が速くなると車速に応じて間隔が短くなります。
- 車速感応作動の機能を停止することができます。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

ウォッシャー液の噴射

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。

知識

- フロントウォッシャーを作動させると連動してフロントワイパーが低速作動します。

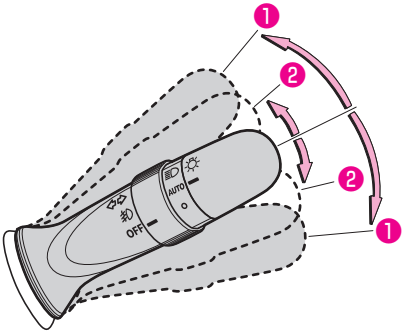
ホーンスイッチ

ハンドルの マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

- 緊急時、非常時以外は、むやみに使用しないでください。

方向指示スイッチ



▼ 操作方法

レバーを（❶）の位置まで上下に操作すると、方向指示灯およびメーター内の方向指示表示灯が点滅します。

● レバーはハンドルを戻すと自動的に戻ります。

車線変更などのときには、レバーを（❷）の位置まで軽く上下に押すと点滅し、手を離すと消灯します。

知識

● ハンドルの切れ角が小さいと、レバーが自動的に戻らないときがあります。手で戻してください。

● 点滅が異常に速くなったときは、方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

非常点滅灯スイッチ

▼ 操作方法

スイッチを押すと左右の方向指示灯が点滅します。もう一度押すと元に戻ります。

⚠ 注意

● 故障などの非常時に、やむを得ず路上駐車するとき以外はむやみに使用しないでください。

● 使用後はスイッチを確実に戻してください。スイッチを戻さないと方向指示灯がはたらきません。

バッテリーあがりを防ぐために

● エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

車を運転するにあたって

運転するときは
運転をする前に …… 122
運転のしかた …… 123
運転するときの注意事項 … 126
運転装置の使いかた
エンジンスイッチ …… 129
駐車ブレーキ …… 134
シフトレバー（CVT 車） … 135
シフトレバー
（マニュアル車） …… 139
ABS
ABS（EBD 機能付） …… 140
VSC&TRC
VSC …… 142
TRC …… 143
メーター表示 …… 145
VSC&TRC OFF スイッチ … 147
エマージェンシーストップシグナル
エマージェンシー
ストップシグナル …… 148
アイドリングストップシステム
eco IDLE（エコアイドル）… 149
エコ発電制御
エコ発電制御 …… 160

運転するときは

運転をする前に

知っておいていただきたい、操作上の注意や特性があります。よく理解し、正しい取り扱いをしてください。

ターボ車

高速走行、登坂走行直後にエンジンを停止するときは、必ず約 1 分程度アイドリング運転をしてからエンジンを止めてください。

（CVT 車で、eco IDLE が作動してアイドリングストップしたときは、アイドリング運転は不要です）

⚠ 注意

- エンジン始動直後（エンジンが冷えているとき）は、エンジンの急激な空ぶかし、または急加速をしないでください。
- エンジン回転数がタコメーターの赤色表示域（エンジン許容回転数以上）に入らないように運転してください。
- 定期的なオイル交換、オイルフィルターの交換を必ず行ってください。

クラッチスタートシステム

マニュアル車

マニュアル車は、エンジン始動時の誤操作を防ぐために、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンがかからないようになっています。

CVT 車の特性

クリープ現象

CVT 車は、エンジンがかかっているとき、シフトレバーが P、N レンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象のことをいいます。

⚠ 注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がり（アイドルアップ）、クリープ現象が強くなります。その際、ブレーキペダルの踏みごたえに変化がでることがありますので、ブレーキペダルはしっかりと踏んでください。

知識

- 停車中は、平坦路であっても車が動かないように、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

ブレーキオーバーライドシステム

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、駆動力を抑制する場合があります。

- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、メーターに表示灯が点灯します。

（ブレーキオーバーライドシステム表示灯 → 105 ページ）

運転のしかた

安全運転を心がけ、次の手順で走行してください。

- 運転手順のそれぞれに、注意していただきたいことがあります。
  「運転するときの注意事項」も、必ずお読みください。
  （運転するときの注意事項→ 126 ページ）
- 各運転装置の使いかたは以下を参照ください。
  （エンジンスイッチ→ 129 ページ）
（シフトレバー（CVT 車）→ 135 ページ）
（シフトレバー（マニュアル車）→ 139 ページ）
（駐車ブレーキ→ 134 ページ）

エンジンをかける

▼ 準備

- 電子カードキーを携帯し、運転席に座ります。
- 正しい運転姿勢がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。
  （正しい運転姿勢→ 32 ページ）
（車体各部の調整→ 87 ページ）

▼ 操作手順

CVT 車

1. シフトレバーが Ⓟ の位置にあることを確認する
2. ブレーキペダルをしっかりと踏む
   - エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
3. ブレーキペダルを踏んだまま、エンジンスイッチを押す

マニュアル車

1. シフトレバーが Ⓝ の位置にあることを確認する
2. ブレーキペダルをしっかりと踏む
3. クラッチペダルをいっぱいまで踏み込む
   - エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
4. クラッチペダルとブレーキペダルを踏んだまま、エンジンスイッチを押す

イージースタートサポート

イージースタートサポートはエンジン始動操作を補助するシステムです。

エンジンが始動するまでの間、自動的にスターターを回す時間を延長します。エンジンスイッチを押し続ける必要はありません。

- イージースタートサポート作動中にエンジン始動を中止したいときは、エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にしてください。
- バッテリーあがりを防ぐため、イージースタートサポート作動中に始動操作が中断されることがあります。

発進する

CVT 車

1 ブレーキペダルを右足で踏んだままシフトレバーを Ⓓ レンジに入れる

- 状況に応じて Ⓢ レンジに、後退のときは Ⓡ レンジに入れます。

2 駐車ブレーキを解除する

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくりと踏み、発進する

マニュアル車

1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを 1 速にする

2 駐車ブレーキを解除する

3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくりと踏み、発進する

坂道発進するときは

CVT 車

1 駐車ブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを Ⓓ レンジに入れる

2 右足でアクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進する

マニュアル車

1 駐車ブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを 1 速に入れる

2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す

3 車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進する

走行するときは

CVT 車

▼ 通常走行するときは

- Ⓓ レンジで走行します。

▼ 急加速が必要なときは

- アクセルペダルを踏み込みます。
  - 自動的に変速比が切り替わり、力強い加速が得られます。（キックダウン）

▼ 強いエンジンブレーキを必要とするときは

- 長い下り坂や急な下り坂など、路面状態やスピードに応じて Ⓢ レンジに切り替えます。

マニュアル車

車速に応じて、シフト位置を変更します。

- クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んで、シフトレバーをゆっくり動かします。

停車する

CVT 車

1 シフトレバーは走行位置のままで、ブレーキペダルをしっかり踏む
2 ブレーキペダルを踏んだまま、必要に応じて駐車ブレーキをかける
- 長時間停車する場合は、シフトレバーを Ⓟ または Ⓝ レンジに入れます。

マニュアル車

1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルをしっかり踏む
2 ブレーキペダルを踏んだまま、必要に応じて駐車ブレーキをかける
- 長時間停車する場合は、シフトレバーを Ⓝ に入れます。

後退する

CVT 車

車が完全に止まってからも、ブレーキペダルをしっかり踏み続け、シフトレバーを Ⓡ レンジに入れます。

マニュアル車

車が完全に止まってからも、クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを Ⓡ に入れます。

リバース警告ブザー

CVT 車

シフトレバーを Ⓡ レンジに入れると車内で警告ブザーが鳴り、運転者にシフトレバーが Ⓡ にあることを知らせます。（警告ブザーは車外には聞こえません）

駐車する

CVT 車

1 シフトレバーを Ⓓ レンジのまま、ブレーキペダルを踏む
2 車が完全に止まってから、シフトレバーを Ⓟ レンジにする
3 駐車ブレーキをかける
4 エンジンスイッチを押して、エンジンを停止する
5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

▼ 坂道で駐車するときは

- 必要に応じて、輪止め * を使用してください。

マニュアル車

1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む
2 車が完全に止まってから、シフトレバーを Ⓝ にする
3 駐車ブレーキをかける
4 エンジンスイッチを押して、エンジンを停止する
5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

▼ 坂道で駐車するときは

- 必要に応じて、シフトレバーを 1 速（上り坂）または Ⓡ（下り坂）にし、輪止め * を使用してください。

* 輪止めはダイハツサービス工場で購入できます。

運転するときの注意事項

⚠ 警告

発進するときは（CVT 車では）

- Ⓟレンジから Ⓓレンジの間でシフトレバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ずブレーキペダルを踏みながら、シフトレバーを動かしてください。
- アクセルペダルを踏んだままシフトレバーの操作をしないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

走行中は

- エンジンスイッチにさわらないでください。誤って操作し、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

走行中は（CVT 車では）

- 坂道などでは、シフトレバーを Ⓓ、Ⓢレンジに入れたまま惰性で後退したり、Ⓡレンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車が完全に止まらないうちに Ⓟレンジに入れないでください。また、前進走行中に Ⓡレンジ、および後退中は Ⓓ・Ⓢレンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

走行中は（マニュアル車では）

- 前進走行中は Ⓡに入れないでください。また、後退中は 1 速に入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- クラッチペダルを一気に離す操作はしないでください。車両が飛び出して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

エンジンをかけるときは

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

エンジンをかけるときは（CVT 車では）

- 必ず運転席に座ってエンジンをかけてください。窓越しからエンジンをかけると車が急に動き出すおそれがあり危険です。

発進するときは

- 踏み誤りを防ぐため、ブレーキペダルは右足で踏む習慣を身に付けてください。左足でのブレーキ操作は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 始動直後およびエアコン使用時は、自動的にエンジン回転が高くなり（アイドルアップ）、動こうとする力が強くなります。発進時にシフトレバー操作をするときはしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
- 坂道発進時など、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んで発進しないでください。故障の原因となります。

⚠ 注意

発進するときは（CVT 車では）

- シフトレバーがどの位置にあるかをシフトレバー部またはメーター内のインジケーターで確認してください。
- シフトレバーが P、N レンジ以外の位置にあると、アクセルペダルを踏まなくても動こうとする特性を持っています。（クリープ現象）
- マニュアル車は発進のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調整しますが、CVT 車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は特に慎重に行ってください。
- 切り返しなどで D から R、R から D レンジと何度もシフトレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。
  完全に止まらない状態でシフトの切り替えを行うと、トランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。また必ずシフト位置も確認してください。
- 急発進を防ぐために P から R、N から D、N から R レンジにシフトレバー操作をするときもブレーキペダルをしっかり踏んでから行ってください。

走行中は

- ブレーキペダルやクラッチペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキやクラッチ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。
- 滑りやすい路面やカーブでは、急激なアクセルペダルの操作はやめてください。急加速をするため、スリップしたり、カーブを曲がりきれず思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。走行中、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

走行中は（CVT 車では）

- 長い下り坂や急な下り坂を D レンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。このようなときに、フットブレーキを使いすぎるとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。エンジンブレーキを併用してください。

停車するときは

- 平坦路であっても、停車が長びくときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。

停車するときは（CVT 車では）

- 上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- エアコン作動中は自動的にエンジン回転が高くなり、急にクリープ現象が強くなりますので、特にしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

後退するときは

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるように注意してください。
- 少し後退したあとなどは R レンジに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐ N レンジに戻すよう習慣付けましょう。

⚠ 注意

駐車するときは

- 必ず駐車ブレーキをかけてください。
- エンジンをかけたままで車から離れないでください。
- 車から離れるときはエンジンスイッチを“OFF”にしてください。
  バッテリーあがりの原因となります。
- ターボ車は、高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、必ずアイドリング運転を約 1 分程度行ってください。（CVT 車で、eco IDLE が作動してアイドリングストップしたときは、アイドリング運転は不要です）

駐車するときは（CVT 車では）

- Ⓟレンジでは車輪が固定されます。駐車するときは必ずⓅレンジにあることを確認してください。

知識

エンジンをかけるときは

- エンジンの始動性を良くするためにライト、リヤウインドデフォッガー、ヒーターファンなどのスイッチは“OFF”にしてください。
- エンジン始動後は、各警告灯が消灯するのを確認してください。（ただしブレーキ警告灯は除きます）
- エンジン始動後は、自動制御装置のはたらきによりエンジン回転が高くなりますが、暖機完了後、自動的にアイドリング回転に下がります。
- キーフリーシステムの通信エラーなどでエンジンの始動ができないことがあります。このときは、一度エンジンスイッチを“OFF”にしたあと、再度、エンジンをかけなおしてください。

走行中は（CVT 車では）

- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセルペダルを踏まずに、ブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。
- Ⓓレンジの走行中に急加速を行うと、車速の上昇よりもエンジン回転数の上昇が早く感じられますが、CVT の変速制御によるもので問題ありません。

燃費向上のために

- 発進、加速はスムーズに行ってください。

バッテリーを再接続したときは（CVT 車では）

- バッテリーとの接続が断たれ、接続を復帰させた直後は車両の動きがぎこちないことがありますが故障ではありません。

運転装置の使いかた

エンジンスイッチ

プッシュボタンスタート

エンジンのかけかた

▼ 準備

- 電子カードキーを携帯し、運転席に座ります。
- 正しい運転姿勢がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

（正しい運転姿勢→ 32 ページ）
（車体各部の調整→ 87 ページ）

▼ 操作手順

CVT 車

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 ブレーキペダルをしっかりと踏む

- エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。

3 ブレーキペダルを踏んだまま、エンジンスイッチを押す

マニュアル車

1 シフトレバーが N の位置にあることを確認する

2 ブレーキペダルをしっかりと踏む

3 クラッチペダルをいっぱいまで踏み込む

- エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。

4 クラッチペダルとブレーキペダルを踏んだまま、エンジンスイッチを押す

エンジンの停止方法

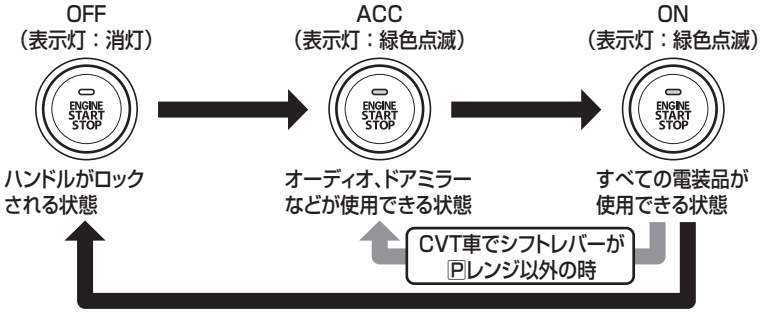
CVT 車

1 車両を完全に停止させる
2 シフトレバーを Ⓟ にする
3 駐車ブレーキをかける
4 エンジンスイッチを押す
5 ブレーキペダルから足を離した状態で、エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

マニュアル車

1 車両を完全に停止させる
2 シフトレバーを Ⓝ にする
3 駐車ブレーキをかける
4 エンジンスイッチを押す
5 クラッチペダルとブレーキペダルから足を離した状態で、エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチモードの切り替え



ブレーキペダル（CVT 車）またはクラッチペダル（マニュアル車）を踏まずに、エンジンスイッチを押すと、モードを切り替えることができます。

- スイッチを押すごとにモードが切り替わります。
- CVT 車は、シフトレバーが Ⓟ 以外のときは“OFF”になりません。

ハンドルロック

エンジンスイッチを“OFF”にしたあとに運転席ドアを開閉すると、ハンドルロック機能によりハンドルがロックされます。エンジンスイッチを操作すると、ハンドルロックは自動で解除されます。

⚠ 警告

- 走行中、エンストなどで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、ドアを開けないでください。ドアを開けるとハンドルロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停車させたあと、ただちに、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

知識

- エンジンスイッチを“OFF”したときに運転席ドアが開いていると、ハンドルがロックされず、警告ブザーが鳴ります。

（ハンドルロック未完了警告→ 63 ページ）

- 車両のバッテリーがあがっている場合ハンドルロックが作動しません。

ハンドルロックが解除できないときは

エンジンの始動操作をしたときに、ハンドルロックが解除できないと、エンジンスイッチの表示灯が緑色に高速点滅します。

▼ ハンドルロック解除のしかた

いったんペダルから足を離してエンジンスイッチを“OFF”にし、ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

エンジンスイッチの取扱い

⚠ 警告

緊急時のエンジン停止方法

● 下記の操作を行うと、走行中でもエンジンが止まります。ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチの操作をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- エンジンスイッチを 3 秒以上押し続ける
- エンジンスイッチを 3 回以上連打する

（車両を緊急停止するには→ 247 ページ）

⚠ 注意

エンジンスイッチ表示灯が橙色に点滅したときは

● システムの異常が考えられます。エンジンスイッチを“OFF”せずに、ただちにダイハツサービス工場にご連絡ください。（いったん“OFF”にすると、エンジンを再始動できなくなることがあります）

エンジンスイッチがいつもと違うときは

● スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、ただちに、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

● スイッチに飲み物などをこぼさないでください。万一、こぼした場合は、ただちにダイハツサービス工場にご連絡ください。

● 車幅灯を点灯させても、スイッチの照明が点灯しないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

バッテリーあがりを防ぐために

● エンジンを止めた状態で、エンジンスイッチを“ON”または“ACC”にしたまま長時間放置しないでください。

● CVT 車は、シフトレバーが Ⓟ レンジ以外のとき、エンジンを停止させないでください。シフトレバーが Ⓟ レンジ以外でエンジンを停止した場合、エンジンスイッチが“ACC”になるため、そのまま放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。

知識

エンジンが始動しないときは

● いったんエンジンスイッチを“OFF”にして、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できないとき

● エンジンスイッチに電子カードキー、またはメインキーを接触させてスイッチを押すことで、エンジンスイッチを“ON”にすることができます。

（電子カードキーが使用できないとき→ 237 ページ）

知識

エンジンスイッチの操作について

- エンジンの始動と停止を短い間隔で繰り返した直後は、エンジンが始動できない場合があります。この場合は約 10 秒以上待ってから、再びエンジンの始動操作を行ってください。
- スイッチを早押しした場合、エンジンの始動・停止、モードの切り替えができないことがあります。1 回ずつ確実に押してください。

エンジンスイッチ作動が正常に作動しないおそれのある状況

- 電子カードキーが作動範囲内にあっても、周囲の状況や電子カードキーの場所により、作動しないことがあります。

（作動範囲→ 59 ページ）

キーフリーシステムの警告ブザーについて

- キーフリーシステムは、電子カードキーの持ち出しや、エンジンスイッチの切り忘れなどの誤操作を検知すると、ブザーを鳴らして警告を行います。

（警告ブザー、メーター表示による警告→ 60 ページ）

電子カードキーについて

- エンジン始動後に電子カードキーを車外に持ち出さないでください。持ち出したままエンジンを停止すると、電子カードキーが車内に無いためにエンジンの再始動ができなくなります。特にドアを閉めたまま窓から電子カードキーを持ち出した場合は、持ち出しの警告ブザーが鳴らないので注意してください。

車両のバッテリーを脱着したあとは

- すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約 10 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

エンジンスイッチモードの記憶について

- 車両は常にエンジンスイッチモード（“ACC”または“ON”）を記憶しています。車両のバッテリーを再接続したときは、エンジンスイッチが絶たれる前の状態に復帰します。修理などで車両のバッテリーを外すときは、必ずエンジンスイッチを“OFF”にしてから行ってください。車両のバッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前のエンジンスイッチモードがわからないときは、一度エンジンスイッチを“OFF”にしてください。

エンジンスイッチ自動 OFF 機能

CVT 車

- シフトレバーが P レンジのとき、エンジンスイッチが“ACC”のまま約 1 時間放置すると、バッテリーあがり防止のため、自動的にエンジンスイッチが“OFF”になります。

マニュアル車

- エンジンスイッチが“ACC”のまま約 1 時間放置すると、バッテリーあがり防止のため、自動的にエンジンスイッチが“OFF”になります。

駐車ブレーキ

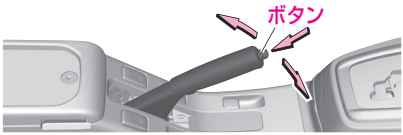
▼ かけるとき

ボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引き上げる

● エンジンスイッチが“ON”の位置のときは、ブレーキ警告灯が点灯します。

（ブレーキ警告灯→ 94 ページ）

▼ 解除するとき



レバーを軽く引き上げながらボタンを押し、レバーを確実に戻す

● エンジンスイッチが“ON”の位置のときは、ブレーキ警告灯が消灯します。

⚠ 注意

● 走行するときは、駐車ブレーキを完全に解除してください。また、ブレーキ警告灯が消灯していることを必ず確認してください。
駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが熱を持ち、ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

● 駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h 以上で走行すると、警告ブザーが鳴ります。

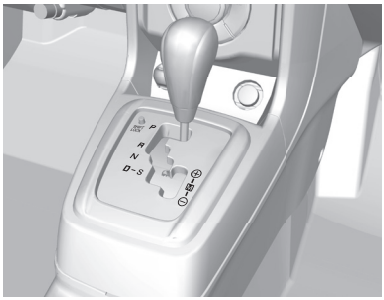
（ブレーキ警告灯→ 94 ページ）

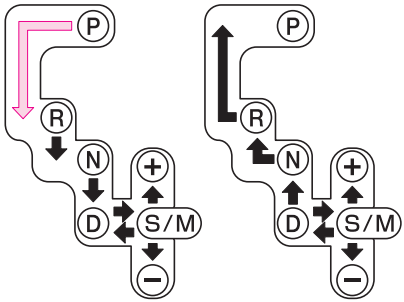
シフトレバー（CVT 車）

シフトレバーの使いかた

CVT 車

シフトレバーの動かしかた





シフトレバーの操作は確実に行ってください。

⇨ ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーをゲートにそって動かすことができます。

➡ シフトレバーをゲートにそってそのまま動かすことができます。

各シフト位置のはたらき

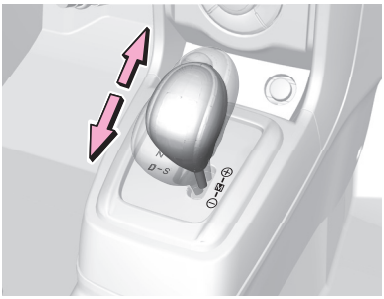
シフト位置	メーター表示	目的
P（パーキング）	P	駐車またはエンジン始動
R（リバース）	R	後退
N（ニュートラル）	N	動力が伝わらない状態
D（ドライブ）	D	通常走行 （速度に応じて無段階で自動的に変速されます）
	1 D ～ 7 D	一時的なマニュアルモード走行 （D レンジでパドルシフトを操作したとき）
S（スポーツ）	S	スポーティな走行、坂道や山間地などの走行
M（マニュアル）	1 M ～ 7 M	マニュアルモード走行

⚠ 警告

- Ⓟ から Ⓓ レンジの間でシフトレバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ずブレーキペダルを踏みながら動かしてください。
- 走行中に Ⓝ レンジに入れないでください。エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が完全に止まらないうちに Ⓟ レンジに入れないでください。また、前進走行中に Ⓡ レンジ、および後退走行中に Ⓓ・Ⓢ レンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

マニュアルモードの使いかた

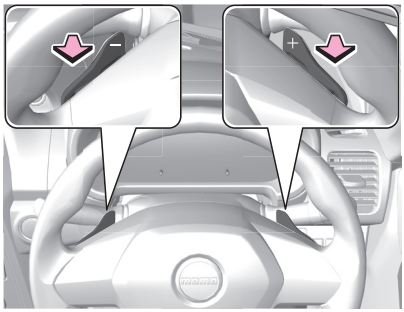
シフトレバーが Ⓢ レンジのときに下記の操作方法を行うと、マニュアルモードに切り替わり、思い通りのシフトレンジを選択して運転することができます。



▼ シフトレバーによる操作方法

Ⓢ レンジから ⊕ 側または ⊖ 側に操作する

- 操作するごとに 1 速ずつ変速し、選択したシフトレンジに固定されます。



▼ パドルシフトによる操作方法

パドルシフト装着車

パドルシフトの ⊕ 側または ⊖ 側を操作する

- 操作するごとに 1 速ずつ変速し、選択したシフトレンジに固定されます。

● マニュアルモード中は、マルチインフォメーションディスプレイのシフトレンジ表示灯に“M”が点灯し、1 ～ 7 速のあいだで選択されているシフトレンジが表示されます。

▼ 解除方法

シフトレバーを Ⓓ レンジに戻します。

知識

マニュアルモードで連続変速したいときは

● シフトレバーまたはパドルシフトを ⊕ または ⊖ 側に繰り返し操作してください。シフトレバーまたはパドルシフトが ⊕ または ⊖ 側に操作されたままでは連続でシフトレンジを変えることができません。

マニュアルモードでも自動変速される状況

● マニュアルモードでは、シフトレバーまたはパドルシフトを操作しない限り変速しません。ただし、以下の場合は安全や走行性能を確保するため自動的に変速します。
  - 車速が低下した、または上昇した場合

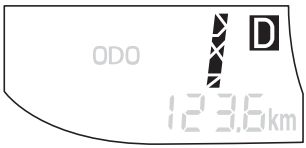
● 車両が停止すると、自動的に 1 速になります。

一時的なマニュアルモードについて

パドルシフト装着車

シフトレバーが Ⓓ レンジでの走行中にパドルシフトを操作すると、一時的なマニュアルモードに切り替わり、任意のシフトレンジを選択することができます。

● 一時的なマニュアルモードは下記の状態になると自動で解除され、通常の Ⓓ レンジ走行に戻ります。
  - 同じシフトレンジでアクセルペダルを一定時間踏み続けたとき
  - アクセルペダルを大きく踏み込んだとき
  - 停車したとき
  - パドルシフトの ⊕ 側を一定時間以上押し続けたとき



● 一時的なマニュアルモード中は、マルチインフォメーションディスプレイのシフトレンジ表示灯に“D”が点灯し、1 ～ 7 速のあいだで選択されているシフトレンジが表示されます。

シフト制限警告ブザー（マニュアルモード時）

マニュアルモードの操作には制限があり、希望するシフトレンジへ変更できない場合があります。その場合は、警告ブザーにより運転者にお知らせします。

シフトロック機構

誤操作防止のため、シフトロック機構が付いています。

▼ シフトロック解除方法

エンジンスイッチを“ON”にし、ブレーキペダルを踏むと、シフトレバーの操作ができます。

● 必ずブレーキペダルをしっかり踏み込み、シフトレバーを操作します。

知識

● エンジンスイッチが“ON”以外では、ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーは Ⓟ レンジからほかのレンジへは動きません。

● 先にシフトレバーを動かしてからブレーキペダルを踏むと、シフトロックが解除されない場合があります。

● 万一、エンジンスイッチを“ON”にして、ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーを Ⓟ レンジから他の位置へ動かせないときは、下記の手順でシフトロックを解除してください。この場合はシフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

シフトロック解除ボタン

バッテリーあがりなどで、シフトレバーが Ⓟ レンジからほかのレンジへ動かないときは、シフトロック解除ボタンを使用します。

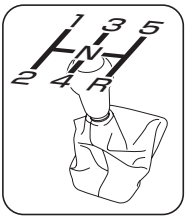
▼ シフトロック解除方法

● 必ずブレーキペダルをしっかり踏み込み、シフトロック解除ボタンを押しながら、シフトレバーを操作します。

シフトレバー（マニュアル車）

シフトレバーの使いかた

マニュアル車



シフト位置を変更するときは、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んで確実に操作します。

⚠ 注意

- R（後退）には、車が完全に停止してからシフト位置を変更してください。トランスミッションに負担がかかり、故障の原因となります。

知識

- 5 速から R（後退）には、直接シフト位置を変更できません。一度ニュートラルにしてから、R（後退）にシフト位置を変更してください。

シフトダウンの上限速度

エンジンの過回転を防ぐため、次の表に示す上限速度以下でシフトダウンしてください。

(km/h)

シフトダウン	2速→1速	3速→2速	4速→3速	5速→4速
上限速度	35	65	95	130

⚠ 注意

- エンジンの回転があがりすぎないように、上限速度を守って走行してください。エンジンが損傷するおそれがあります。

ABS

ABS（EBD 機能付）

急制動時や滑りやすい路面における制動時には、車輪がロックして方向安定性と操舵能力が低下することがあります。ABS は、このような状況下に発生する車輪ロックを防止して操舵能力を確保しようとする装置です。

▼ EBD

Electronic Brake force Distribution（電子制動力配分制御）の略で、車両の走行状態や積載状態に応じて最適な制動力配分を行う機能です。積載時のブレーキの効きを確保することができます。

⚠ 注意

- ABS を過信しないでください。ABS が作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 下記の場合などには ABS の付いていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあり、事故につながるおそれがあります。速度を控えて十分に車間距離を取ってください。
  - ジャリ道、新雪路を走行しているとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
  - 凹凸道などの悪路を走行しているとき
  - タイヤ空気圧が適正空気圧より高いときに荒れた路面を走行したとき

知識

- 低速（約 10km/h 以下）では、ABS は作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- エンジンスイッチを“ON”にすると、メーター内の ABS 警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- 走行中に ABS 警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、点灯・消灯をくり返す場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームからモーターなどの音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。

知識

- 走行中に ABS 警告灯が点灯した場合、通常のブレーキ性能は確保されていますが、ABS は作動しません。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ABS の作動中および作動後は、ブレーキペダルが奥に入り込むことがあります。また、ABS が正常に作動しているときは、ブレーキペダルを踏むとペダルがこきざみに動き「カタカタ」と作動音がすることがありますが、システムの異常ではありません。
- 雨の日にマンホールのふた、橋の継ぎ目などの滑りやすい場所でブレーキペダルを踏むと ABS が作動しやすくなります。
- 急ブレーキ時は、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。ブレーキペダルをゆるめると ABS が効果を発揮できません。
- 急ブレーキ時にポンピングブレーキ * はしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。

VSC&TRC

VSC

VSC は、急激なハンドル操作や、滑りやすい路面での旋回時の横滑りなどを抑制するために、自動的にブレーキを制御して、車両の安定性を確保しようとするシステムです。

また緊急制動時など、ブレーキペダルが強く踏めずブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、ブレーキ力を増強するブレーキアシストを備えています。

- VSC が作動すると、スリップインジケーターが点滅します。

（スリップインジケーター→ 145 ページ）

- VSC&TRC OFF スイッチを 3 秒以上押して、メーター内の VSC OFF 表示灯と TRC OFF 表示灯が点灯しているときは、VSC（TRC を含む）は作動しません。

（VSC&TRC OFF スイッチ→ 147 ページ）

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

（タイヤの点検→ 189 ページ）

⚠ 警告

- VSC を過信しないでください。VSC が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、スリップインジケーターが点滅したときは、特に慎重に運転してください。

⚠ 注意

- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターン（溝模様）および摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着すると VSC が正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときなどには VSC が正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

知識

- VSC は、車速が約 15km/h を超えると作動するようになります。
- VSC（TRC を含む）は、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジンルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

知識

ブレーキアシストについて

- VSC の“ON”・“OFF”に関わらず、緊急制動時などに作動します。
- ブレーキペダルを急速度で踏んだときに、ブレーキアシストが作動してブレーキが強くかかり、作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、異常ではありません。

TRC

TRC のはたらき

滑りやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生じる駆動輪のホイールスピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

- 車輪がスリップし始めると、車輪速センサーからの情報で、コンピューターがスリップを感知し、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを抑制します。
- TRC が作動すると、スリップインジケーターが点滅します。このとき、車両の振動を感じることがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。

（スリップインジケーター→ 145 ページ）

- VSC&TRC OFF スイッチを押して、メーター内の TRC OFF 表示灯が点灯しているときは、TRC は作動しません。

（VSC&TRC OFF スイッチ→ 147 ページ）

- ぬかるみや新雪路でのスタックからの脱出時などは、TRC が作動していると脱出しにくい場合があります。この場合、VSC&TRC OFF スイッチを操作することで、TRC を停止することができます。

（スタック（立ち往生）したとき→ 228 ページ）

TRC のしくみ

タイヤのスリップは4輪に取り付けられたセンサーからの信号を比較し、駆動輪のいずれかの信号が他の車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけ、スリップを抑制します。

TRC とタイヤの関係

TRC は、車輪に付いているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4 輪の中で 1 輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方が変わり、コンピューターがスリップと判断します。

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

（タイヤの点検→ 189 ページ）

⚠ 警告

- TRC を過信しないでください。TRC が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、スリップインジケーターが点滅したときは、特に慎重に運転してください。

（スリップインジケーター→ 145 ページ）

⚠ 注意

- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターン（溝模様）および摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着すると TRC が正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときなどには TRC が正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

知識

- TRC は、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジンルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

メーター表示

VSC & TRC 警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。
  - VSC
  - TRC

⚠ 注意

点灯した場合

- 通常走行に支障はありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

点滅した場合

- VSC、または TRC が作動しています。

（スリップインジケーター→ 145 ページ）

スリップインジケーター

（点滅）

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記のシステムが作動した場合に点滅します。
  - VSC
  - TRC

⚠ 注意

- エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しないとき、または点灯したままの場合は、システムの異常が考えられますので、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- スリップインジケーターが点滅した場合は、VSC、または TRC が作動していますので特に慎重に運転してください。

VSC OFF 表示灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VSC&TRC OFF スイッチを 3 秒以上押すと、VSC（TRC を含む）が作動停止状態となり点灯します。

（VSC&TRC OFF スイッチ
→ 147 ページ）

TRC OFF 表示灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VSC&TRC OFF スイッチを押すと、TRC が作動停止状態となり点灯します。

（VSC&TRC OFF スイッチ
→ 147 ページ）

VSC&TRC OFF スイッチ

VSC や TRC は新雪路、深雪路、砂地等からの脱出には適さない場合があります。
このようなときは VSC&TRC OFF スイッチを押して VSC と TRC を“OFF”にします。

▼ TRC を“OFF”にするとき

● エンジンスイッチが“ON”のとき、VSC&TRC OFF スイッチを押します。
（メーター内の TRC OFF 表示灯が点灯します）

▼ VSC と TRC を“OFF”にするとき

● エンジンスイッチが“ON”で車両が停止しているとき、VSC&TRC OFF スイッチを 3 秒以上押し続けます。
（メーター内の TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します）

▼ 作動可能状態に戻すとき

VSC&TRC OFFスイッチをもう1度押します。
（TRC OFF 表示灯(と VSC OFF 表示灯）が消灯します）

⚠ 警告

● VSC や TRC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は VSC や TRC を作動停止状態にしないでください。VSC や TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

知識

● VSC や TRC を作動停止にした場合でも、エンジンを始動するたびに自動的に VSC と TRC は作動可能状態に戻ります。

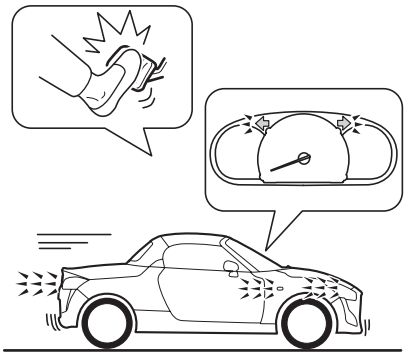
● TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。ただし、VSC と TRC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを、非常点滅灯が自動で高速点滅し、後続車に注意をうながすことで、追突される可能性を低減させるシステムです。

● 約 60km/h 以上で走行しているときに、急ブレーキをかけると作動します。



作動条件について

エマージェンシーストップシグナルは、自車が下記の条件を全て満たしたときに作動します。

● 非常点滅灯スイッチが“OFF”

● 約 60km/h 以上で走行中

● ブレーキペダルを踏み、急減速した、または ABS が作動した

作動停止について

エマージェンシーストップシグナルは、下記のいずれかのときに作動が停止します。

● 非常点滅灯スイッチを“ON”にした

● ブレーキペダルから足を離した

● 急減速でなくなった

● ABS が作動停止した

⚠ 注意

● エマージェンシーストップシグナルは、追突される可能性を低減させるシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。

● 運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

● ABS 警告灯、または VSC&TRC 警告灯が点灯しているときは、エマージェンシーストップシグナルが作動しないことがあります。

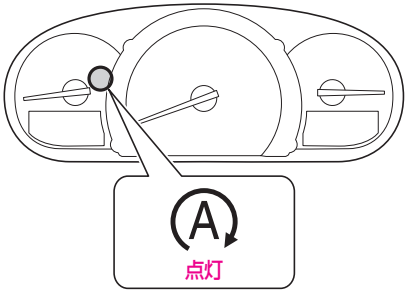
アイドリングストップシステム

CVT 車

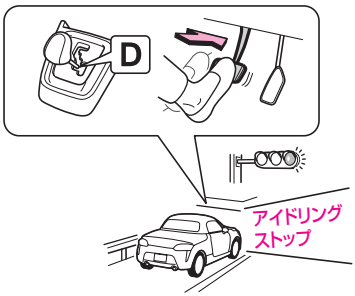
eco IDLE（エコアイドル）

eco IDLE は、エンジン暖機後に信号待ちや渋滞などで停車した際、燃費向上や排気ガス低減、アイドリング騒音低減のため、自動でエンジンを停止（アイドリングストップ）、再始動させるシステムです。

アイドリングストップ、エンジン再始動のしかた



1 走行中にアイドリングストップする条件を満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯します。
<スタンバイ状態>
（スタンバイ条件→ 151 ページ）



2 D レンジのままブレーキペダルを踏んで停車すると、アイドリングストップします。
<アイドリングストップ状態>

- eco IDLE 表示灯はアイドリングストップ中も点灯し続けます。

（アイドリングストップ条件→ 152 ページ）

3 ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。
<エンジン再始動>

- eco IDLE 表示灯は消灯します。

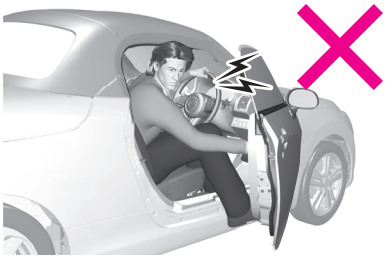
（エンジン再始動条件→ 152 ページ）

4 しばらく走行して、再びアイドリングストップする条件を満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯します。

eco IDLE（エコアイドル）の注意事項

⚠ 警告

- アイドリングストップ中は車外へ出ないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けたりすると、ブレーキペダルを踏んでいても、エンジンが再始動しますので、あわてずにブレーキペダルを踏み続けてください。

- シートベルトとドアを元に戻すまで、警告ブザーが鳴り続けます。

（警告ブザー→ 154 ページ）

⚠ 注意

- アイドリングストップ中は、ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。
- 長時間停車するときや車両から離れるときは、駐車ブレーキをかけ、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止させてください。

eco IDLE を正常に作動させるために

- 下記の場合、eco IDLE が正常に作動しないおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
  - 運転席シートベルトを着用していても、シートベルト未装着警告灯が点滅するとき
  - 運転席シートベルトを外していても、シートベルト未装着警告灯が点滅しないとき
  - 運転席ドアを閉めても半ドア警告灯が点灯する、または室内照明のスイッチが“DOOR”のときに室内照明が点灯するとき
  - 運転席ドアを開けても半ドア警告灯が点灯しない、または室内照明のスイッチが“DOOR”のときに室内照明が点灯しないとき

知識

アイドリングストップ中の操作について

- アイドリングストップ中に、シフトレバーを D から N レンジ（または S レンジ）に操作してもアイドリングストップは継続します。
  ただし、シフトレバーを N レンジに操作したあと他のレンジに操作すると、エンジンが再始動します。

知識

● 右左折や合流時など、アイドリングストップ中に事前に発進準備をしたいときは、下記の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
- ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
- ハンドル操作をする
- eco IDLE OFF スイッチを押す

（eco IDLE OFF スイッチ→ 157 ページ）

アイドリングストップ中のエアコンの作動について

● アイドリングストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。
通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
- ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
- eco IDLE OFF スイッチを押す

システムの作動条件について

スタンバイ条件

下記の条件をすべて満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯し、アイドリングストップが可能な状態になります。

- eco IDLE OFF スイッチを押して、eco IDLE の作動を停止していないとき
（eco IDLE 作動停止中は、eco IDLE OFF 表示灯が点灯します）
- エンジンが十分に暖まっているとき
- トランスミッションオイルが十分に暖まっているとき
- エンジン冷却水温が高すぎないとき
- バッテリーが十分に充電されているとき
- エンジン始動後に約 5km/h 以上でしばらく走行したあと
（走行せずにアイドリング状態を続けていても、アイドリングストップしません）
- シフトレバーが D レンジのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- 外気温が約 0℃以上のとき
（メーター表示の外気温と異なる場合があります）
- フロントデフロスタースイッチが“OFF”のとき
- 車内温度が快適なとき
- システム（eco IDLE、エンジン電子制御、CVT、ABS、VSC、エアコン、電動パワーステアリング）が正常なとき

知識

● 下記の場合、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。
- 車両を長期間使用しなかったときなど、バッテリーが放電しているとき
- バッテリー交換などで、バッテリーの ⊖ 端子をはずしたあと
- 冷房初期

アイドリングストップ条件

スタンバイ条件と下記の条件をすべて満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯したまま、アイドリングストップします。

- 車両が停車しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- ハンドル操作をしていないとき
- ABS、VSC が作動していないとき

知識

- 下記の場合、アイドリングストップしない場合があります。
  - ブレーキブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
  - ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
  - 急勾配の坂道で停車したとき

エンジン再始動条件

アイドリングストップ中に、下記のいずれかの操作を行うとエンジンが再始動します。

- ブレーキペダルから足を離す
- ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
- アクセルペダルを踏む
- ハンドル操作をする
- シフトレバーを R・P レンジに操作する
- シフトレバーを N レンジに操作したあと、他のレンジに操作する
- eco IDLE OFF スイッチを押して、システム作動を停止する
- フロントデフロスタースイッチを“ON”にする
- 運転席ドアを開ける
- 運転席シートベルトを外す

知識

エンジンの再始動について

● 下記の場合でも、アイドリングストップ中にエンジンが再始動し、クリープ現象 * が発生しますので、ブレーキペダルはしっかりと踏み続けてください。

- アイドリングストップ中に、アイドリングストップが可能な条件を満たさなくなった場合（eco IDLE 表示灯は点滅後消灯）
  - ・ブレーキブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下したとき
  - ・坂道などで停止状態から車両が動き出したとき
  - ・バッテリーの放電量が多いとき
  - ・警告灯（エンジン、CVT、ABS、VSC&TRC）が点灯（または点滅）するなど、各システムに異常が発生したとき
  - ・エアコンの制御システムに異常が発生したとき
  - ・冷房時はエアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき
  - ・アイドリングストップしてから約 3 分経過したとき
- アイドリングストップ中に、eco IDLE システムに異常が発生した場合、またはエンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期になった場合（eco IDLE OFF 表示灯が点滅）

アイドリングストップ時間が短くなる場合

● 下記の場合、アイドリングストップ時間が短くなる場合があります。

- 外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にアイドリングストップしたとき
- 電装品などの消費電力が大きいとき

エンジンが再始動しない場合

● 下記の場合、警告ブザーが鳴って eco IDLE 表示灯が点滅し、安全確保のためブレーキペダルから足を離しても、エンジンは再始動しません。

- アイドリングストップ中にボンネットを開けたとき

（警告ブザー→ 154 ページ）

エンジン再始動時の電装品の動作について

● オーディオの音量が大きいなど、アイドリングストップ中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時に下記の電源が一時的に“OFF”になることがあります。

- オーディオ
- ナビゲーションシステム

● アイドリングストップからエンジンが再始動すると、アクセサリーソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。

* エンジンがかかっているとき、シフトレバーが P、N レンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと車両が動き出す現象。

警告ブザー

アイドリングストップ中に、運転席シートベルトを外したり、運転席ドアやボンネットを開けたりすると、警告ブザーが鳴ります。

運転席シートベルトを外したとき

警告ブザー（断続音）が鳴り、eco IDLE 表示灯が高速で点滅します。

● エンジンが再始動します。

▼ 対処方法

● 運転席シートベルトを確実に着用してください。警告ブザーが止まります。

運転席ドアを開けたとき

警告ブザー（断続音）が鳴り、eco IDLE 表示灯が高速で点滅します。

● エンジンが再始動します。

▼ 対処方法

● 運転席ドアが開いていないかを確認し、確実に閉めてください。
警告ブザーが止まります。

ボンネットを開けたとき

警告ブザー（断続音）が数秒間鳴り、eco IDLE 表示灯が高速で点滅します。

● 安全確保のため、通常のエンジン停止状態になります。（エンジン警告灯・充電警告灯・油圧警告灯も同時に点灯します）

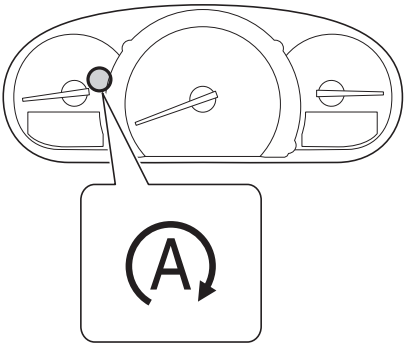
▼ 対処方法

● ボンネットが開いていないか確認し、確実に閉めてください。

● シフトレバーを Ⓟ レンジに操作してから、エンジンスイッチを操作して、エンジンを始動してください。

eco IDLE 表示灯

eco IDLE に関する操作状況、車両の状態をお知らせします。



点灯

- エンジンスイッチを“ON”にしたとき（数秒後消灯）
- アイドリングストップが可能な条件を満たしたとき
  <スタンバイ条件成立>
- アイドリングストップ中

消灯

- アイドリングストップからエンジンが再始動したとき
- アイドリングストップが可能な条件を満たしていないとき
  <スタンバイ条件不成立>

低速点滅後、消灯

アイドリングストップ中に、アイドリングストップが可能な条件を満たさなくなり、エンジンが再始動したとき

高速点滅

アイドリングストップ中に下記の状態になると、高速点滅すると同時に警告ブザーが鳴ります。

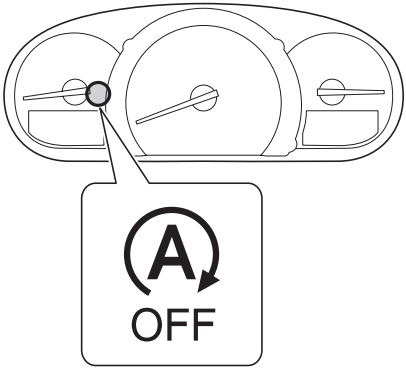
- 運転席シートベルトを外したとき
- 運転席ドアを開けたとき
- ボンネットを開けたとき

（警告ブザー→ 154 ページ）

知識

- 表示灯が点灯・点滅しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

eco IDLE OFF 表示灯



点灯

● eco IDLE OFF スイッチを押して、eco IDLE 作動を停止すると点灯します。

（eco IDLE OFF スイッチ
→ 157 ページ）

点滅

● 下記の状態になると、エンジンスイッチが“ON”のときに点滅します。

- eco IDLE システムに異常があるとき
- エンジン部品（スターター）やバッテリーが交換時期のとき

⚠ 注意

点滅した場合

● ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

● 表示灯が点灯・点滅しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

アイドリングストップ時間表示

アイドリングストップ時間を、メーターのマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

（マルチインフォメーションディスプレイ→ 108 ページ）

eco IDLE OFF スイッチ

eco IDLE の作動を停止したいときにスイッチを押します。

▼ 操作方法

- スイッチを押すと、eco IDLE の作動停止状態になります。
  - メーター内の eco IDLE OFF 表示灯が点灯します。
- もう一度スイッチを押すと、eco IDLE 作動停止状態が解除されます。
  - eco IDLE OFF 表示灯が消灯します。

（eco IDLE 表示灯→ 155 ページ）
（eco IDLE OFF 表示灯→ 156 ページ）

知識

- アイドリングストップ中に、スイッチを押すとエンジンが再始動し、eco IDLE 作動停止状態になります。（eco IDLE OFF 表示灯が点灯します）
- eco IDLE はエンジンスイッチ操作によるエンジン始動をするたびに、作動可能状態に戻ります。

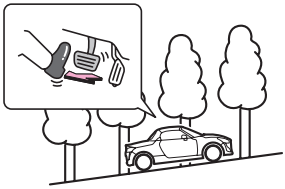
ヒルスタートシステム

アイドリングストップからブレーキペダルをゆるめてエンジンが再始動する際、最長約 2 秒間ブレーキ力を保持するシステムです。

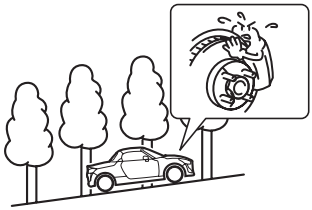
- 坂道発進時の後退を軽減します。（ただし、アイドリングストップしていないときは作動しません）

▼ 作動の流れ

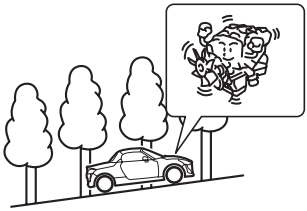
1 ブレーキペダルを踏む力をゆるめる



2 ブレーキ力保持



3 エンジン再始動



4 発進

⚠ 警告

- ヒルスタートシステムは、坂道で停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒルスタートシステムを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
  常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー、ブレーキペダル、アクセルペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または急な上り坂では、ヒルスタートシステムが作動していても、車両が後退することがあります。駐車ブレーキをかけたりするなどして発進してください。

知識

- ヒルスタートシステムの作動により、下記の状態になることがありますが、異常ではありません。
  - ブレーキペダルの踏みごたえが変わる
  - ブレーキペダルが振動する
  - ブレーキから音が発生する
- ヒルスタートシステムは、坂道だけではなく、平坦な道路でも作動します。

eco IDLE 専用バッテリー

eco IDLE 装着車は、高性能な専用バッテリーを搭載しています。
バッテリーを交換するときは、この車専用のダイハツ純正バッテリーに交換してください。

⚠ 注意

- 専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化や eco IDLE が正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。eco IDLE が正常に作動しなくなります。

知識

- バッテリーは定期的に充電することで、長持ちさせることができます。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

エコ発電制御

エコ発電制御

減速時の発電によってバッテリーを集中充電することにより、走行中（加速やクルージングなど）の発電を抑制、燃料消費量を低減させ、燃費を向上させる効果があります。

装備品の使いかた

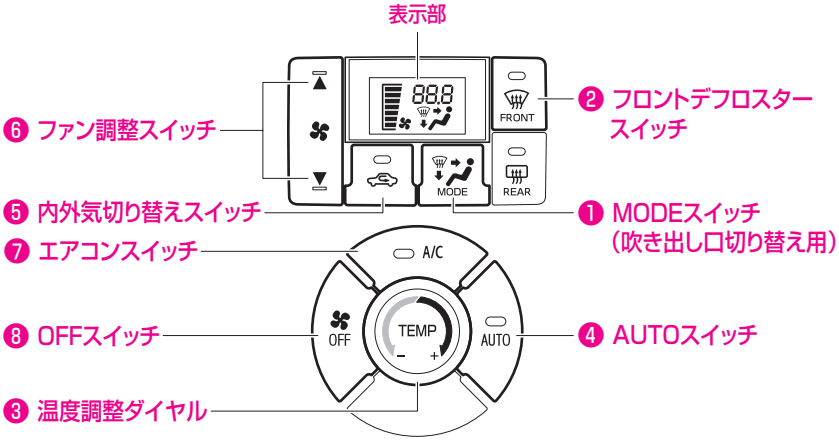
空調
オートエアコン …… 162
オーディオ
アンテナ …… 171
ステアリングスイッチ …… 171
室内装備品
室内照明 …… 172
アクセサリーソケット …… 173
シートヒーター …… 174
ウインド＆サンバイザー … 175
収納装備 …… 176
ドリンクホルダー …… 178

空調

オートエアコン

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。

コントロールパネル



オートエアコンの使いかた

通常の使いかた

▼ 操作方法

1 エンジンを始動し、AUTO スイッチ（❹）を押す

- スイッチを“ON”にすると、吹き出し口・風量・および内外気切り替えが自動的に調整されます。

2 温度調整ダイヤル（❸）で温度を調整する

3 停止するときは、OFF スイッチ（❽）を押す

▼ 冷房・除湿をするときは

- エアコンスイッチ（❼）を押す

知識

- 設定温度は 25℃を目安に、お好みで調整してください。
  乗車直後の室内温度が高い（または低い）ときに、設定温度を 25℃より極端に低く（または高く）調整しても、希望の室内温度になるまでの時間はほとんど変わりません。

ガラスの曇りを取るとき

寒冷時や、雨のときなどガラスが曇ったときに使用します。

▼ 操作方法

1 フロントデフロスタースイッチ（❷）を押すと、吹き出し口が切り替わる

- 自動的にエアコンが作動して外気導入に切り替わります。

2 スイッチをもう一度押すと、曇り止めが停止し、元の状態に戻る

▼ より早くガラスの曇りを取る場合

- ガラスの曇りを取る操作と併せて、下記の操作を行います。
  - ファン調整スイッチ（❻）を操作して、風量を増す
  - 温度調整ダイヤル（❸）を操作して、設定温度を上げる

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- 温度調整ダイヤル（❸）を最低温に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

知識

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

CVT 車では

- フロントデフロスタースイッチ（❷）が“ON”のときは、eco IDLE によるアイドリングストップをしません。
- eco IDLE によるアイドリングストップ中にスイッチ（❷）を“ON”にすると、エンジンが再始動します。

外気が汚れているときは

- 一時的に“内気循環”にしてください。

換気するとき

導入された外気が中央および左右の吹き出し口から吹き出します。

▼ 操作方法

1 内外気切り替えスイッチ（❺）を外気導入（作動表示灯が消灯）にする

2 MODE スイッチ（❶）を押して、“ ”に切り替える

オートエアコンの取扱いについて

⚠ 警告

CVT 車では

● eco IDLE によるアイドリングストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。

（ガラスの曇りを取るとき→ 163 ページ）

知識

CVT 車では

● エアコンの操作や室内温度により、eco IDLE によるアイドリングストップをしない場合や、アイドリングストップ中にブレーキペダルから足を離さなくてもエンジンが再始動することがあります。

eco IDLE によるアイドリングストップ中にエアコンを作動させるには

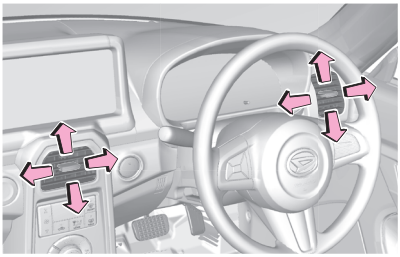
● アイドリングストップ中はエアコンの冷房・除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。

- ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
- eco IDLE OFF スイッチを押す

（eco IDLE（エコアイドル）→ 149 ページ）

風向きの調整

吹き出し口



左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。

● ツマミを動かして調整します。

知識

● 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

各ダイヤル／スイッチの使いかた

❶ MODE（吹き出し口切り替え）スイッチ

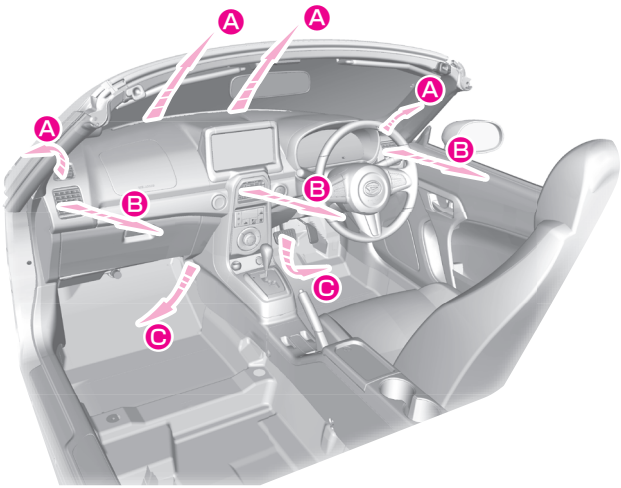
スイッチを押すごとに、吹き出し口が「 → → → 」の順に切り替わります。

- 選択された吹き出し口が表示部に表示されます。
- 風量は吹き出し口によって異なります。

表示				
吹き出し口	B	B C	C (A)	A C

（　）は特に風量の少ないものを示します。

▼ 吹き出し口の位置

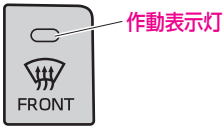


⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、吹き出し口を に切り替えないでください。
  外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

❷フロント デフロスター スイッチ



●スイッチを押すと、吹き出し口が切り替わり、自動的にエアコンが作動して外気導入に切り替わります。

• 作動表示灯が点灯します。

●スイッチをもう一度押すと、曇り止めが停止し、元の状態に戻ります。

• 作動表示灯が消灯します。

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

●湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、スイッチを“ON”にしないでください。
外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

知識

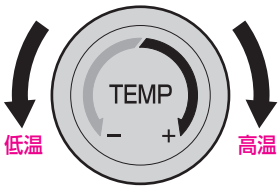
CVT 車では

●スイッチが“ON”のときは、eco IDLE によるアイドリングストップをしません。

●eco IDLE によるアイドリングストップ中にスイッチを“ON”にすると、エンジンが再始動します。

（eco IDLE（エコアイドル）→ 149 ページ）

❸温度調整ダイヤル



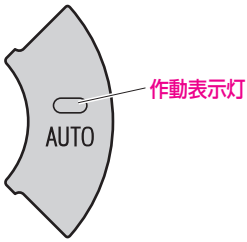
ダイヤルを左右に回して、設定温度を調整します。

●設定温度が表示部に表示されます。

知識

●設定温度を 18℃～ 32℃の間で調整することができます。最大冷房にすると“LO”、最大暖房にすると“HI”の表示になります。

❹ AUTO スイッチ



スイッチを押すと、吹き出し口、風量、および内外気の切り替えが自動的に調整されます。

● 作動表示灯が点灯します。

知識

AUTO スイッチが“ON”のときは

● 吹き出し口、または風量を手動で調整すると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、調整した機能以外は自動調整のままとなります。すべての機能を自動調整に戻すときは、再度 AUTO スイッチを押してください。

● 吹き出し口が ⁂ または ⁂ で、冬場などの寒いときには、温風の準備ができるまで、中央、左右、足元吹き出し口から風は出ません。

● 吹き出し口が ⁂ または ⁂ で、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動します。

● エアコン始動時に発生する臭いを抑えるため、エアコン始動直後は、しばらく風が出ない場合があります。

CVT 車では

● AUTO スイッチが“ON”のときで、eco IDLE によるアイドリングストップ中は、風量が少なくなるように調整されることがあります。
エンジンが再始動すると、風量は自動調整に戻ります。

（eco IDLE（エコアイドル）→ 149 ページ）

❺内外気切り替えスイッチ

スイッチを押して内気循環、外気導入を切り替えます。

▼ 内気循環（作動表示灯が点灯）

● 外気をしゃ断している状態です。
トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。

▼ 外気導入（作動表示灯が消灯）

● 外気を導入している状態です。
通常はこの位置でお使いください。

⚠ 注意

● “内気循環”を長時間使用しないでください。ガラスが曇りやすくなります。
● トンネルや渋滞時などは、“内気循環”にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。

知識

● 設定温度や室内温度などにより、自動的に“内気循環”または“外気導入”へ切り替わることがあります。
● エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風が臭うことがあります。
エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

❻ファン調整スイッチ

吹き出し口からの風量を調整します。

● 風量が表示部に表示されます。

▼ 風量を強くするには

● スイッチの“▲”側を押します。

▼ 風量を弱くするには

● スイッチの“▼”側を押します。

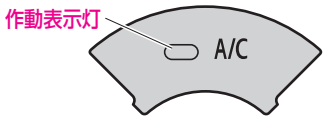
▼ ファンを停止するときは

● OFF スイッチ（❽）を押します。

知識

● 吹き出し口が ⁛ または ⁛ で、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動する場合があります。
● エアコン始動時に発生する臭いを抑えるため、エアコン始動直後は、しばらく風が出ない場合があります。

❼エアコンスイッチ



- ファンが作動中に、スイッチを押すとエアコン（冷房、除湿機能）が作動します。
  - 作動表示灯が点灯します。
- もう一度押すとエアコンが停止します。
  - 作動表示灯が消灯します。

知識

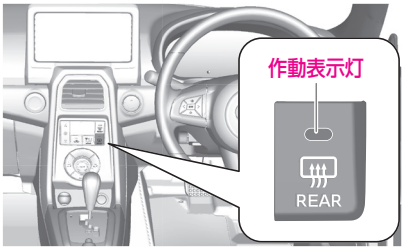
- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- 停車時（eco IDLE によるアイドリングストップ中は除く）の冷房効果を向上させるために、エンジンアイドリング回転を少し高くするアイドルアップ装置が付いています。アイドルアップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。
  冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかり踏んでください。

❽ OFF スイッチ

スイッチを押すと、空調機能が停止します。

リヤウインドデフォッガースイッチ

エンジンスイッチが“ON”のとき使用できます。



- スイッチを押すと、リヤウインドガラスが暖められ、曇りを取ります。
  - 作動表示灯が点灯します。
- スイッチをもう一度押すと、作動が停止します。
  - 作動表示灯が消灯します。

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

知識

- スイッチを押すと、約 15 分～ 60 分後に自動的に作動が停止します。
  （外気温や車両の走行状態によって作動時間が異なります）

リヤガラス内面を清掃するときは

- リヤガラス内面の電熱線を傷付けないでください。

温度調節センサー

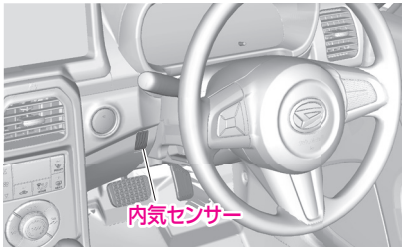
オートエアコンには自動的に温度調節を行うために、センサーが取り付けられています。

日射センサー

日射量を検知します。

内気センサー

室内温度を検知します。



知識

- 日射センサーの上に物を置いたり、内気センサーをシールなどでふさぐなどすると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

オーディオ

アンテナ

アンテナは、フロントガラス（室内側）にあります。

⚠ 注意

- フロントガラスのアンテナ周辺部に次の物を貼り付けないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が入るおそれがあります。
  - 金属を含有するウインドフィルム
  - その他の金属物（市販のアンテナなど）

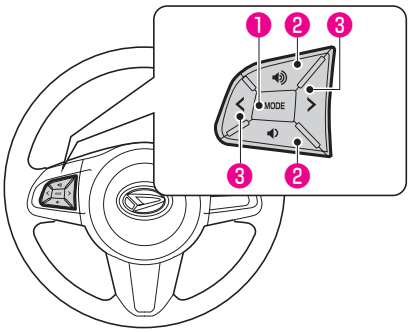
フロントガラス内面を清掃するときは

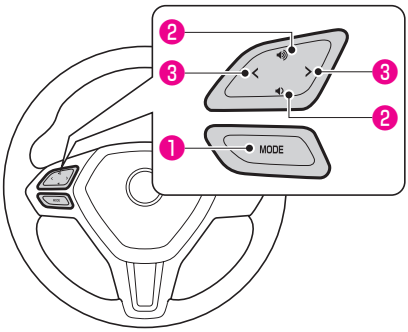
- アンテナを傷つけないように水を含ませて固くしぼった柔らかい布でアンテナにそって軽くふいてください。ガラスクリーナーや、ベンジン、ガソリン、シンナーなどの有機溶剤、シールはがし剤などは、アンテナをいためますので使用しないでください。

ステアリングスイッチ

オプション / グレード別装備

エンジンスイッチが“ON”または“ACC”のとき、ハンドルにあるスイッチでオーディオを操作することができます。





❶ MODE スイッチ　❷ ボリュームスイッチ　❸ 選局（選曲）スイッチ

知識

- オーディオ、ナビゲーションシステムにより、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属している取扱説明書をお読みください。

室内装備品

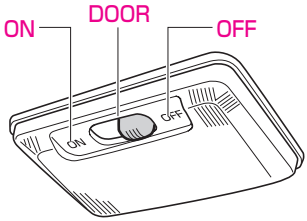
室内照明

ルームランプ

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間点灯させないでください。



▼ スイッチが“ON”のとき

ドアの開閉に関係なく点灯します。

▼ スイッチが“OFF”のとき

ドアの開閉に関係なく消灯します。

▼ スイッチが“DOOR”のとき

ドア連動機能により、点灯・消灯します。

ドア連動機能

すべてのドアが閉まっているとき、以下の操作により、照明が点灯・消灯します。

▼ エンジンスイッチの切り替え

エンジンスイッチ	室内照明
ACCまたはOFF → ON	消灯
ON → OFF	約15秒間点灯後に消灯

エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”のとき、下記の操作に連動して照明が点灯・消灯します。

▼ 運転席ドアの施錠・解錠

運転席ドア ロック	室内照明
解錠 → 施錠	消灯（点灯中は減光後に）
施錠 → 解錠	約15秒間点灯後に消灯

▼ ドアの開閉

ドア	室内照明
全閉 → いずれか開	点灯
いずれか開 → 全閉	約15秒後に消灯

📖 知識

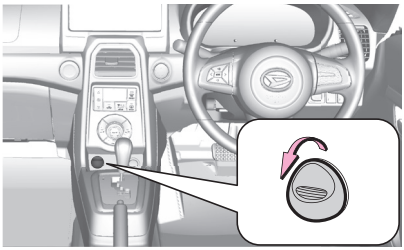
- 室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

バッテリーあがり防止機能

室内照明のスイッチが“DOOR”のとき、バッテリーあがり防止のため、自動的に室内照明を消灯する機能です。

- エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”で、ドアを開けたまま約 10 分が経過すると、自動的に消灯します。
- 再度、点灯させるには、すべてのドアを閉めるか、エンジンスイッチを“ON”にしてください。

アクセサリーソケット



電化製品の電源用ソケットとして利用することができます。

- カバーを外し、電化製品の電源プラグを差し込んで使用します。

⚠ 注意

- 電気容量は、DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）です。この容量以上の電化製品を使用しないでください。最大電気容量を超える電化製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。
- アクセサリーソケットを使用しないときは、カバーを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。

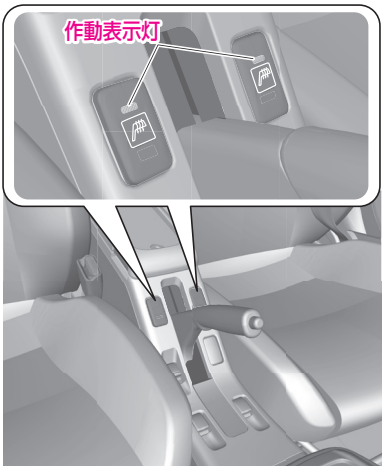
バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを停止した状態で使用しないでください。
- エンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用しないでください。

知識

- アイドリングストップからエンジンが再始動すると、アクセサリーソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。
（eco IDLE（エコアイドル）→149 ページ）
- 故障を防ぐため、電化製品はダイハツ純正用品をおすすめします。

シートヒーター



エンジンスイッチが“ON”のとき使用できます。

- スイッチを押すと、シートの背もたれと座面が暖まります。
  - 作動表示灯が点灯します。
- スイッチをもう一度押すと、作動が停止します。
  - 作動表示灯が消灯します。

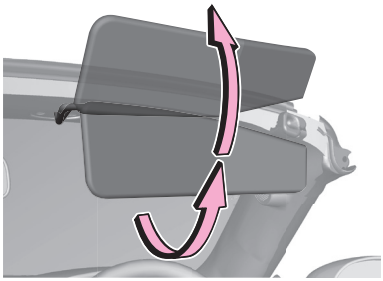
⚠ 注意

- 下記に相当されるかたがご使用になるときは、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので十分注意してください。
  - 乳幼児、お子様、お年寄り、病人、体の不自由なかた
  - 皮ふの弱いかた
  - 疲労の激しいかた
  - 深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用されたかた
- 毛布や座布団など保温性のよい物をかけた状態で使用しないでください。シートが異常加熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあります。
- シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
  低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常加熱の原因になるおそれがあります。
- 凸凹のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突きさしたりしないでください。故障の原因になります。
- シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。
- 液体をこぼしたときは、速やかに乾いた布で拭き取ってください。
- 使用中に異常が発生したときは、ただちにスイッチを“OFF”にし、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めて長時間使用しないでください。

ウインド & サンバイザー



直射日光などでまぶしいときやルーフオープン時に風の巻き込みを防ぐために使用します。

知識

- サンバイザーと天井の間にものをはさまないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり、危険です。
- サンバイザーにはデフレクター機構が付いています。アクティブトップオープン時に上に向けきることで、風の巻き込みなどを防ぐ効果があります。

収納装備

収納装備はグレードやオプション装備により、一部異なることがあります。

⚠ 警告

- ライターやスプレー缶などを収納したままにしないでください。 炎天下で車内が高温になったときに爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあります。

フタが無い収納装備について

- 走行中に転がり落ちるようなものを置かないでください。 ブレーキペダルやアクセルペダルにものがはさまると、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなったりするおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- プラスチック素材のメガネなどを収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときの熱や他の収納物との接触により、変形やひび割れを起こすことがあります。
- 炭酸飲料を収納したままにしないでください。 炎天下で車内が高温になったときなどに破裂することがあります。
- 走行中に物を出し入れしないでください。 思わぬ事故につながるおそれがあります。

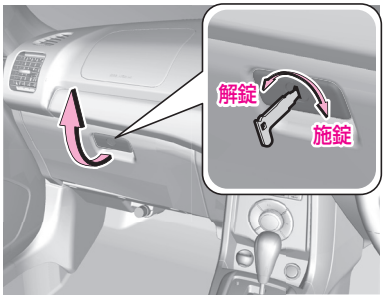
メッシュポケットについて

- メッシュを損傷するような鋭利なものや重たいものを収納しないでください。

フタ付き収納装備について

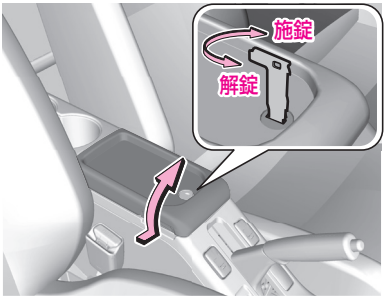
- 走行中は必ずフタを閉めておいてください。 急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたフタに体が当たったり、中のものが飛び出したりするおそれがあります。
- フタを開けた状態から、さらに開く方向に力を加えないでください。変形や破損のおそれがあります。
- オープンの状態で車から離れる時は必ず鍵を掛けてください。 盗難やいたずらにあうおそれがあります。

グローブボックス

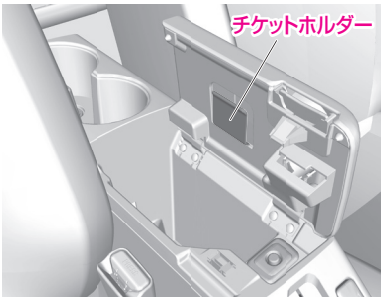


- レバーを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。
- キーでグローブボックスに鍵を掛けることができます。

コンソールトレイ & ボックス



▼ チケットホルダー



▼ ボックスを使用するときは

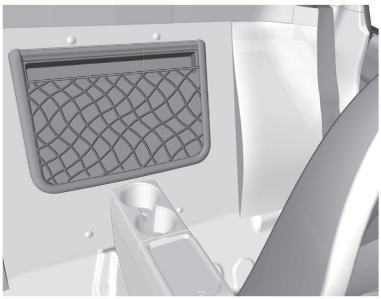
- レバーを押して上に開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。
- キーでコンソールボックスに鍵を掛けることができます。

知識

- シート位置によってコンソールボックスが開けにくい場合は、シートをスライドさせてください。
- キーが差しにくい場合は、鍵穴のくぼみにあわせキーを少し斜めに差し込んでください。

ドアポケット

バックパネルポケット



ドリンクホルダー

⚠ 注意

- 飲み物は振動で中身がこぼれるおそれがありますので、フタをしてこぼれないようにしてください。特に温かい飲み物は、やけどを防ぐために必ずフタをしてください。
- 飲み物がこぼれたときはただちにふき取ってください。スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
- 炭酸飲料を収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときなどに破裂することがあります。
- ドリンクホルダーには、使用用途以外の物を置かないでください。急ブレーキをかけたときや、衝突したときなどに置いていた物が飛び出し、けがをするおそれがあります。
- カップホルダーには、ペットボトルやカップ、飲料缶以外の物を置かないでください。急ブレーキをかけたときや、衝突したときなどに置いていた物が飛び出し、けがをするおそれがあります。
- ペットボトルは形状によって、しっかり固定されない場合があります。
  しっかり固定されないままで走行すると、振動でペットボトルが落下し、運転のさまたげになるおそれがありますので、確実に固定されることを確認してから使用してください。

知識

- ペットボトルの大きさや形状によっては収納できないことがあります。

カップホルダー

ペットボトルや缶ジュース、カップなどを置くときに便利です。

車のお手入れ

日常のお手入れ
ボデー、塗装面の
お手入れ …… 180
室内のお手入れ …… 183
簡単な点検・部品の交換
エンジンルーム内の点検 … 184
消耗品の補給、交換 …… 186
タイヤの点検 …… 189
ワイパーの交換 …… 194
エアコンガス、
フィルターの交換 …… 196
ヒューズの交換 …… 197
電球（バルブ）交換 …… 199
キーの電池交換 …… 207

日常のお手入れ

ボデー、塗装面のお手入れ

塗装面など車体の外観を美しく保つために、洗車、ワックスがけを月1回程度で定期的に行ってください。また、長時間屋外で駐車するときは、ボデーカバーを付けるように心がけましょう。

車体にほこりや異物などを付けたままにしておきますと、塗装面の劣化や車体、部品の腐食を早めたり、化学変化による塗装面の変色やはん点の発生などの原因になります。

下記の場合は早めに洗車をしてください。

- 海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ばい煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所に駐車したとき
- コールタール、花粉、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- ほこり、泥などで著しく汚れたとき

知識

- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは、特に車体の下回り、足まわりを念入りに洗車してください。
- 塗装の飛石傷やかき傷は、腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
- 保管、駐車は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しくお手入れを行ってください。

洗車

⚠ 注意

- 洗車をするときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。車体がへこむおそれがあります。
- 故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障の原因になります。
- 洗車後や水たまり走行後は低速でブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。
- 高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。
- 下回り足回りを洗うときは手をけがしないように注意してください。
- ランプのレンズ表面をワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤でふいたり、硬いブラシでこすらないでください。レンズが破損したり、劣化を早めるおそれがあります。
- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤は使用しないでください。

洗車のしかた

1 十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗う
- 汚れのひどい箇所はカーシャンプー液または中性洗剤で洗い、水で完全に流します。

2 水が乾かないうちにふき取る

自動洗車機を使用するとき

⚠ 注意

- ドアミラーは必ず格納し、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択して前側から洗車してください。
- エアコンは“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。
- ときによりブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

高圧洗車機を使用するとき

⚠ 注意

- ドアガラスやドア周り、ルーフなどの開閉部分は高圧洗車は避けてください。
  - ドアガラスやドア周りなどの開閉部分に洗車ノズルを向けると、車内に水が入ることがあります。
- フロントドア・トランクのリクエストスイッチ周辺に洗車ノズルの先端を近付けすぎないようにしてください。水圧によりスイッチが破損するおそれがあります。
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

ワックスがけ

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行ってください。

▼ ワックスをかける前に

塗装面の汚れを水洗いし、水分を十分にふき取ってから日陰または車体表面が体温以下になっているときに行ってください。

⚠ 注意

- 研磨剤 (コンパウンド) 入りのワックスは使用しないでください。
- フロントドア・トランクのリクエストスイッチ周辺にワックスが付着したときは、鋭利なもので清掃しないでください。スイッチが変形して操作のさまたげになるおそれがあります。

知識

- 塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。

D ラッピング（成型フィルム貼付け）について

オプション / グレード別装備

コーティングを施しているため、ワックスをかける必要はありません。

- D ラッピング表面の凹凸に固形ワックスなどが入り込んだ場合は、柔らかいブラシ（歯ブラシなど）で取り除いてください。

外装部品・塗装部品のお手入れ

外装部品･塗装部品にガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。

- 付着した場合は、すみやかに柔らかい布でふき取った後、多量の水で流してください。

知識

- 傷の補修をする場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

アルミホイールのお手入れ

アルミホイールはボデーの洗車と同じ要領で行い、ボデーと同じワックスでワックスがけをしてください。

⚠ 注意

- アルミホイールにワックスがけをする際は、ホイールナットの座面にワックスを付着させないように注意してください。必要以上に締め付けられ、ボルトが破損するおそれがあります。

室内のお手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材の汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。洗浄後、残った洗剤分は真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。室内側のウインドガラスも、こまめにふいておきましょう。汚れたままにしておくと、取れにくくなる場合があります。

⚠ 注意

- シートの下など見えにくい場所や狭い場所に手を入れるときは、けがをしないように十分注意してください。
- ベンジン、ガソリン、シンナーなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。
  特にシートベルトについては、必ず中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。中性洗剤以外を使用すると、ベルトが弱くなり万一のときに正常なはたらきをしないことがあります。
- メーターのレンズカバーにガラスクリーナーやアルコールなどを使用しないでください。変色・ひび割れの原因となります。
- 各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。
- 乾燥は直射日光をさけ、風通しが良く、ほこりの立たない日陰で行ってください。素材のいたみを早める原因となります。

車内に水などをかけないでください

- インストルメントパネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
  万一、水、飲み物などがかかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにダイハツサービス工場にご相談ください。
- 液体芳香剤は、こぼれないように容器を確実に固定してください。また、インストルメントパネルの上やメーターの近くに置かないでください。液体がこぼれて樹脂部品や布材、メーターのレンズカバーに付着すると、変色・ひび割れの原因となります。

フロントガラス内面を清掃するときは

- アンテナを傷つけないように水を含ませて固くしぼった柔らかい布でアンテナにそって軽くふいてください。ガラスクリーナーや、ベンジン、ガソリン、シンナーなどの有機溶剤、シールはがし剤などは、アンテナをいためますので使用しないでください。

知識

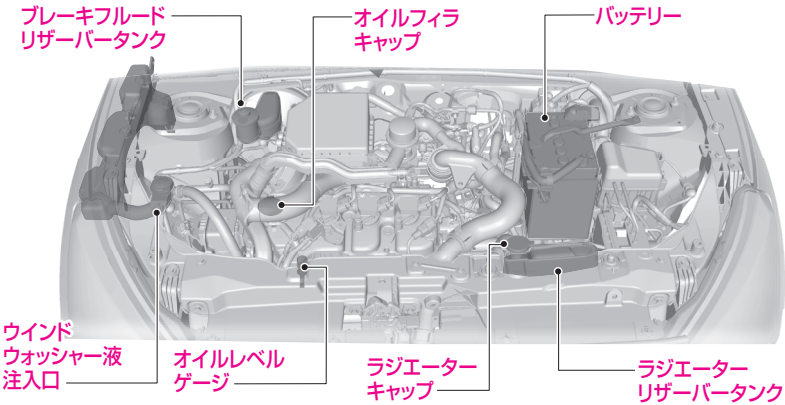
- リヤウインドガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。

簡単な点検・部品の交換

車を安全、快適にご使用いただくには、日頃のお手入れが大切です。点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

エンジンルーム内の点検

グレードの違い、注文装備も記載しています。



ボンネットの開閉

⚠ 警告

けがや事故を防ぐために

- エンジン回転中や停止後は、エンジンルームが大変高温になっていることがあります。やけどをするおそれがありますので、エンジンルームを開ける前に十分冷めていることを確認してください。
- 以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  - ボンネットを閉めたあとは、ボンネットが確実にロックしたことを確認してください。ボンネットが確実に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあります。
  - ボンネットを開けているとき風にあおられるとステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。
  - お子さまにボンネットの開閉はさせないでください。ボンネットは大変重く、開閉中うっかり手を離すと思わぬけがにつながるおそれがあります。

⚠ 警告

点検作業をしたあとは

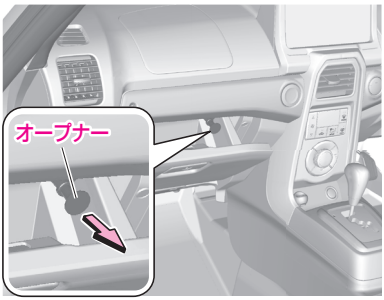
● エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

ボンネットの開けかた

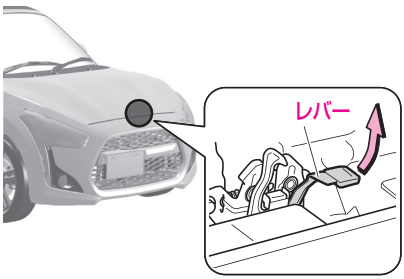
⚠ 注意

● ワイパーを起こしたままでボンネットを開けないでください。ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。

1 グローブボックス内のオープナーを手前に引く
- オープナーを引くと、ボンネット前部が少し浮き上がります

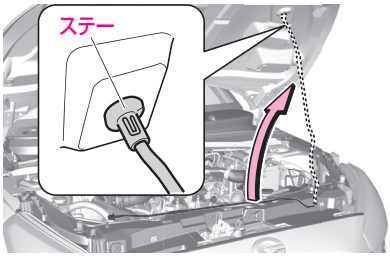


2 ボンネット前部のキャッチフックレバーを矢印の方向に引き上げる



3 ボンネットを持ち上げる

4 ステーを外し、ボンネットの固定穴に差込む

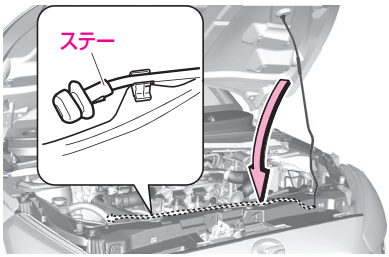


5 ボンネットが確実に固定されたことを確認する

▼ ボンネットの閉めかた

1 ボンネットを片手で支える

2 ステーを外して元の位置へ戻す



3 ボンネットを静かに下げ、手で押さえるようにして閉める

知識

● ボンネットを閉めるとき、手で強く押さえすぎないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

消耗品の補給、交換

消耗品の補給、交換などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

⚠ 警告

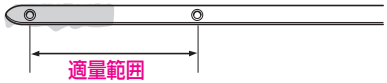
- エンジンルームは大変高温になっていることがあるため、下記のことをお守りください。
  - やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
  - 点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- オイルを点検・交換するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。オイルが付着したときは、ただちに拭き取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- エンジンルームを点検するときは、フロントガラス下部周辺に物を置かないでください。エンジン内部に物が落下し、故障につながるおそれがあります。

エンジンオイル

エンジンオイルの量を定期的に点検してください。なお、高速走行を行う前には、必ず点検してください。



オイルレベルゲージ

知識

- エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをするはたらきがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- 外気温が低いときに、オイルフィラキャップの裏側や、オイル注入口にエンジンオイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。
  これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジンオイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機等で水分が蒸発すると解消します。
  この現象によるエンジンオイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありません。

冷却水

▼ 冷却水の点検について

ラジエーターリザーバータンクの側面の目盛りで行ってください。

詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

⚠ 警告

- 水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているので、蒸気や熱湯がふき出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。ファンが回転するため、大変危険です。

ウインドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を定期的に点検してください。ウォッシャー液が不足しているときは、ダイハツ純正ウインドウォッシャー液を補給します。

⚠ 警告

- エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときはウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみや目づまりになるおそれがあります。

知識

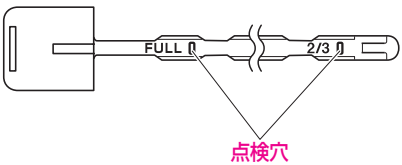
- ウインドウォッシャー液はダイハツ純正をおすすめします。ウォッシャー液の濃度の使い分けと注意事項はウォッシャー液の容器に記載されています。
- ウォッシャー液をあふれるほど入れないでください。

▼ 点検のしかた

1 ウォッシャータンクのキャップを外し、レベルゲージを引き抜く

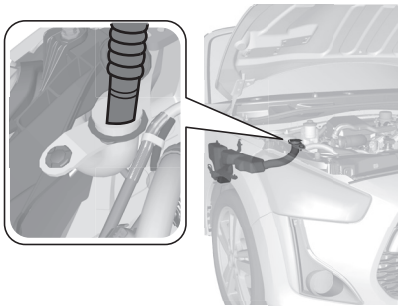
2 ゲージの“2/3”点検穴に、ウォッシャー液の膜があるか確認する

- “2/3”点検穴に膜がないときは、ウォッシャー液を“FULL”まで補給します。



▼ 補給のしかた

ウォッシャータンクのキャップを外し、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。



タイヤの点検

タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧の点検は、法的に義務付けられています。最低でも月に 1 回行ってください。
タイヤが冷えているときに、タイヤゲージで空気圧が規定値にあるかを点検してください。
空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。
（タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。）

⚠ 警告

- 指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗や早期摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象 * によりタイヤがバースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

- タイヤが冷えているときとは、一般道路で走行距離が 1km 以下の場合、または 3 時間以上駐車している状態のことをいいます。
- タイヤが暖まっているときは、タイヤの中の空気が膨張しているので、約 20 ～ 30kPa（0.2 ～ 0.3 {kgf/cm^2}）空気圧が高くなっています。この場合、誤って空気圧を下げないようにしてください。

タイヤの亀裂、損傷

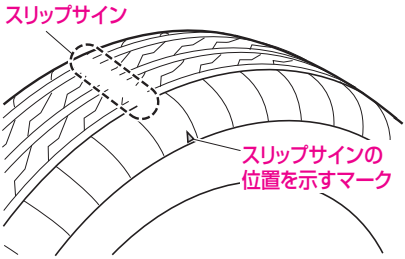
タイヤの側面や接地部全周に亀裂や損傷がないかを点検してください。
また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検してください。

⚠ 警告

- タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。
- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
  また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横滑りするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、ダイハツサービス工場で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

* 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗



タイヤの溝の深さに不足がないかをスリップサイン（摩耗限度表示）により点検してください。
また、タイヤの接地面全周に極端にすり減っている箇所がないかを点検してください。

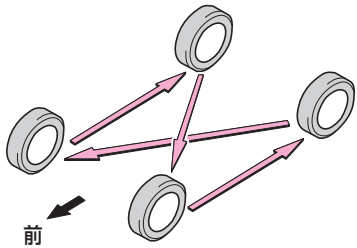
⚠ 警告

- 摩耗限度を超えたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象＊により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。摩耗限度を超えたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

タイヤのローテーション

タイヤは同じ位置で長く走ると、それぞれ異なった減りかたをします。これを防ぐために、タイヤの位置をローテーションしてください。
ローテーションは5,000km走行ごとに行ってください。

▼ ローテーションのしかた



図の順にローテーションしてください。
（タイヤの交換→ 191 ページ）

知識

- タイヤパンク応急修理セット装着車では、応急用スペアタイヤを利用するタイヤのローテーションができません。ダイハツサービス工場にご相談ください。

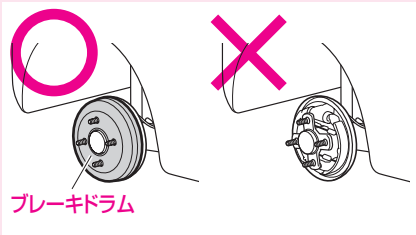
＊ 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

タイヤの交換

▼ 交換作業を行うにあたって

⚠ 警告

- ジャッキアップした車の下にもぐらないでください。万一、ジャッキが外れると大変危険です。
- 駐車ブレーキは、必ずしっかりとかけてください。駐車ブレーキをかけずに後輪タイヤを取り外すと、まれにブレーキドラムがタイヤと一緒に外れることがあります。タイヤを外したあとは、ブレーキドラムが外れていないことを確認してください。ブレーキドラムが外れたままタイヤを交換すると、ブレーキが効かず大変危険です。



- この車専用以外のホイールを使用しないでください。専用以外のホイールを使用すると、走行装置やブレーキ装置に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。
- アルミホイール装着車は、ダイハツ純正アルミホイール専用品以外のナットは使用しないでください。走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

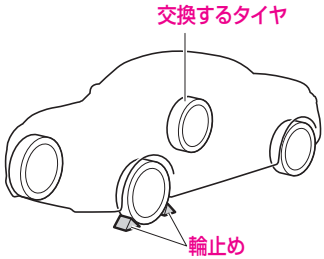
⚠ 注意

- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。
- 傷、変形がある物は再使用しないでください。
- タイヤの空気圧を確認してください。（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- 車を交通のさまたげにならず安全に作業できる平らな場所に移動させて作業を行ってください。
- パンクなどにより路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならない場所に寄せ、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。
- 人は車から降り、重い荷物は車から降ろしてください。

交換の手順

1 駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンは停止し、シフトレバーを CVT 車は Ⓟ の位置に、マニュアル車は 1 速にする

2 交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めを置く



知識

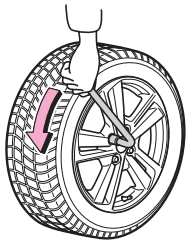
- 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

3 工具、ジャッキを取り出す

（格納場所→ 216 ページ）
（ジャッキの使いかた→ 217 ページ）

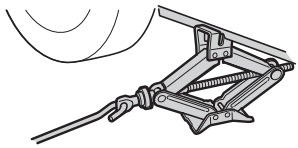
▼ タイヤの取り外し

1 ホイールナットはホイールナットレンチを使って、手で回るくらいまでゆるめる



2 タイヤと路面が少し離れるまでゆっくりジャッキアップし、車体を上げる

（ジャッキの使いかた→ 217 ページ）

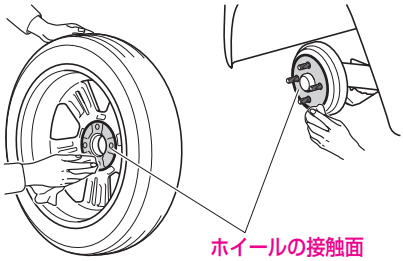


3 ホイールナット（4 つ）を外し、タイヤを取り外す

- タイヤを地面に置くときは、傷が付かないように、ホイール意匠面を上向きにしてください。

▼ タイヤの取り付け

1 取り付けるタイヤのホイール接触面の汚れをふき取る



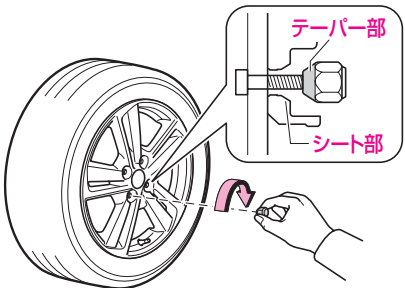
⚠ 警告

- ホイールの取り付け部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

2 タイヤを取り付ける

3 ホイールナットを、タイヤががたつかない程度まで仮締めする

- ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまで回します。



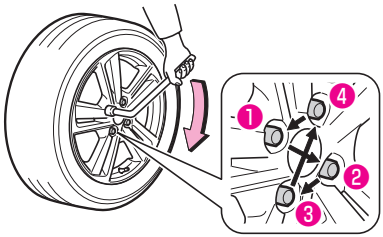
⚠ 警告

- ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損するおそれがあります。

4 車体をおろす

5 ナットを締め付ける

- ナットはホイールナットレンチで、対角線上に2、3度しっかり締め付ける
  - 締付力（レンチ先端にて）：440～590N {45～60kgf}
  - 締付トルク：103N•m {1,050kgf•cm}



⚠ 注意

- ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプを継ぎたしたりしないでください。必要以上に締め付けると、ボルトが破損するおそれがあります。

6 工具、ジャッキ、タイヤを片付ける

▼ タイヤを取り付けた後は

- しばらく走行したあと、ホイールナットにゆるみがないことを確認してください。

⚠ 注意

- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランス点検をダイハツサービス工場で受けてください。

ワイパーの交換

⚠ 注意

- ワイパーブレード、ラバーはダイハツ純正をおすすめします。ダイハツ純正以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- 傷んだワイパーブレードラバーを使用し続けると、ウインドガラスを傷付けるおそれがあります。拭きむらがある場合は、早めに交換してください。
- ワイパーブレード、ラバーを取り外したときは、ワイパーアームを倒さないでください。ウインドガラスやボンネットに傷が付くおそれがあります。
- 起こしたワイパーアームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。離れた位置から戻すと、ワイパーアームが変形したり、ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。
- 確実に取り付けられていることを確認してからワイパーを作動させてください。ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

フロントワイパー

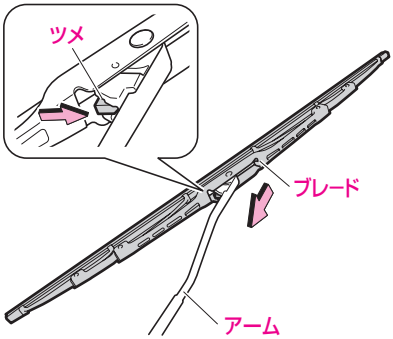
ワイパーブレード

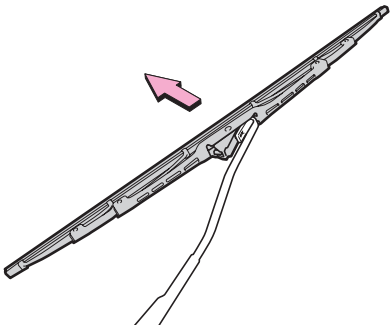
▼ 取り外しかた

1 アームを起こす

2 ブレードをツメが見える角度まで傾ける

3 ツメを押しながら、ブレードをスライドさせてアームから外す





▼ 取り付けかた

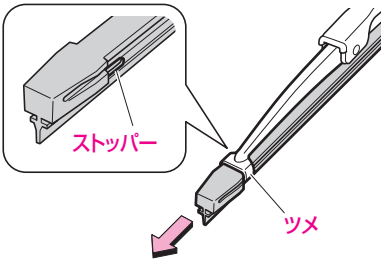
ブレードをアームに取り付けます。

- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

ワイパーブレードラバー

▼ 取り外しかた

1 ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引く



2 ラバーをそのままブレードから引き抜く

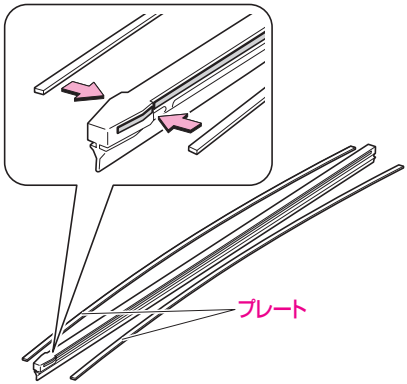
▼ 取り付けかた

1 プレートをラバーから取り外す

2 ラバーを交換する

3 プレートをラバーに差し込む

- プレートの反りの向きに注意してください。



4 ラバーはストッパーがない側からブレードに挿入する

5 ラバーのストッパーをブレードのツメで確実にとめる

⚠ 注意

- ストッパーが確実にとまっていないと、ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

知識

アームに取り付けるときは

- ストッパーのある側が運転席側になるように取り付けてください。

エアコンガス、フィルターの交換

エアコンガス

エアコンガスは新冷媒HFC134a(R134a)を使用しています。地球環境保全のため、大気放出しないでください。

知識

- エアコンガスの補充、エアコンの修理をする場合はダイハツサービス工場にご相談ください。

クリーンエアフィルター

エアコンには、車外から侵入する粉じんなどを除去し、車内を快適な空気に保つクリーンエアフィルターが取り付けられています。快適にお使いいただくため定期的な交換をおすすめします。

- フィルターの交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 交換の目安は 20,000km（大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所は10,000km）です。

知識

- エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

ヒューズの交換

下記のような症状が見られるとヒューズ切れが考えられます。点検、交換を行ってください。

- ランプが点灯しない
- 電気系統の装置がはたらかない

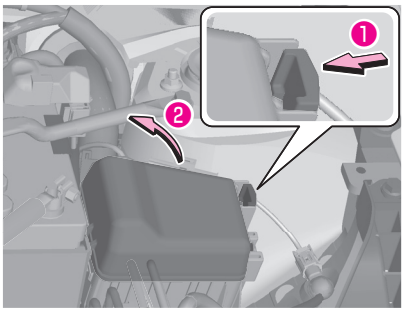
ヒューズについてはダイハツサービス工場にご相談ください。

ヒューズの位置

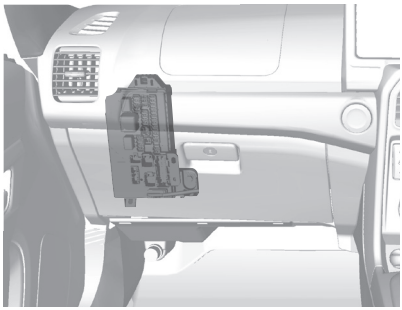
エンジンルーム内

▼ カバーの取り外しかた

カバー横のツメを押しながら（❶）、取り外す（❷）



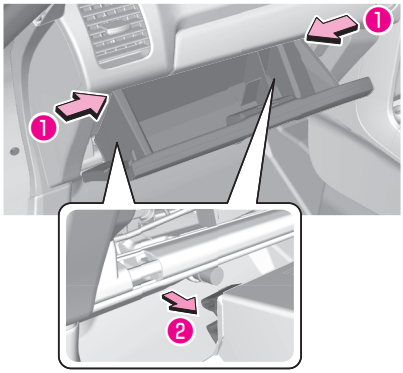
助手席足元



▼ グローブボックスの取り外しかた

1 ボックスを開け、上部のツメを外す
- 側面を左右の順でたわませます（❶）。

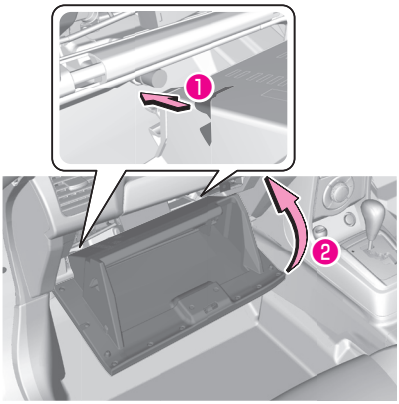
2 下部のツメ(❷) を外し、ボックスを取り外す



▼ グローブボックスの取り付けかた

1 下部のツメ（❶）を取り付ける

2 ツメがしっかりかん合していることを確認し、ボックスを押し込む（❷）



知識

- ツメのかん合が不十分だと、ボックスが開かなくなることがあります。

ヒューズの点検と交換

各ヒューズの配置と容量

▼ エンジンルーム内

ヒューズボックスのカバーに表示しています。

▼ 助手席足元

グローブボックスの裏側に表示しています。

知識

- グレードやオプション装備によって、所定の位置にヒューズが無い場合があります。また、装置がなくてもヒューズだけがついている場合があります。

ヒューズの点検・交換方法

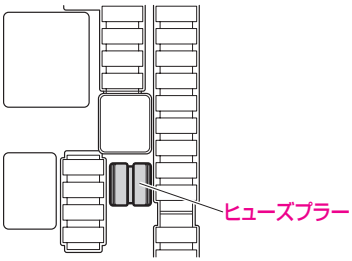
警告

- 規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱、損傷し、火災につながるおそれがあり危険です。

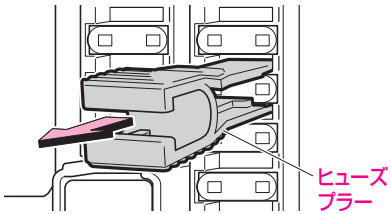
知識

- 交換してもすぐに切れてしまうときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

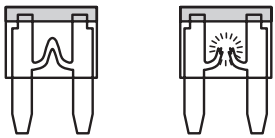
1 ヒューズプラーを助手席足元のヒューズボックスから取り出す



2 ヒューズをヒューズプラーで挟んで外す



3 取り外したヒューズを点検する



（正常）　（切れているとき）

▼ ヒューズが切れているときは

- 規定容量のヒューズと交換してください。

▼ ヒューズが切れていないときは

- ほかに原因が考えられます。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

電球（バルブ）交換

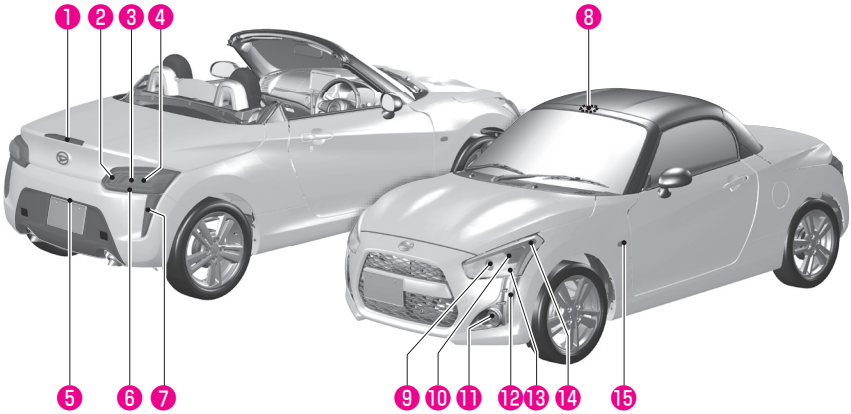
ヒューズが切れていないにも関わらず、ランプが点灯しないときは、電球切れが考えられますので、電球を点検し、切れている場合は電球を交換してください。

- 電球の交換作業に不慣れな方や、部品などの破損が心配な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 電球の交換作業をするときに必要な工具は、カー用品店などでご購入することができます。

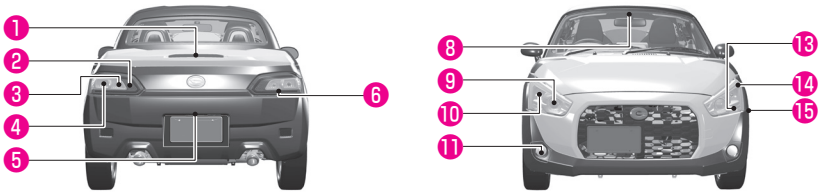
バルブの位置

グレードの違い、注文装備も記載しています。

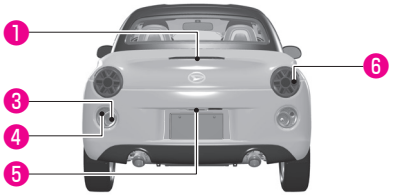
タイプⅠ

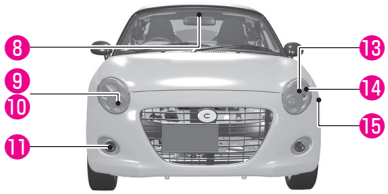


タイプⅡ

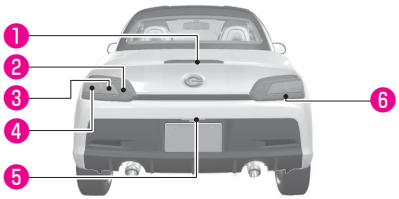


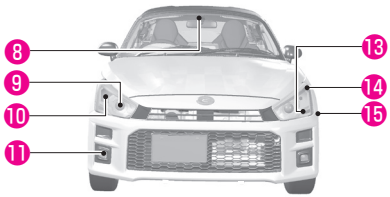
タイプⅢ





タイプⅣ





電球（バルブ）		W（ワット）数			
		〈タイプⅠ〉	〈タイプⅡ〉	〈タイプⅢ〉	〈タイプⅣ〉
❶	ハイマウントストップランプ	LED			
❷	制動灯	LED		—	LED
❸	後退灯	16			
❹	後面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21			
❺	番号灯	5			
❻	尾灯/制動灯	LED			
❼	尾灯	LED	—		
❽	ルームランプ	8			
❾	前照灯（Low）	LED			
❿	前照灯（Hi）	65		LED	65
⓫	フォグランプ	35			LED
⓬	フロントイルミネーション	LED	—		
⓭	前面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21			
⓮	車幅灯	LED			
⓯	側面方向指示灯 兼 非常点滅灯	※			

※バルブのみの交換をすることができません。点検・交換の際はダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 注意

- 電球は上記のワット数のものと交換してください。 大きなワット数のものに交換すると、過熱による故障や車両火災の原因につながるおそれがあります。

知識

LED ランプについて

- LED を使用しているランプは、LED のみの交換をすることができません。点検・交換の際は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ハイマウントストップランプ、制動灯 兼 尾灯などは複数の LED で構成されています。もし、LED が1つでも点灯しないときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

電球の交換

警告

- 電球を交換するときは、ランプを消灯させ電球が冷えている状態で行ってください。電球が熱い状態で、電球やその周辺を触ると、やけどをするおそれがあり危険です。
- 電球および電球固定具の取り付けが不完全な場合、発熱や発火、および水入りなどによる故障、レンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を修理、分解しないでください。感電による重大な傷害の原因となります。

注意

- 同じバルブ色の電球以外は使用しないでください。道路運送車両の保安基準に適合しない場合があります。
- 前照灯（フォグランプ含む）などに使用しているハロゲン電球は、ガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷を付けたりすると破損して、ガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。
  また、電球のガラス部は、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。油脂が付着すると、発熱による早期電球切れを起こします。
- 電球を交換しても点灯しない場合は、電球切れ以外の理由が考えられます。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

レンズ内の水滴と曇りについて

- ヘッドランプやリヤコンビネーションランプなどは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

交換作業をするときは

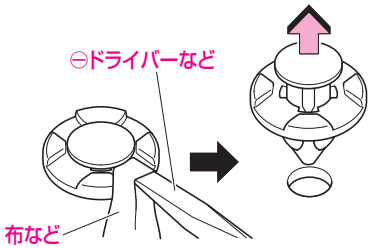
⚠ 注意

- ⊖ドライバーなどを使用するときは、布などを巻いてください。クリップ、レンズなどに傷が付くおそれがあります。
- ランプ本体やレンズを取り外すときは、ボデーに傷を付けないように注意してください。
- ネジなどでレンズを取り付けるときは、締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。

フェンダーライナーなどを固定しているクリップは、以下の手順で脱着します。

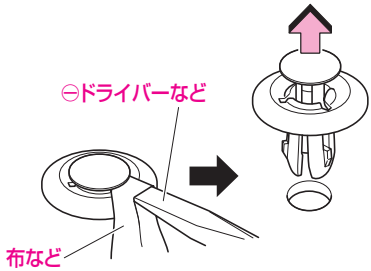
▼ クリップタイプ Ⓐ

- 取り外すとき：⊖ドライバーなどで中央部を浮かしたあと、クリップ全体を引っ張る
- 取り付けるとき：取り外した状態のまま差し込み、中央部を押し込む



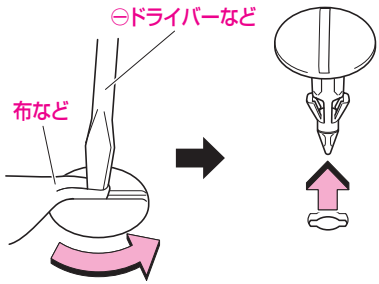
▼ クリップタイプ Ⓑ

- 取り外すとき：⊖ドライバーなどで中央部を浮かしたあと、クリップ全体を引っ張る
- 取り付けるとき：取り外した状態のまま差し込み、中央部を押し込む



▼ クリップタイプ Ⓒ

- 取り外すとき：⊖ドライバーなどで矢印の方向へ 90°回して取り外す
- 取り付けるとき：差し込んでから ⊖ドライバーなどで矢印と反対方向に 90°回す

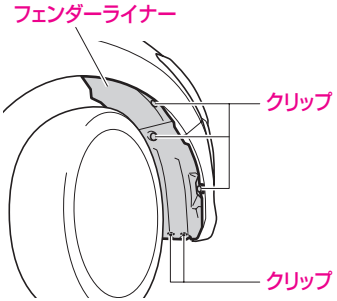


前照灯／ハイビーム
前面方向指示灯 兼 非常点滅灯
フォグランプ

▼ 取り外し手順

1 ハンドルを
右側の電球を交換する場合は左に、
左側の電球を交換する場合は右に、
いっぱいまで回す

2 交換する側のフェンダーライナーのクリップ（5 個）を取り外す



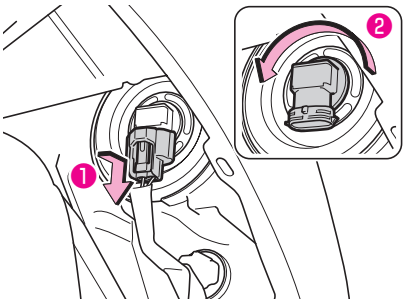
3 フェンダーライナーを、手が入る程度にめくる

前照灯／ハイビーム

タイプⅠ／タイプⅡ／タイプⅣ

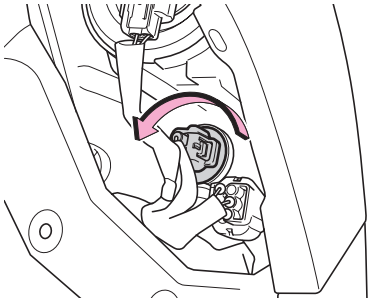
1 コネクターはツメ（❶）を押して取り外す

2 バルブを回して（❷）取り外す

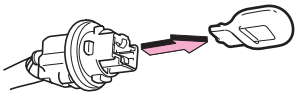


前面方向指示灯 兼 非常点滅灯

1 ソケットを回して取り外す



2 バルブを取り外す

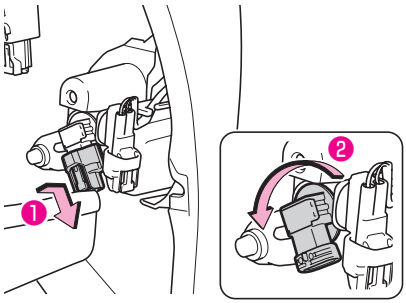


フォグランプ

タイプⅠ／タイプⅡ／タイプⅢ

1 コネクターはツメ（❶）を押して取り外す

2 バルブを回して（❷）取り外す



後面方向指示灯 兼 非常点滅灯
後退灯

タイプⅠ／タイプⅡ／タイプⅣ

▼ 取り外し手順

1 トランクを開ける

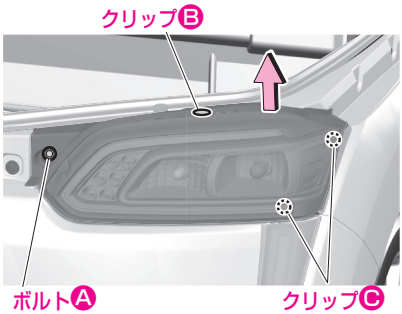
2 ランプ本体のボルト（Ⓐ）を取り外す

3 クリップ（Ⓑ）を取り外す

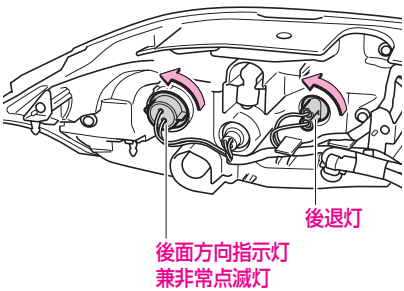
- ランプ本体を上から押さえ、クリップ（Ⓑ）頭下にできたすき間に、市販のクリップリムーバーなどを差し込んで外します。

4 ランプ本体を上方に引いて取り外す

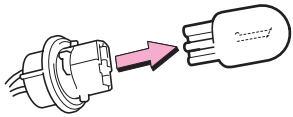
- 上方に引くと、クリップ（Ⓒ）が外れます。



5 交換する電球のソケットを回して取り外す



6 バルブを取り外す

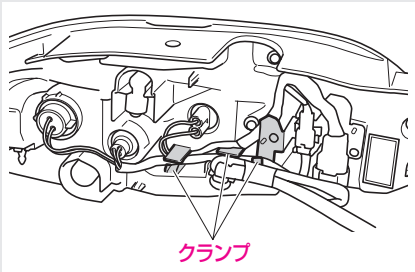


▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

⚠ 注意

- ランプ本体を取り付けるときは、必ず配線のテーピング部を目印にしてクランプに取り付けてください。
  クランプに取り付けていないと配線が車体に挟み込まれ、損傷するおそれがあります。



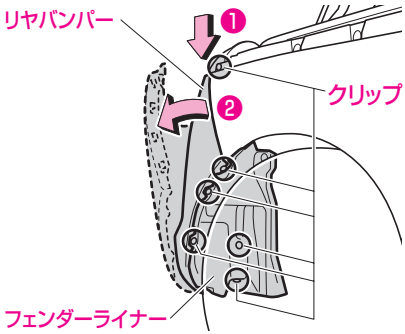
タイプⅢ

▼ 取り外し手順

1 トランクを開ける

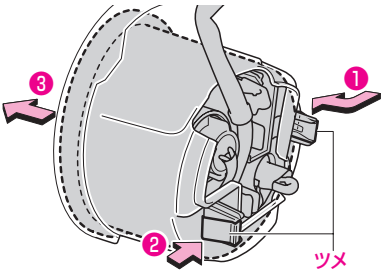
2 交換する側のリヤバンパーとフェンダーライナーのクリップ（6 個）を取り外す

3 リヤバンパーを真上から押し（❶）、矢印の方向（❷）に引いて、ツメの勘合を取り外し、手が入る程度にめくる

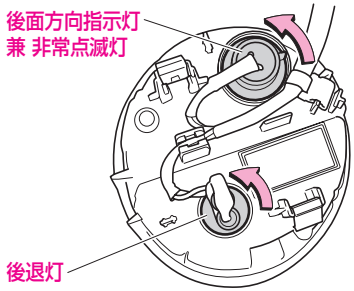


4 ランプ本体を取り外す

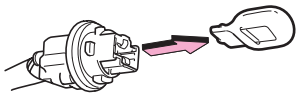
- 車両内側のツメを押してランプ本体を押し出した後（❶）、車両外側のツメ（❷）を押しながら取り外す（❸）。



5 交換する電球のソケットを回して取り外す



6 バルブを取り外す

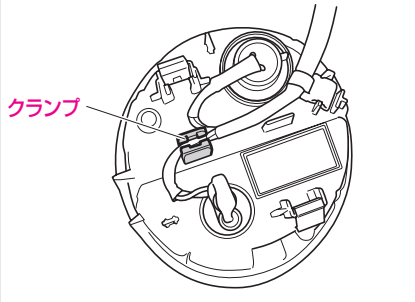


▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

⚠ 注意

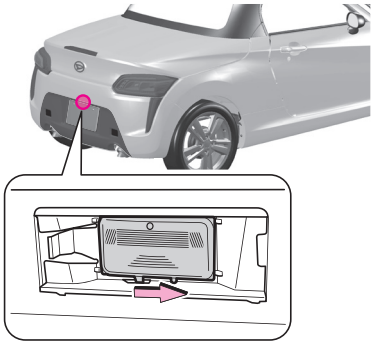
- ランプ本体を取り付けるときは、必ず配線をクランプに取り付けてください。クランプに取り付けていないと配線が車体に挟み込まれ、損傷するおそれがあります。



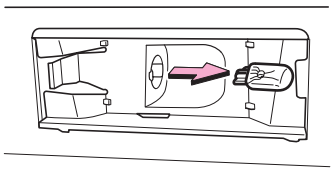
番号灯

▼ 取り外し手順

1 レンズを矢印方向にスライドさせて取り外す



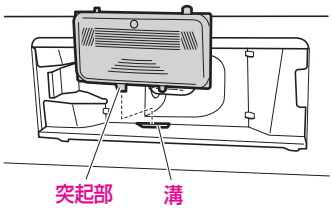
2 バルブを取り外す



▼ 取り付け手順

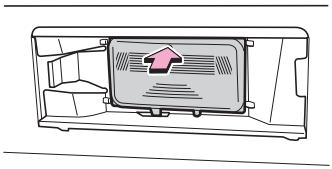
1 バルブを取り付ける

2 レンズの突起部をランプ本体の溝に入れる



3 レンズを矢印方向に押して取り付ける

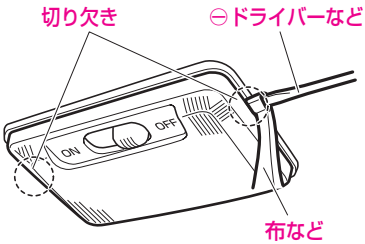
●レンズが確実に固定されたことを確認します。



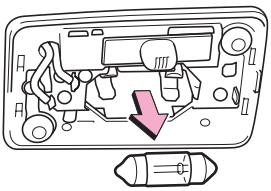
ルームランプ

▼ 取り外し手順

1 ⊖ドライバーなどを差し込んで、カバーを取り外す



2 電球を取り外す



キーの電池交換

次のようなときは、キーの電池消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

- スイッチを押しても作動しない
- 著しく作動距離が短くなった
- インジケーターが点灯しない

電池は、お客様自身で交換できますが、破損などのおそれがあるため、ダイハツサービス工場での交換をおすすめします。

交換方法

⚠ 注意

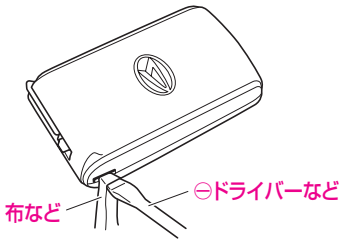
- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにご注意ください。
- 電池を交換するときは以下のことに注意してください。故障の原因になるおそれがあります。
  - 濡れた手で電池交換をしない
  - 電子部品に触れたり、端子を曲げたりしない
  - 油や異物を入れない

交換手順

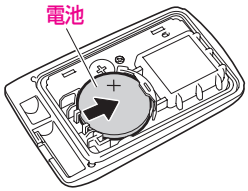
▼ 用意するもの

- 「CR2032（3V）」の新しい電池
- 薄刃の ⊖ ドライバーなど
  （くぼみに入る程度の薄さのもの）
  - 傷付き防止のため先端に布などを巻いてください。

1 電子カードキーのカバーを外す
- 用意した ⊖ ドライバーなどをくぼみに差し込みます。



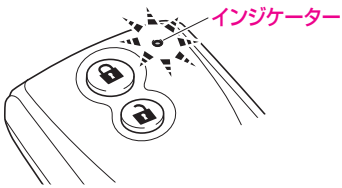
2 電池を取り出す
- 矢印方向に軽く押し込むと、電池が外れます。



3 新しい電池と交換する
- 電池は ⊕ 極を上側にして取り付けます。

4 カバーを取り付ける

5 スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認する



MEMO

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の取り扱い
冬に向かってのお手入れ … 210
走行前点検と準備 …… 211
積雪、寒冷時の走行 …… 212
走行中の点検と注意 …… 213
走行後の取り扱い …… 214

積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かってのお手入れ

点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下しエンジン始動やキーフリーシステムに支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジンオイル

冬期はオイルの劣化が激しくなります。指定グレードのエンジンオイルを、早めに交換してください。

冷却水

冷却水の凍結を防ぐためにクーラント（不凍液）の濃度の確認をダイハツサービス工場に依頼してください。

ウインドウォッシャー液

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

寒冷地用ワイパーブレード

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。
寒冷地用ワイパーブレードは、ダイハツサービス工場で各車指定のブレードをご購入ください。

⚠ 注意

- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりウインドガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合は速度を落として走行してください。

走行前点検と準備

走行前点検の際に下記の点検も行ってください。

足回りなどの着氷

車の下回りをのぞいて、足回りなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうかも確認してください。

車体への積雪

屋根に積もった雪は、走行する前に取り除いてください。走行時、ガラス面に落下すると視界のさまたげとなり危険です。

⚠ 注意

- 氷結している部分を無理に取り除くと塗装などをいためる場合がありますので注意してください。

ドアの凍結

ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア周りのゴムがはがれたり、破損するおそれがあります。ぬるま湯をかけて氷をとかしてください。開けたあとは水分をよくふき取ってください。不十分ですとまた凍結することがあります。

ウインドガラスの凍結

凍結しているときは、ぬるま湯をかけて氷をとかし、水分をよくふき取ってください。

⚠ 注意

- 氷をとかすときはぬるま湯を使用し、熱湯はかけないでください。ウインドガラスが割れるおそれがあります。
- ガラスに付いた氷を除去するとき、氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

ワイパーなどの凍結

ワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどが凍ったり、雪が固まって動かないときは、ぬるま湯をかけて氷や雪をとかし、水分をふき取ってください。

⚠ 注意

- 凍結したまま、または雪が固まったままワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどを無理に作動させると、ワイパーゴムを損傷したり、モーターなどが故障するおそれがあります。

乗車時の注意

靴にこびりついた雪は、乗車時によく落としてください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。また、床面などが加湿状態となり、腐食の原因となります。

積雪、寒冷時の走行

雪道、凍結路を走るときはタイヤチェーンまたは冬用タイヤを装着してください。

⚠ 注意

- 積雪時は、スピードを控えめにしてください。路面が凍結している可能性が高く、大変スリップしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  チェーン装着車、冬用タイヤ装着車であっても慎重な運転をしてください。

タイヤチェーンの装着

- 前輪駆動車ですので、チェーンは前 2 輪に装着します。
- チェーンはタイヤサイズに合った物をご使用ください。
  - 適合するタイヤチェーンについては、ダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 注意

- タイヤチェーンは車のタイヤサイズに合った、ダイハツ純正品または指定サイズの物を使用してください。サイズの合わないチェーンを使用すると、ブレーキ配管や車体を破損し、危険です。
- タイヤチェーンの取り付けは各タイヤチェーン付属の取扱説明書にしたがって行ってください。
- タイヤチェーン装着時は 30km/h 以上で走行しないでください。タイヤチェーンにかかる負担が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。

⚠ 注意

- 取り付け作業は雪上などをさけ交通のさまたげにならない安全で平らな場所で行ってください。必ず駐車ブレーキをかけ、非常点滅灯を点滅させ、人や荷物は降ろし、停止表示板も使用してください。
- 作業をするときは、車体端部などでけがをしないように注意してください。
- VSC&TRC 装着車は、チェーン装着時 VSC が正確に作動しない場合があります。
- タイヤチェーンを装着するとアルミホイールに傷が付くおそれがあります。

冬用タイヤの装着

⚠ 注意

- 冬用タイヤは必ず標準タイヤと同じ指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。
- タイヤの空気圧を確認してください。
  （タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- 地方により条例の違いがありますので、その地区の条例にしたがってください。

走行中の点検と注意

ブレーキの凍結

積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキパッドのしめりを乾かしてください。

⚠ 注意

- 万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

雪道、凍結路の注意

⚠ 注意

- 雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルをさけてください。スリップして方向性を失い事故につながるおそれがあります。

走行中の雪の付着

雪道走行時、タイヤハウス裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。ランプ類などは、走行中に雪のために暗くなることがあるので、ときどき異常のないことを確認してください。

パンク時の対応

タイヤパンク応急修理セットで応急修理をしてください。

（タイヤパンク応急修理セット
→ 220 ページ）

走行後の取り扱い

駐車方法

屋外に駐車するときは、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて止めてください。
エンジンが冷えすぎると、始動しにくくなることがあります。
また、ワイパーアームは起こしてください。雪の重みでワイパーアームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）が、ガラスに凍結したりすることがあります。

⚠ 警告

- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 寒冷時は駐車ブレーキをかけるとブレーキ装置が凍結して駐車ブレーキが解除できなくなるおそれがありますので使用しないでください。シフトレバーを CVT 車は Ⓟ の位置、マニュアル車は 1 速または Ⓡ（後退）に入れて輪止め * を置いてください。

知識

- 軒下や樹木の下での駐車はさけてください。落雪で車体を損傷するおそれがあります。

洗車方法

凍結防止剤をまいた道路を走行したときは、早めに下回りと足回りを洗車してください。放置すると腐食の原因となります。洗車後は凍結防止のため水分をよくふき取ってください。

知識

- ドアのキー挿入口やドア周り・ルーフ周りのゴム部の水分は特によくふき取ってください。

格納方法

長時間使わないで屋外に放置しておくときは、塗装面の保護とドア周りの凍結を防ぐために、ボデーカバーを使用してください。

⚠ 注意

- エンジンの冷えすぎを防ぐために毛布でおおったり、フロントグリルに段ボールや、新聞紙を挟み込まないでください。これがもとで燃え出す危険があります。

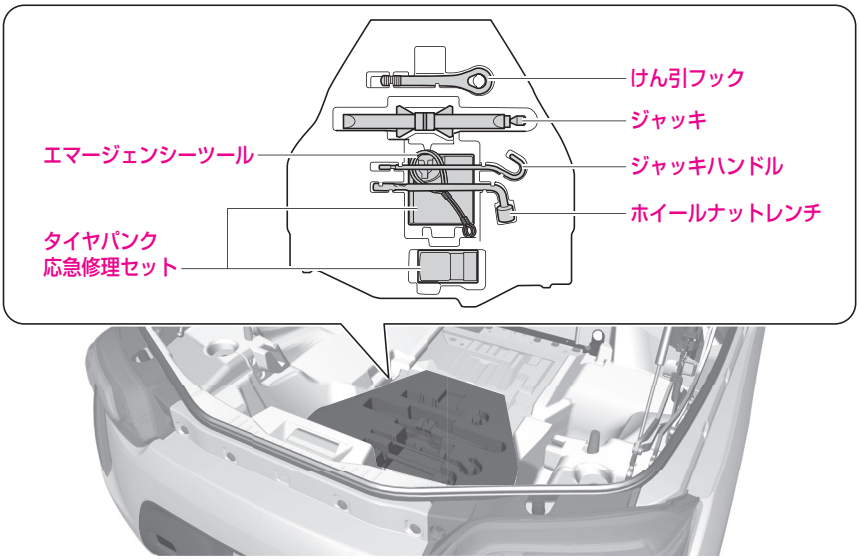
* 輪止めはダイハツサービス工場で購入できます。

いざというときに

工具類
格納場所 …… 216
ジャッキの使いかた …… 217
タイヤパンク
応急修理セット …… 220
いざというときの処置
エンジンがかからないとき… 228
スタック（立ち往生）
したとき …… 228
故障したとき …… 230
けん引されるとき …… 231
パンクしたとき …… 233
バッテリーあがりの処置 … 233
オーバーヒートの処置 …… 235
電子カードキーが
使用できないとき …… 237
アクティブトップが
閉まらないとき …… 241
キーを閉じ込めたとき …… 247
車両を緊急停止するには … 247
水没・冠水したときは …… 248
事故が起きたとき …… 248

工具類

格納場所

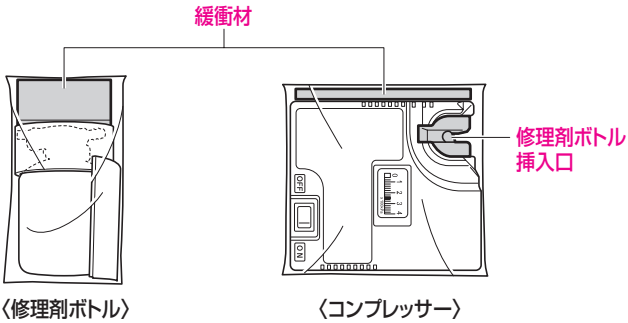


ジャッキ、工具、タイヤパンク応急修理セットは、トランク内のラゲージアンダーボックスに収納しています。

（ジャッキの使いかた→ 217 ページ）
（けん引されるとき→ 231 ページ）
（タイヤパンク応急修理セット→ 220 ページ）
（エマージェンシーツール→ 241 ページ）

▼ タイヤパンク応急修理セットについて

使用するときは、袋から出してください。



⚠ 注意

- ジャッキ、工具、タイヤパンク応急修理セットは所定の位置にしっかり固定してください。室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具が体に当たるなど、大変危険です。

タイヤパンク応急修理セットを取り出したときは

- 緩衝材が入っている場合は、必ず同封して収納してください。

ジャッキの使いかた

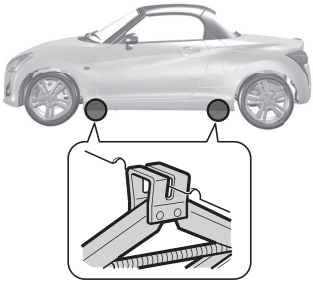
⚠ 警告

- ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると大変危険です。
- ジャッキアップするときはジャッキの上や下に物を挟まないでください。
- ジャッキアップするときは、必ず、駐車ブレーキをかけ、CVT 車はシフトレバーを Ⓟ レンジに、マニュアル車は 1 速に入れて、輪止めをしてください。車が動き出すおそれがあり危険です。
- ジャッキは砂や石ころのない安定した平らなかたい場所を選んでセットしてください。ジャッキアップしたとき、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車に備え付けのジャッキは、タイヤの交換、タイヤパンク応急修理およびタイヤチェーンの脱着以外には使用しないでください。
- ジャッキアップするときは、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをしてください。
- ジャッキは、セット位置以外にかけないでください。外れたり、車を損傷するおそれがあります。
- ジャッキアップするときは、人や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキは、伸ばすほど不安定になります。タイヤが地面から 3cm 以上離れないようにしてください。
- ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
- タイヤのローテーション時などに、車載のジャッキを用いて、両車輪同時に上げるようなことはしないでください。接地しているタイヤが動き、車体がずれるおそれがあります。

⚠ 注意

- 車に備え付けのジャッキは、お客様のお車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ジャッキをセットする位置



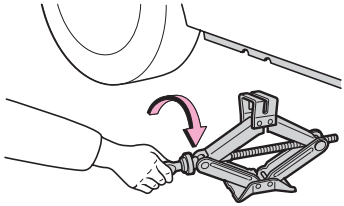
取り替えるタイヤに近いジャッキセット位置にセットします。

⚠ 注意

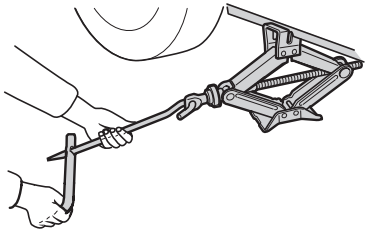
- ジャッキは必ずジャッキセット位置にセットしてください。

ジャッキのかけかた

▼ 操作手順



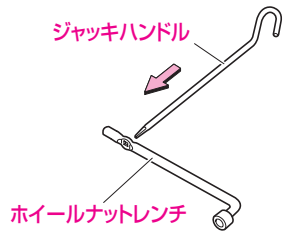
1 ジャッキを手で回して、セット位置まで上げる



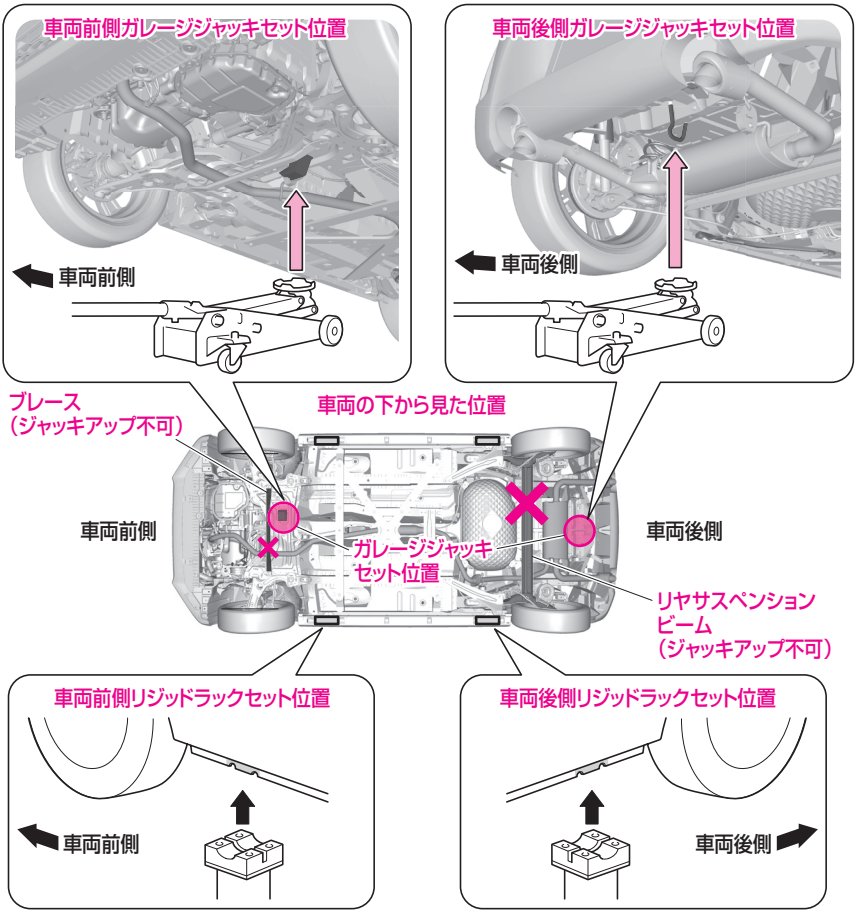
2 ジャッキが確実にセット位置にかかっていることを確認し、ジャッキハンドルを使って、タイヤが地面から少し離れる位置まで車を持ち上げる

知識

- ジャッキハンドルは図のように組み立てて使用してください。



ガレージジャッキ（市販品）を使用する場合

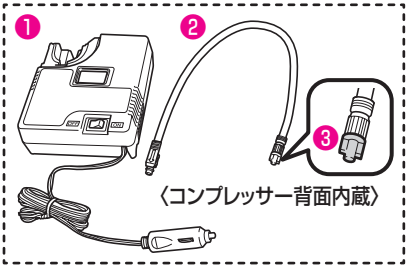


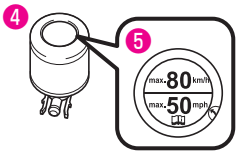
ガレージジャッキを使用する場合は、図のガレージジャッキ位置にセットしてジャッキアップを行ってください。その際は、必ずリジッドラック（市販品）をリジッドラックセット位置にセットしてください。

⚠ 注意

- ガレージジャッキおよびリジッドラックは、必ず正しい位置にセットしてください。正しい位置にセットしていないと、けがをしたり、車が損傷したりするおそれがあります。
- ガレージジャッキがセット位置以外の底面にぶつからないように確認しながら差し入れてください。
- ガレージジャッキのロッド部分をバンパーなどへぶつけないようにジャッキアップしてください。

タイヤパンク応急修理セット





❶ コンプレッサー
❷ ホース
❸ ホース栓
❹ 修理剤ボトル
❺ 速度制限シール

タイヤパンク応急修理セットは、コンプレッサーで空気とパンク穴をふさぐ修理剤を同時に充填して、軽度なパンクを応急修理することができます。

- タイヤパンク応急修理セット装着車には、応急用スペアタイヤは装着されていません。
- タイヤパンク応急修理セットは、応急時のタイヤ修理用です。応急修理後は、すみやかにタイヤの交換、またはダイハツサービス工場で、点検、修理を受けてください。

⚠ 注意

修理剤について

- 飲用すると体に害があります。もし誤って飲用された場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- 目に入ったり皮膚に付いたりした場合には、ただちに水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- 衣服などに付着した場合はすぐに拭き取ってください。衣服にしみこむと取れなくなるおそれがあります。

知識

- タイヤパンク応急修理セットは、指定の場所に格納してください。また、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
（格納場所→ 216 ページ）

コンプレッサーについて

- パンク応急修理専用です。そのほかの目的で使用しないでください。
- DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。
- コンプレッサーを使用する際、故障の原因となりますので下記のことをお守りください。
  - 40 分以上連続して使用しない
  - 降雨時など、水がかからないようにする
  - 砂ぼこりなどを吸い込ませない
  - 使用中に、動作が鈍くなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を“OFF”にし、30 分以上放置する
  - 分解、改造などは絶対にしない
  - 強い衝撃や圧力を加えない

タイヤパンク応急修理セットの点検

いざというとき使用できるようにタイヤパンク応急修理セットの日常点検を実施してください。

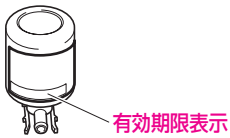
- 修理剤の有効期限の確認
- アクセサリーソケット電源の確認
  （電化製品などを作動させて点検してください）
- コンプレッサー作動の確認
  （コンプレッサーの電源プラグを
  アクセサリーソケットに差し込み、
  エンジンを始動します）

タイヤパンク応急修理セットが使用できない状況

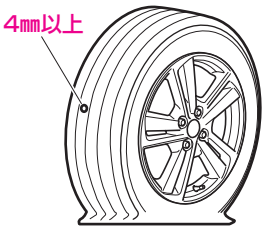
下記のような場合は、タイヤパンク応急修理セットによる応急修理ができません。

ダイハツサービス工場または JAF* などにご連絡ください。

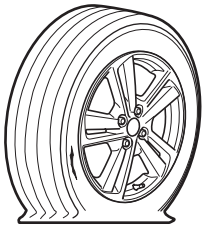
- 修理剤の有効期限が切れている



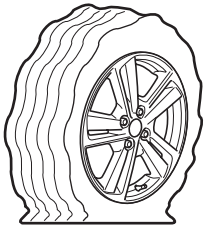
- 約 4㎜以上の切り傷や刺し傷がある



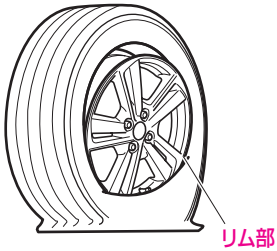
- タイヤサイド部が損傷を受けている



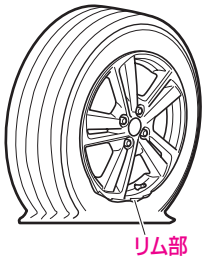
- ほとんど空気の抜けた状態で走行した



- タイヤがリムの外側に完全に外れている



- リム部が破損している



- タイヤが 2 本以上パンクしている
  （修理剤はタイヤ 1 本分です）

* 別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

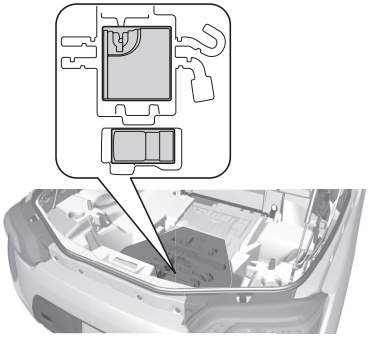
タイヤの応急修理方法

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理を行うことができます。

知識

- タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かずにそのまま応急修理してください。

▼ タイヤパンク応急修理セットの格納場所



▼ 応急修理のしかた

⚠ 注意

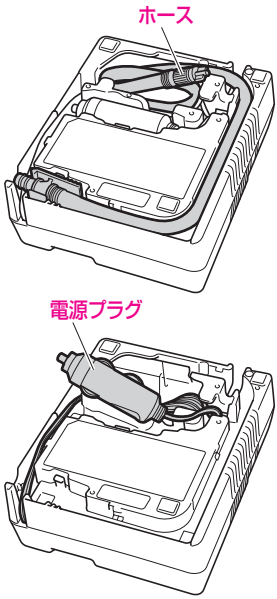
- 路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる地面が硬くて平らな場所に移動してください。その際は非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。

1 修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出す

⚠ 注意

- 緩衝材が入っている場合は、応急修理後に破棄しないよう注意してください。
（交換用修理剤ボトルには、緩衝材が入っていませんので再使用してください）

2 コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出す

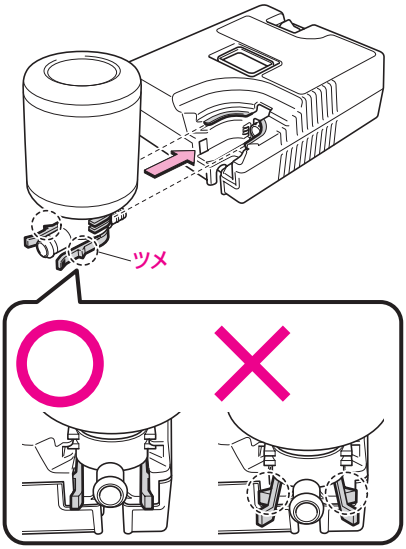


3 修理剤ボトルをよく振る

- 修理剤ボトルはホース、およびコンプレッサーに固定する前に振ってください。

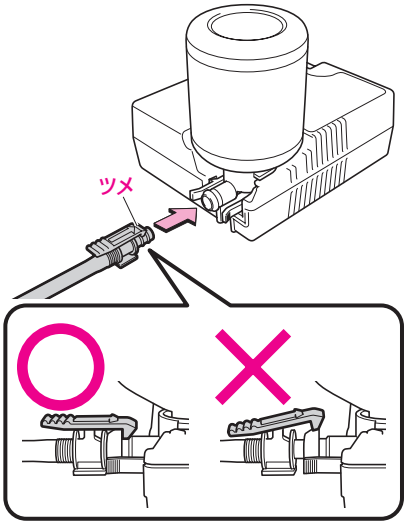
4 コンプレッサーに修理剤ボトルを強く押し込み固定する

●ボトルのツメが固定されるまで、しっかりと押し込んでください。



5 修理剤ボトルにホースを差し込む

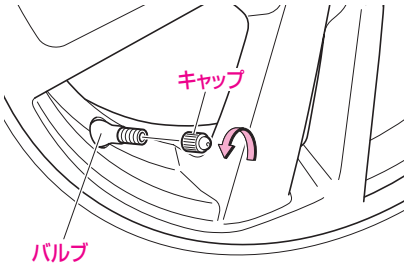
●ホースのツメが固定されるまでしっかりと差し込んでください。



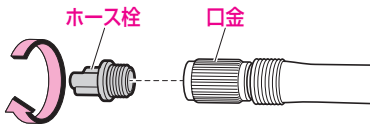
⚠ 注意

●接続部が確実に固定されていることを確認してください。

6 パンクしたタイヤのバルブキャップを取り外す

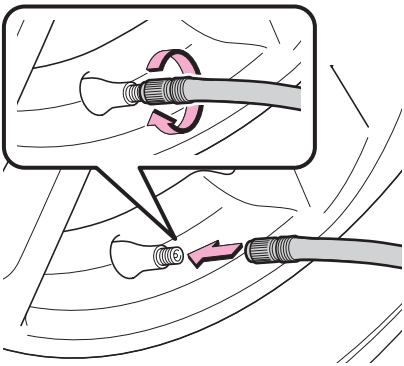


7 ホースの口金からホース栓を取り外す

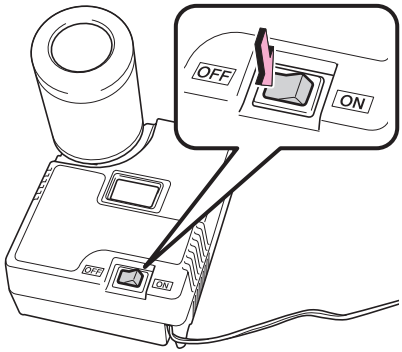


8 ホースの口金をパンクしたタイヤのバルブに接続する

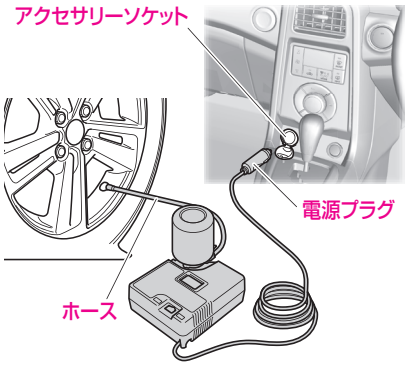
- ホースの口金を回して最後までしっかりとねじ込みます。



9 コンプレッサーの電源が“OFF”になっていることを確認する



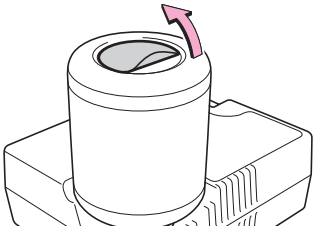
10 コンプレッサーの電源プラグを車両のアクセサリーソケットに差し込む



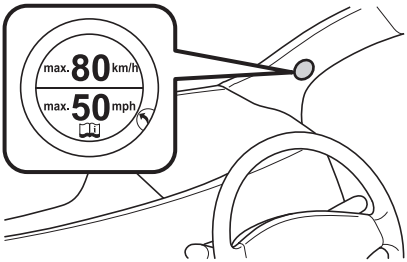
⚠ 注意

- 手順 9 までの作業を終えてから、アクセサリーソケットに差し込んでください。

11 修理剤ボトルの速度制限シールをはがす



12 速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼る



⚠ 警告

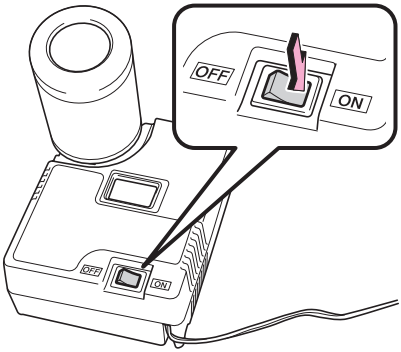
● 速度制限シールは、ハンドルのパッド部などエアバッグ展開面に貼らないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けるおそれがあります。また、メーターやウインドガラスなど、運転のさまたげになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

13 タイヤの指定空気圧を確認する

● 指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。

14 エンジンを始動する

15 コンプレッサーの電源を“ON”にし、修理剤と空気を充填する



⚠ 注意

● コンプレッサーは 40 分以上連続して使用しないでください。モーターが過熱し損傷するおそれがあります。

知識

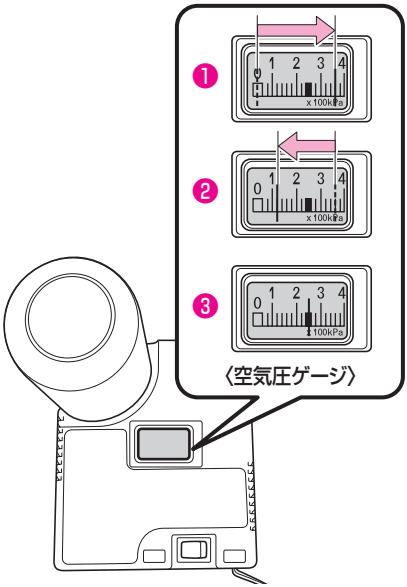
● 5 分以内に昇圧し始めない場合、タイヤをジャッキで浮かせて手で 2 ～ 3 回以上回し、修理剤をタイヤ全体にいきわたらせてから、再度昇圧操作を行ってください。
（ジャッキの使いかた→ 217 ページ）

16 空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧になるまで昇圧する

❶コンプレッサーの電源を“ON”にしたあと、しばらくは修理剤を注入するため、一時的に空気圧ゲージが約300～400kPaまで上がります。

❷1分程度（低温の場合は5分程度）で実際の空気圧表示になります。

❸指定空気圧になるまで昇圧します。



●次の場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があるため、タイヤパンク応急修理セットで修理することができません。ダイハツサービス工場、またはJAFなどにご連絡ください。

- 修理剤が5分以内に充填できない
- 25分以内に指定空気圧まで上がらない

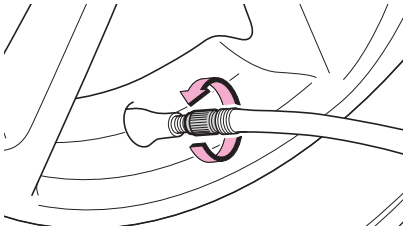
知識

●ダイハツサービス工場、またはJAFロードサービスについては別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

17 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を“OFF”にする

▼ 空気を入れすぎてしまったときは

ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。



⚠注意

●タイヤの空気を抜くときに、充填した修理剤が飛散するおそれがあります。修理剤が目に入らないように注意してください。

18 アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースの口金を取り外す

知識

●ホースの口金を取り外すときに修理剤がもれることがあります。

19 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

20 ホースの口金にホース栓を取り付ける

⚠ 注意

● コンプレッサーに取り付けた修理剤ボトル、ホース、ホース栓は取り外さないでください。取り外すとボトル内に残った修理剤がこぼれるおそれがあります。

21 いったんボトル、コンプレッサー、ホースを接続したまま、ラゲージルームに収納する

22 空気が抜けるのを防ぐため、すみやかに走行を開始する

● 急加速･急ブレーキ･急ハンドルをさけ、80km/h 以下で慎重に運転してください。

23 約5km 程度走行後、交通のさまたげにならない安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“OFF”にする

24 タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認する

● コンプレッサーを車両に接続する

● エンジンを始動する

● コンプレッサーの電源を“ON”にして作動させたあと、電源を“OFF”にして空気圧ゲージで確認する

25 指定空気圧であれば、パンク応急修理を完了する

● 130kPa 以上で指定空気圧に満たない場合は、手順 6 ～ 23 を繰り返し行って、指定空気圧まで昇圧してください。

▼ 空気圧が 130kPa 以下に低下していたら

● タイヤパンク応急修理セットによる修理はできません。走行を中止し、ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。

26 異常がなければ、すみやかにダイハツサービス工場まで走行する

● 急加速･急ブレーキ･急ハンドルをさけ、80km/h 以下の車速で慎重に運転してください。

● 100km 以上の距離を走行しないでください。

応急修理後の処置

修理剤を使用したタイヤは、すみやかに交換、修理を行ってください。交換、修理についてはダイハツサービス工場にご相談ください。

知識

● 修理業者等にタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理セットを使用したことを知らせてください。

● ホイールは、付着した修理剤をふき取れば再使用できますが、タイヤのバルブは新しい物と交換してください。

● 修理剤とホースは再使用できません。使用後は新しい修理剤とホースをお求めください。詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

いざというときの処置

エンジンがかからないとき

燃料カットシステム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが止まってしまった場合、燃料カットシステムが作動している可能性があります。燃料カットシステムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

▼ エンジンを再始動するには

エンジンを再始動する際にはエンジンスイッチを“OFF”または“ACC”に戻してから行ってください。

⚠ 警告

- 燃料漏れのおそれがあるとき、また、燃料のにおいがするときは、エンジンを再始動せずに、お近くのダイハツサービス工場にご連絡ください。

スタック（立ち往生）したとき

スタックから脱出するには

ぬかるみや砂地、深雪路などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、下記の手順にしたがって脱出操作をしてください。

▼ 脱出操作をする前に

⚠ 警告

- 必ず周囲に他の車、物、または人がいないことを十分に確認してください。
  スタックから脱出する際に、車が前後に飛び出したり、あてがった石や木が飛散したりするおそれがあり危険です。
- シフトレバーを操作するときは、アクセルペダルを踏んだまま操作しないでください。車が急発進したり、トランスミッションなどに重大な損傷をあたえるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

● 数回試して脱出できないときは、脱出操作を中止し、けん引による救援を依頼してください。
（けん引されるとき→ 231 ページ）

知識

● TRC の作動で脱出しにくいときは、TRC を停止してください。
（VSC&TRC OFF スイッチ→ 147 ページ）

▼ 脱出手順

1 駐車ブレーキをかけ、シフトレバーを CVT 車は Ⓟ レンジに、マニュアル車はニュートラルに入れ、エンジンを停止します。

2 タイヤ前後の土や雪などを取り除きます。

3 スリップしているタイヤの下に、石や木などをあてがい滑り止めにします。

4 エンジンを始動します。

5 シフトレバーを CVT 車は Ⓓ または Ⓡ レンジに、マニュアル車は 1 速または Ⓡ に確実に入れ、注意しながら、アクセルペダルを軽く踏みます。

故障したとき

エンスト

安全な場所まで移動してください。
付近に人がいる場合は押してもらってください。

⚠ 注意

- 車を押す場合、シフトレバーはニュートラルに入れてください。

知識

- 緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。

踏切内の場合

踏切内で動かなくなったり、脱輪などですぐ動かせない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。

発炎筒

発炎筒は高速道路や踏切内での故障など、非常事態が発生したときに使用する非常信号用具です。

▼ 設置場所

グローブボックスの下に設置されています。

⚠ 注意

- 非常用信号としてのみお使いください。
- お子さまに絶対触らせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 発炎筒を使うとき、顔や体に向けるとやけどの危険があるのでさけてください。
- ガソリンなどの可燃物のそばで使用すると、火災をまねく危険がありますのでさけてください。
- トンネル内では使用しないでください。トンネル内では非常点滅灯や懐中電灯で合図してください。

知識

- 使用方法は、発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでください。
- 発炎筒を使うときは、非常点滅灯も点滅させてください。
- 発炎筒には有効期限がありますので、事前に確認しておいてください。

けん引されるとき

故障車の移動は、ダイハツサービス工場、または専門業者に依頼し、車両積載車で４輪とも持ち上げて運搬してください。
（別冊の「メンテナンスノート」巻末のダイハツサービス網、JAF ロードサービスを参考にしてください。）

⚠ 警告

- 後輪だけを持ち上げたけん引は、車両が不安定になるので、行わないでください。

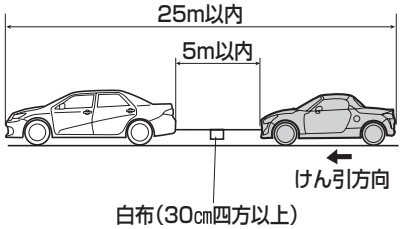
やむを得ず、ロープによるけん引をするときは、下記の注意にしたがってください。

▼ けん引を行う前に

⚠ 注意

- 他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。
- ロープによるけん引を行う前に、駆動系に故障がないことを、ダイハツサービス工場にご確認ください。
  駆動系に故障の可能性がある場合は、ロープによるけん引はしないでください。
- 下記の場合は、駆動系の故障が考えられるため、ロープによるけん引はせずにダイハツサービス工場にご連絡ください。
  - エンジンはかかるが車が動かない
  - 異常な音がする
- CVT 車の場合、ロープによるけん引をするときの速度は 30km/h 以下、けん引距離は 50km 以内にしてください。この速度・距離を超えると、トランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- エンジンスイッチが故障したときは、ハンドルロックが解除できないため、ロープによるけん引はできません。
- けん引される車は、下記の事項を守って慎重に運転してください。通常と同じ感覚で運転すると、事故につながるおそれがあります。
  - できるだけ人や荷物をおろし、車体を軽くしてください。
  - エンジンスイッチはハンドルロックを解除させるために“ON”にし、シフトレバーはニュートラルにしてください。
  - エンジンが停止していると、いつもよりハンドル操作が重くなりますので、できるだけエンジンを始動してください。
    また、ブレーキの効きが悪くなりますので、通常より強めにブレーキペダルを踏んでください。
  - 長い下り坂では、ブレーキが過熱して、効かなくなるおそれがありますので、けん引しないでください。

けん引の方法



- 前の車の制動灯に注意して、常にけん引ロープをたるませないように気を付けてください。
- けん引ロープには必ず白い布（30cm四方以上）を付けてください。

ロープをかける位置

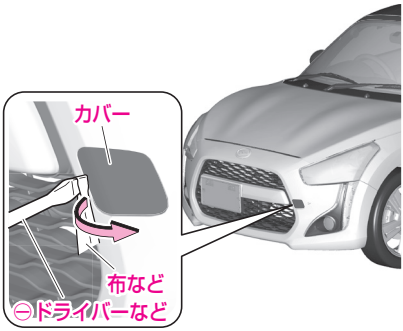
ロープは必ずけん引フックにかけてください。

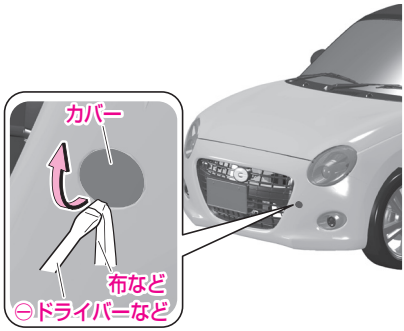
- けん引フックは、トランク内のラゲージアンダーボックスに格納しています。
（格納場所→ 216 ページ）

▼ けん引フックの取り付けかた

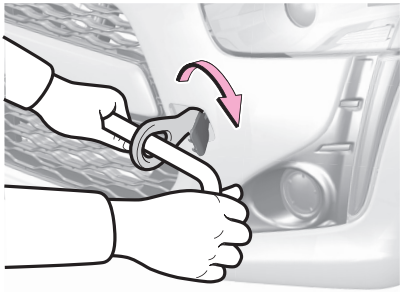
1 カバーを外す

- 薄刃の ⊖ドライバーなどをカバーの切りかきに差し込みます。
（傷付き防止のため、ドライバーの先端に布などを巻いてください）





2 けん引フックを差し込み、ホイールナットレンチでしっかりと固定する



知識

- けん引が終わったら、けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。

パンクしたとき

高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときは、ハンドルをしっかり持って、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。
急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

バッテリーあがりの処置

下記のような症状が見られるとバッテリーあがりが考えられます。

- スターターが回らない
- スターターが回っても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない
- ヘッドランプがいつもより暗い
- ホーンの音が小さい、または鳴らない
- 電子カードキーでドアが解錠しない

処置のしかた

▼ 処置を行う前に

⚠ 警告

- 火気をバッテリーに近付けないでください。バッテリーから発生する可燃ガスにより爆発するおそれがあり危険です。
- バッテリー液が万一皮膚や目に付いてしまったら、その箇所を多量の水で十分洗浄して、ただちに医師の診断を受けてください。バッテリー液には希硫酸が含まれており、毒性、腐食性があります。
- 処置の手順でブースターケーブルをバッテリーあがり車のバッテリーの ⊖ 端子に接続しないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃ガスに引火する危険があります。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしないでください。バッテリーの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。
- ブースターケーブルを接続するとき、端子と端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、引火する危険があります。

⚠ 注意

- 押しがけによる始動はできません。
- 必ず 12V バッテリー車と接続してください。
- ブースターケーブル接続の際には、⊕ 端子をボデー金属部や ⊖ 端子に接触させたり、逆に接続しないでください。
- ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように、接続には十分注意してください。

▼ 処置の手順

1 バッテリーの ⊕ 端子のカバーを外す

2 1 本目のブースターケーブルを以下の順に接続する

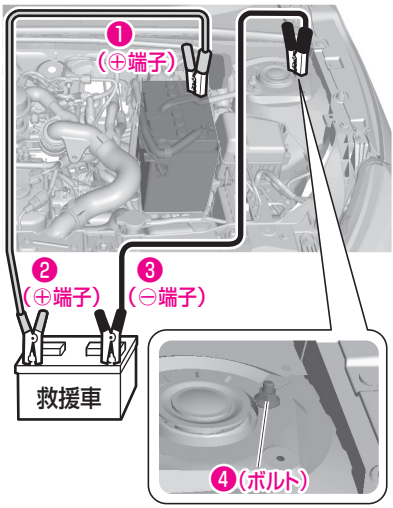
❶バッテリーあがり車の ⊕ 端子

❷救援車の ⊕ 端子

3 2 本目のブースターケーブルを以下の順に接続する

❸救援車の ⊖ 端子

❹未塗装の金属部
（図に示すような固定された部分）



4 救援車のエンジンを始動し、少しエンジン回転を高めに保つ

5 バッテリーあがり車のエンジンを始動する

6 ブースターケーブルを接続順序の逆で外す

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

● 下記のことをお守りください。

- エンジンを止めたままライトをつけたり、オーディオを長時間使用しない
- エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不要な電装品の電源を切る

バッテリーを交換するときは

⚠ 警告

- バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは、確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

CVT 車では

- バッテリーを交換するときは、この車専用のダイハツ純正バッテリーに交換してください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化や eco IDLE によるアイドリングストップが正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。eco IDLE によるアイドリングストップが正常に作動しなくなります。

（eco IDLE 専用バッテリー→ 159 ページ）

知識

- バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充をしてください。
- バッテリーを交換したとき、新しいバッテリーは、バッテリーを設置するトレイの車両後方側に設置してください。

オーバーヒートの処置

下記の状態がオーバーヒートです。

- 水温警告灯が赤色に点滅・点灯し、警告ブザーが鳴ったとき
- ボンネットから蒸気が立ちのぼり、エンジンの出力が低下したとき

処置のしかた

車を安全な場所に止め、以下の処置をしてください。

⚠ 警告

処置を行う前に

- 水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているので、蒸気や熱湯が吹き出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。突然、ファンが回転するため、大変危険です。

▼ 処置の手順

1 ボンネットから蒸気が出ているとき

- エンジンを止めて、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。蒸気が出なくなったらエンジンを始動しボンネットを開け、風通しを良くします。

2 ボンネットから蒸気が出ていないとき

- エンジンをかけたままボンネットを開け、風通しを良くします。

3 1または2の処置を行ったあと、エンジンルームをチェックする

- 下記のような状態であれば、ただちにエンジンを止めてダイハツサービス工場にご連絡ください。
  - 冷却ファンが回転していないとき
  - ホース類などから蒸気や熱湯が漏れているとき
  - ラジエーターリザーバータンクの水がないとき
  - ファンベルトが切れているとき

4 水温警告灯が消灯し、警告ブザーが止まったらエンジンを止める

5 エンジンが十分に冷えてから冷却水の量、ファンベルトのゆるみ、ラジエーターのコア（放熱部）の著しい汚れやゴミの付着の有無などを点検する

6 冷却水が不足しているときは、補給する

- 冷却水の補給は、別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

⚠ 注意

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

📖 知識

オーバーヒートを防ぐために

- 日頃から冷却水の量と冷却水の漏れがないかを点検するように心がけてください。（冷却装置、冷却水の点検は別冊の「メンテナンスノート」参照）

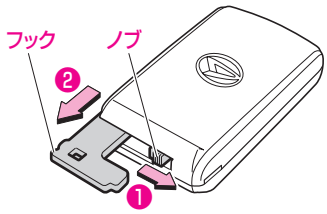
電子カードキーが使用できないとき

電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できない場合は、一時的な対処として、メインキーとエマージェンシーキーを使用してドアの施錠、解錠、およびエンジンスイッチの操作を行うことができます。

⚠ 警告

- 電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できない場合でも、発信機は電波を発信していますので、植込み型心臓ペースメーカー、および植込み型除細動器を使用されている方は、車室外発信機・車室内発信機から約 22㎝以内に近付かないようにしてください。
（発信機→ 58 ページ）

エマージェンシーキーの取り出しかた



電子カードキーのノブを（❶）矢印の方向にスライドさせたまま、エマージェンシーキーのフック部（❷）を引いて取り出します。

- 使用後は、エマージェンシーキーを必ず電子カードキーに格納しておいてください。

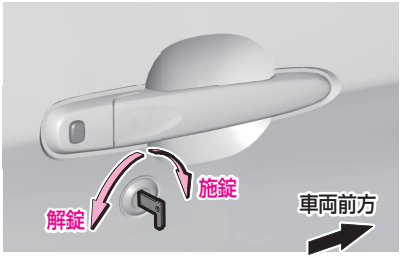
ドアの施錠、解錠

知識

セキュリティアラームがセットされている場合

- キーを差して解錠しドアを開けると、セキュリティアラームの警報が作動します。
アラームが作動した場合は、ただちに次項「エンジンのかけかた」の手順 1 ～ 3 にしたがって、キーを認識させてください。警報が停止します。
（セキュリティアラーム→ 48 ページ）
（エンジンのかけかた→ 238 ページ）

▼ 操作方法



キーを確実に差し込み、
施錠：車両前方に回す
解錠：車両後方に回す

エンジンのかけかた

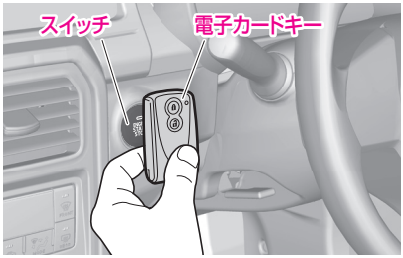
CVT 車

1 シフトレバーが Ⓟ の位置で、ブレーキペダルをしっかりと踏む

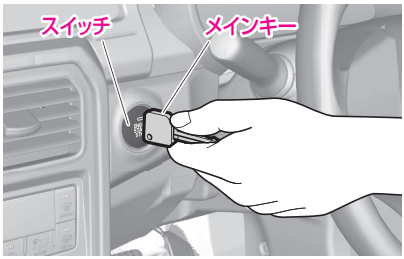
2 ブレーキペダルを踏んだまま、キーを図のようにエンジンスイッチに接触させる

- 電子カードキーは、裏面の中心付近をエンジンスイッチに接触させます。

▼ 電子カードキー

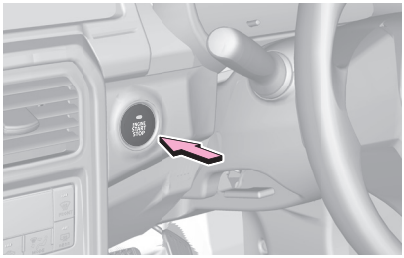


▼ メインキー



3 キーが認識されて、「ピー」というブザー音が鳴り、スイッチの作動表示灯が緑色に点灯する

4 キーの認識後、約 4 秒以内にスイッチを押すと、エンジンが始動する



▼ エンジンの停止方法

通常のエンジン停止方法と同様に、シフトレバーを Ⓟ レンジに入れて、スイッチを押します。

▼ エンジンスイッチモードの切り替え

「エンジンのかけかた」の手順 4 で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押します。
スイッチを押すごとに
「OFF→ACC→ON→OFF」の順に切り替わります。

知識

- 下記の状態になると、スイッチを押してもエンジンの始動（モード切り替え）はできません。もう一度はじめからやり直してください。
  - キーの認識後、約 4 秒以上経過した
  - エンジンスイッチを“OFF”にした
- 手順通りに操作をしてもエンジンが始動できないときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

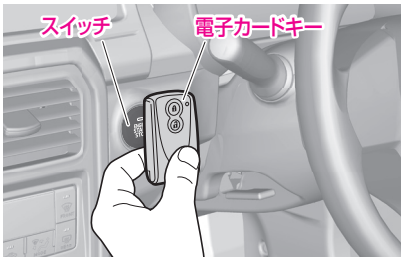
マニュアル車

1 シフトレバーが Ⓝ の位置で、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込む

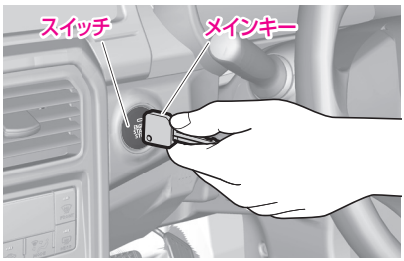
2 クラッチペダルをいっぱいまで踏み込んだまま、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、キーを図のようにエンジンスイッチに接触させる

●電子カードキーは、裏面の中心付近をスイッチの中心に接触させます。

▼ 電子カードキー

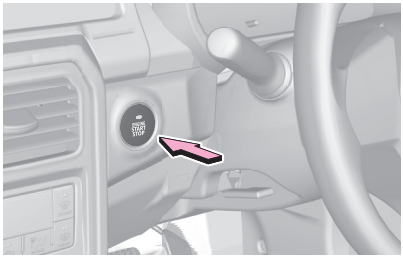


▼ メインキー



3 キーが認識されて、「ピー」というブザー音が鳴り、スイッチの作動表示灯が緑色に点灯する

4 キーの認識後、約 4 秒以内にスイッチを押すと、エンジンが始動する



▼ エンジンの停止方法

通常のエンジン停止方法と同様に、シフトレバーをニュートラルに入れてスイッチを押します。

▼ エンジンスイッチモードの切り替え

「エンジンのかけかた」の手順 4 で、クラッチペダルから足を離してエンジンスイッチを押します。
スイッチを押すごとに
「OFF→ACC→ON→OFF」の順に切り替わります。

知識

●下記の状態になると、スイッチを押してもエンジンの始動（モード切り替え）はできません。もう一度はじめからやり直してください。
- キーの認識後、約 4 秒以上経過した
- エンジンスイッチを“OFF”にした

●手順通りに操作をしてもエンジンが始動できないときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

ハンドルロックを解除するには

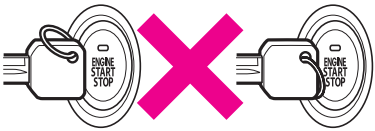
エンジンの始動操作をしたときに、スイッチの作動表示灯が緑色に高速点滅したときは、ハンドルロックが解除されていないため、エンジンの始動ができません。

いったんペダルから足を離してエンジンスイッチを“OFF”にし、ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

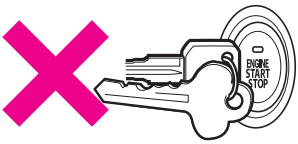
メインキーについて

下記のような状態では、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンスイッチの操作ができない場合があります。

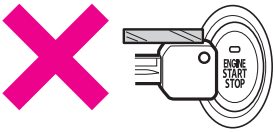
- キーグリップに金属製のリングをのせたままのとき



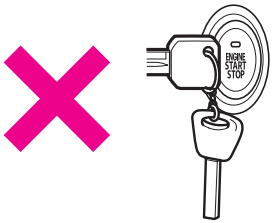
- キーグリップにほかのキーの金属部が接しているとき



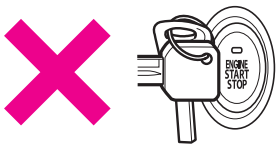
- キーグリップに金属製の物が接しているとき



- メインキーがほかの車両のイモビライザー機能用キー（信号発信機内蔵の物）と近いとき



- メインキーがほかの車両のイモビライザー機能用キー（信号発信機内蔵の物）と重なっているとき



アクティブトップが閉まらないとき

開閉スイッチを操作してもアクティブトップが閉まらないときは、すべての作動条件が成立していることを確認してください。
作動条件が成立しているにもかかわらず閉まらないときは、一時的な対処として、次の手順で手動により閉めることができます。

（作動条件→78 ページ）

⚠ 注意

- 相当な力が必要な作業や、技術の必要な作業も含まれています。ご自身での作業に自信のない方は、すみやかにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

アクティブトップが開閉途中で停止したときは

- エンジンを再始動して、スイッチ操作をやりなおしてください。
  エンジンを再始動してもスイッチ操作ができない場合は、システムの異常が考えられます。この場合、手動で開閉すると、アクティブトップ機構が損傷するおそれがあるため、ただちにダイハツサービス工場へご連絡ください。

手動操作ができない状況

以下の状況では手動操作をしないでください。

- 他に人がいないとき
  （手動作業は2人いないとできません）
- 風が強い場所

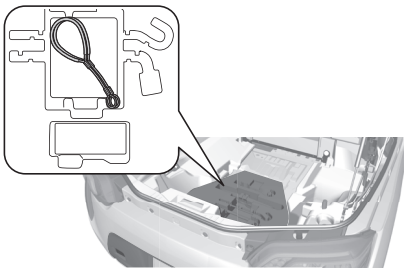
手動での閉めかた

作業を行うまえに

安全な作業のために
必ず次の状態で行ってください。

- 交通のさまたげにならず、安全に作業できる平らな場所に停車する
- シフトレバーを CVT 車は Ⓟ レンジへ、マニュアル車はニュートラルにする
- 駐車ブレーキをしっかりかける
- エンジンを停止する

▼ エマージェンシーツール



手動操作に使用します。

- トランク内のラゲージアンダーボックスに格納されています。

手動操作

⚠ 注意

けがや故障を防ぐために

- 必ず２人で作業してください。
- 作業の中には素手で行うとけがをする作業があります。手袋や布切れなどで手を保護して行ってください。
- 手や指などをはさまないように、十分注意して作業してください。

1 トランクを開ける

▼ トランクが電動で開く場合は

- 手順５へ進んでください。

▼ トランクが電動で開かない場合は

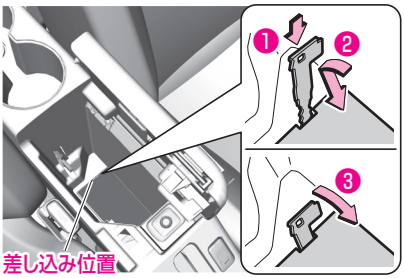
- 手順２～４の作業でトランクを解錠します。

2 コンソールボックスを開け、底のカバーをエマージェンシーキーを使って外す

❶キーを図の向きで切り欠きに差し入れる

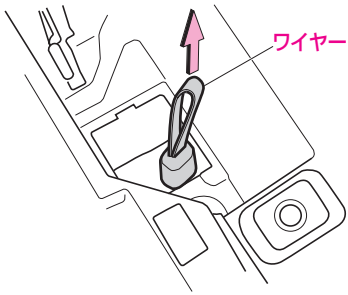
❷キーを車両後方に倒し、下側にさらに差し込む

❸キーの上部を車両前方に引いてカバーを外す



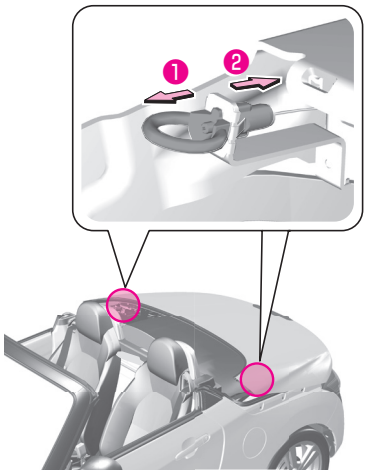
3 ワイヤーを引き、トランクを解錠する

- ロック解除したら、ワイヤーを手で押し戻してください。

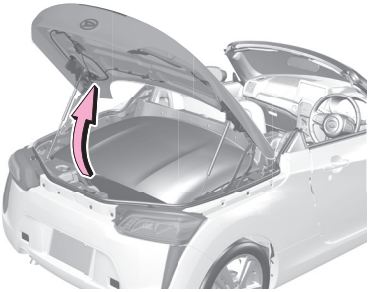


4 トランクリッド左右の青いリングフックを“カチッ”と鳴るまで強く引く（❶）

- ロック解除したら、フックを確実に戻してください。（❷）

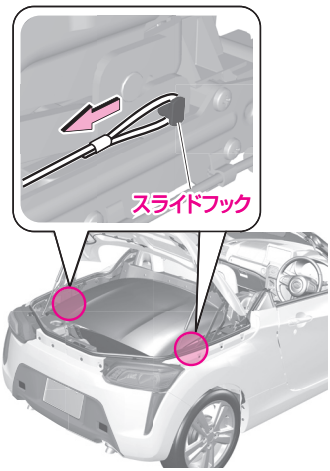


5 トランクをいっぱいまで開ける



6 トランクリッド左右のスライドフックを強く引く

- エマージェンシーツールをスライドフックに掛けて、動きが止まるまでゆっくり引きます。



7 トランクリッドをゆっくり下ろす

- 少し浮いた状態にしてください。

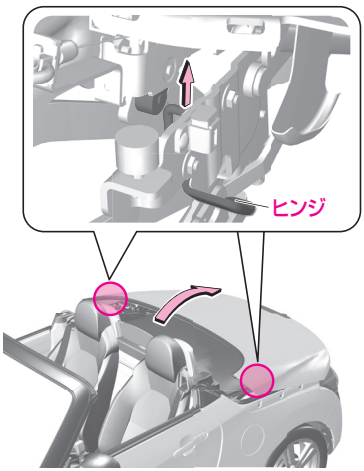
8 トランクリッドの車両前側を、腕が入る程度だけ持ち上げる

⚠ 注意

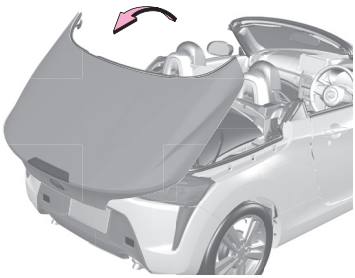
- 腕が入る程度以上は持ち上げないでください。持ち上げ過ぎると、トランクのダンパーが損傷する恐れがあります。

9 トランクリッド左右のヒンジを持ち上げ、ロックする

- “カチッ”と鳴るまで、ヒンジの底を持ち上げながらトランクリッドをゆっくり押えます。



10 トランクリッドを車両後方いっぱいまでゆっくり開く



⚠ 警告

●トランクリッドを車両後方に開ききるまで、作業を止めないでください。トランクリッドがもどり、重大な傷害をうけるおそれがあり危険です。また、車両を損傷するおそれがあります。

⚠ 注意

●トランクリッドで手をはさまないように注意してください。

●トランクリッドに無理な力を加えないでください。トランクリッドパネルが変形するおそれがあります

知識

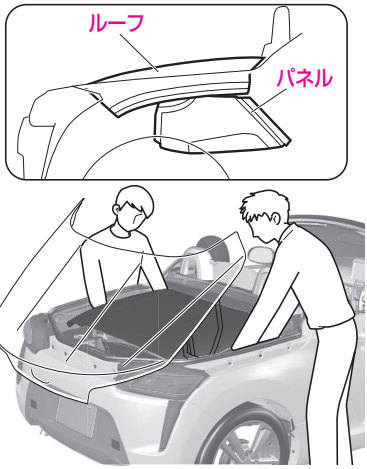
●トランクリッド後側のロックが戻り、車両後方に開かない場合は、再度手順３の作業をおこないトランクのロックを解除してください。

11 パネルとルーフを閉める

●パネルとルーフ両方を持って、水平にゆっくりと持ち上げます。

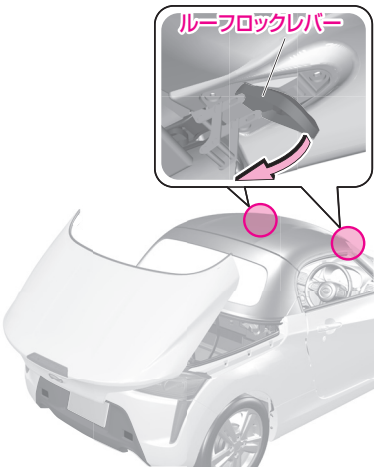
⚠ 注意

●ルーフかパネルどちらかだけを持ち上げると、アクティブトップに無理な力がかかり損傷するおそれがあります。



12 ルーフをロックする

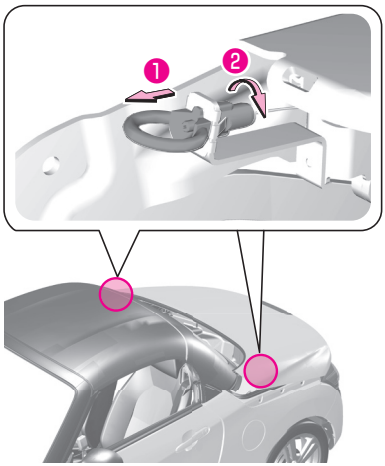
●ルーフロックレバーを確実にロックしてください。



13 トランクリッドをゆっくり下ろす
- 少し浮いた状態にしてください。

14 トランクリッドの車両前側を、腕が入る程度だけ持ち上げる

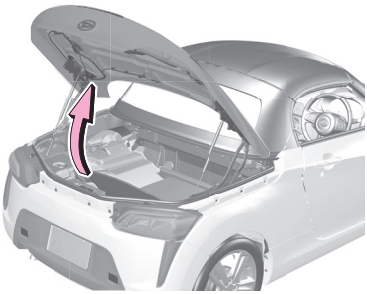
15 左右の青いリングフックを引き（❶）、約 90° 回転する（❷）
- 約 90° 回転させると、ロック解除状態で固定されます。



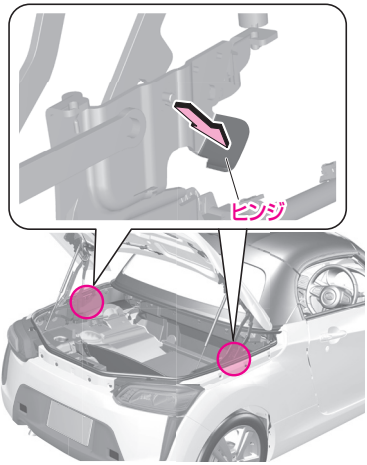
16 トランクリッドの車両前側を押さえながら、ゆっくり開ける

⚠ 注意

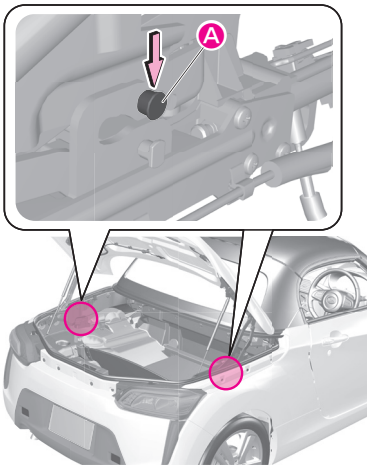
- トランク前端がボデーに接触しないように注意してください。



17 左右のヒンジを矢印方向に押さえる



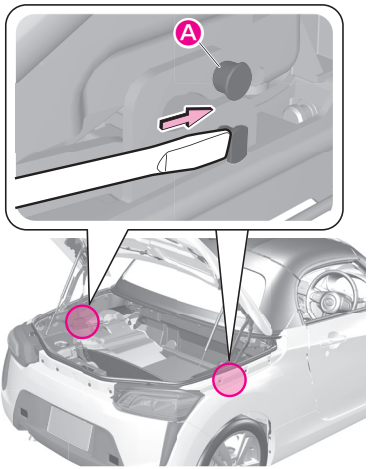
- ピンⒶが図の位置にくるところまで、ヒンジをしっかり押さえてください。



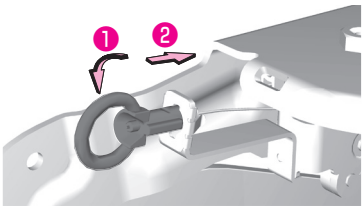
18 ジャッキハンドルとホイールナットレンチを取り出す
- ラゲージパーティションを取り外した場合は、再度取り付けてください。

19 左右のスライドフックを同時に強く押し込む

- ジャッキハンドルとホイールナットレンチをスライドフックに掛けて、動きが止まるまでゆっくり押し込み、工具を離してもスライドフックとピンⒶの掛かりが保持されるまでその状態を保持してください。
- スライドフックとピンⒶが掛かっているかを確認してください。

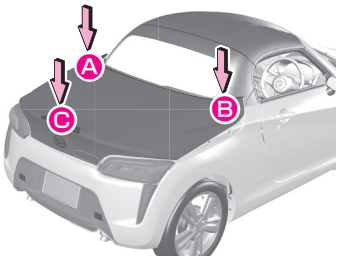


20 左右の青いリングフックを約90°回転し（❶）、押し戻す（❷）



21 トランクリッドを閉める

- トランク表面がへこまないよう注意しながら、図のⒶⒷⒸ部を上からゆっくり押さえ、確実にロックします。



知識

イージークローザーについて

- 手動作業後は、イージークローザーが作動しませんが、一度トランクを電動で開けて閉じると、イージークローザーが作動します。それでもイージークローザーが作動しない場合は、ダイハツサービス工場までご連絡ください。

▼ トランクリッドを閉めた後は

⚠ 注意

- アクティブトップの油圧によっては、フックの掛かりが完全に保持されない場合があります。
  イージークローザーを作動させてもフックの掛かりが完全に保持されない、またはイージークローザーが作動しない場合、このような状態で走行されるとアクティブトップ機構が損傷する恐れがあるため、ただちにダイハツサービス工場へご連絡ください。

キーを閉じ込めたとき

キーを閉じ込めたときは、JAF などを呼んでください。
別冊の「メンテナンスノート」巻末の JAF ロードサービスのご案内を参照してください。

▼ キーをなくした場合

保管していたメインキー（または電子カードキー）とキーナンバープレートを最寄りのダイハツサービス工場にお持ちください。

知識

- 電子カードキー使用時は特にキーを閉じ込めやすくなります。ドアを施錠する際は、必ず電子カードキーを携帯していることを確認するか、リモコン操作で施錠を行ってください。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、下記の手順で車両を停止させてください。

⚠ 警告

走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- ブレーキの効きが悪くなりハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、可能な限り減速するようにしてください。

緊急停止方法

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

⚠ 警告

- ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーをニュートラルに入れる

▼ シフトレバーがニュートラルに入った場合

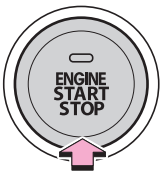
3 減速後、車を安全な道路脇に停めて、エンジンを停止する

▼ シフトレバーがニュートラルに入らない場合

4 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

5 エンジンを停止する

- スイッチを 3 秒以上押し続けるか、3 回以上連打して、エンジンを停止します。



3秒以上押す、または3連打する

6 車を安全な道路脇に停める

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。
  車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

⚠ 警告

走行中の警告

- 冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

知識

水位がフロアを超えると

- 水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

緊急脱出用ハンマー * の使用について

- 合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。
  この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

事故が起きたとき

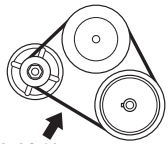
交通事故が起きたときはあわてずに下記の処置を取りましょう。

▼ 処置の方法

1. ただちに車を止めます。車を道のはしに停車し、昼夜問わず非常用表示板を立てるなどの必要な処置を取ります。
2. 負傷者を救護します。人命救助が第一です。負傷者があれば救急車を呼んだり、最寄りの救急病院などへ運ぶなどして救護します。
3. 警察へ事故の報告をします。最寄りの警察へ事故を報告して警察官の指示にしたがいます。この届出は法令で義務付けられています。
4. 相手方の確認とメモをします。氏名、住所、電話番号などをメモしておきます。
5. 購入した販売会社と保険会社へ連絡します。

 * 詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

サービスデータ

項目		サービスデータ	
点火プラグ	メーカー	NGK	デンソー
	プラグ型式	ILKR7D8 （イリジウムプラグ）	SXU22HPR8 （イリジウムプラグ）
ファンベルト	たわみ量（㎜） 押力98N{10kgf}時	7.6～9.3（点検時）  点検位置	
アイドリング回転数（rpm）		800	
ブレーキペダル	遊び（㎜）	0.5～2.0	
	床板とのすき間（㎜） （踏力294N{30kgf}時）	106.6以上	
クラッチペダル	遊び（㎜）	10～25	
	床板とのすき間（㎜） （切れ残りしろ）	22.9以上	
駐車ブレーキ	引きしろ （操作力196N{20kgf}時）	4～7ノッチ	
バッテリー	M/T車	34B19L	
	M/T車の寒冷地仕様車	44B20L	
	CVT車	M-42	
フューエルタンク	容量（ℓ） （無鉛ガソリン使用）	30	
ウォッシャータンク	容量（ℓ）	1.5	

項目			サービスデータ
エンジンオイル	使用オイルと交換時期		アミックス EXTRA 5W-30*1 6か月ごとまたは、 5,000㎞ごと(2,500㎞ごと*2) のどちらか早い方
	交換量(ℓ)	オイル交換時	約2.7
		オイルと オイルフィルター (オイルクリーナー) 交換時	約2.9
オイルフィルター (オイルクリーナー)	交換時期		10,000㎞ごと(5,000㎞ごと*2)
トランスミッションオイル	交換時期	M/T車	100,000kmごと
		CVT車	50,000kmごと
	使用オイル	M/T車	アミックストランスミッション ギヤオイルSAE75W-80 (API分類GL-4)
		CVT車	アミックスCVTフルード-DFE*1 またはDC
	交換量(ℓ)	M/T車	約1.25
		CVT車	約2.5(ドレン)、約5.8(全容量)

＊1　省燃費性に優れるオイルです。

＊2　シビアコンディション条件での定期交換の場合
シビアコンディション条件とは、走行距離大(20,000㎞以上／年)や短距離走行の繰り返し(8㎞以下／回)または外気温が氷点下での繰り返し走行が多い場合などに適用します。
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

⚠ 注意

CVT 車のトランスミッションオイルを交換する場合

● ダイハツ純正オイル（アミックス CVT フルード -DFE または DC）のみご使用ください。
ほかのオイルを使用したり、混合して使用すると、故障するおそれがあります。
オイルの交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。

項目		サービスデータ
ブレーキオイル	交換時期	2年ごと(初回は3年)
	使用オイル	アミックスブレーキフルード(DOT3相当)
エアクリーナーエレメント	交換時期	40,000㎞ごと(20,000㎞ごと*)
冷却水(除くリザーバータンク)	交換時期	2年ごと(初回は3年)
	使用液	アミックスロングライフクーラント(高防錆力タイプ)
	規定濃度(%)	30(寒冷地50)
	全容量(ℓ)	約3.0

＊ シビアコンディション条件での定期交換の場合
シビアコンディション条件とは、走行距離大(20,000㎞以上／年)や短距離走行の繰り返し(8㎞以下／回)または外気温が氷点下での繰り返し走行が多い場合などに適用します。
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

タイヤサイズ	タイヤ空気圧(空車時:kPa{kgf/㎠}				タイヤの溝の深さ(㎜)	タイヤ位置交換時期
	前輪		後輪			
	一般	高速	一般	高速		
165/50R16 75V	240{2.4}				1.6以上	5,000㎞ごと

さくいん

ア

アイドリング回転数 …… 250
アイドリングストップ時間 …… 110
アイドリングストップシステム …… 149
アイドリングストップ積算時間 …… 110
アウター（ドア）ミラー …… 89
アクセサリーソケット …… 173
アクティブトップ
（電動開閉式ルーフ）…… 77
アンチロックブレーキシステム
（ABS） …… 140
アンテナ …… 171

イ

ELR シートベルト …… 33
イージースタートサポート …… 123
EPS（電動パワーステアリング）
警告灯 …… 99
EBD …… 140
イグニッション（エンジン）
スイッチ …… 129
イグニッションキー …… 54
イモビライザー機能 …… 48
インジケーターランプ（表示灯） … 101
インナー（ルーム）ミラー …… 88

ウ

ウインカー（方向指示）スイッチ … 120
ウインドウォッシャー液の補給 …… 188
ウインドガラス（パワーウインド） … 74
ウインドデフォッガースイッチ …… 170
ウォーニングランプ（警告灯） …… 92
ウォッシャースイッチ …… 118
ウォッシャータンクの容量 …… 250
上向き表示灯 …… 102
運転席 SRS エアバッグ …… 42

エ

エアクリーナーエレメントの
データ …… 252
エアコン
・オート …… 162
エアコンガス …… 196
エアバッグ …… 42
エアフィルター …… 196
ABS …… 140
eco IDLE（エコアイドル）…… 149
eco IDLE OFF スイッチ …… 157
eco IDLE OFF 表示灯 …… 156
eco IDLE 表示灯 …… 155
エコ発電制御 …… 160
eco リーフゲージ …… 114
eco リーフゲージの表示／
非表示設定 …… 109
SRS エアバッグ …… 42
エマージェンシーストップ
シグナル …… 148
LED ヘッドランプ警告灯 …… 99
LLC（冷却水）のデータ …… 252
エンジンオイルのデータ …… 251
エンジンオイルレベルゲージ …… 187
エンジン回転計（タコメーター） … 107
エンジンキー …… 54
エンジン警告灯 …… 92
エンジンスイッチ …… 129
エンジンフード（ボンネット） …… 184
エンジンルーム …… 184

オ

オイルの交換量 …… 251
オイルプレッシャー（油圧）警告灯 … 93
応急修理セット …… 220
オートエアコン …… 162
オート（パワー）ウインド …… 74
オーバーヒート …… 235
オープナー
・フューエルリッド …… 85
・ボンネット …… 185
お子さま専用シート …… 39
オドメーター（積算距離計） …… 109
オルタネーター（ファン）ベルトの
点検基準値 …… 250
温度調節センサー …… 170

カ

外気温 …… 111
鍵（キー） …… 54
カップホルダー …… 178
間欠ワイパー（ワイパー・
ウォッシャースイッチ） …… 118

キ

キー …… 54
キー（エンジン）スイッチ …… 129
キー閉じ込み防止機能
・ドア …… 69
・トランク …… 73
キーの電池交換 …… 207
キーフリー警告灯 …… 64
キーフリーシステム …… 57
キーフリーシステムの警告 …… 60
給油口（フューエルリッド） …… 84
緊急停止するには …… 247

ク

空気圧 …… 252
空調 …… 162
クーラー（エアコン） …… 162
クーラント（冷却水）のデータ …… 252
区間距離計（トリップメーター） … 109
曇り取り
・フロント（オートエアコン）…… 163
・リヤ …… 170
クラクション（ホーン）スイッチ … 119
クラッチスタートシステム …… 122
クリーナー（オイルフィルター）の
データ …… 251
クリーンエアフィルター …… 196

ケ

警音器（ホーン）スイッチ …… 119
計器（メーター） …… 106
警告灯 …… 92
警告ブザー
・ライト消し忘れ警告ブザー …… 117
警報（セキュリティアラーム）の
停止方法 …… 51
けん引 …… 231

コ

高水温警告灯 …… 95
航続可能距離 …… 112
小物入れ
・コンソールボックス …… 177

・ドアポケット …… 177
・バックパネルポケット …… 177
コンビネーションメーター …… 106

サ

サービスデータ …… 249
サイド（ドア）ミラー …… 89
3 点式 ELR シートベルト …… 33
サンバイザー …… 175

シ

シート …… 87
シート
・シートヒーター …… 174
・シートベルトガイド …… 35
シートベルト …… 33
シートベルト未装着警告灯
（運転席・助手席）…… 96
CVT 警告灯 …… 95
CVT シフトインジケーター …… 103
CVT 車 …… 122
室内照明 …… 172
シフトインジケーター …… 103
シフトレバー
・CVT 車…… 135
・マニュアル車 …… 139
シフトレンジ表示灯 …… 104
シフトロック装置 …… 138
ジャッキの使いかた …… 217
車両盗難防止（イモビライザー）
機能 …… 48
車両を緊急停止するには …… 247
集中（パワー）ドアロック …… 69
充電警告灯 …… 93
使用オイル …… 251
照明 …… 172
助手席 SRS エアバッグ …… 42

ス

水温警告灯 …… 95
水温表示灯 …… 102
水没・冠水したときは …… 248
スタック（立ち往生）したとき …… 228
ステアリングスイッチ …… 171
ステアリングホイール
（チルトステアリング）…… 90
スノー（タイヤ）チェーン …… 212
スパーク（点火）プラグの型式 …… 250
スピードメーター …… 107
スリップインジケーター …… 145

セ

積算距離計（オドメーター） …… 109
セキュリティアラーム …… 48
セキュリティアラームの
警報の停止方法 …… 51
セキュリティインジケーター …… 103
セレクト（シフト）レバー
・CVT 車…… 135
・マニュアル車 …… 139
洗車 …… 180
前照灯（ヘッドランプ）の
切り替え …… 116

ソ

速度計（スピードメーター） …… 107

タ

ターボ車 …… 122
ターンシグナルインジケーター（方向指示表示灯）…… 101
ターンシグナル（方向指示）スイッチ …… 120
タイヤ交換 …… 191
タイヤチェーン …… 212
タイヤのデータ …… 252
タイヤのローテーション …… 190
タイヤパンク応急修理セット …… 220
タコメーター …… 107
暖房（エアコン） …… 162

チ

チェーン …… 212
チェンジ（シフト）レバー
・CVT 車…… 135
・マニュアル車 …… 139
チケットホルダー …… 177
チャージ（充電）警告灯 …… 93
チャイルドシート …… 39
駐車ブレーキ …… 134
駐車ブレーキの点検基準値 …… 250
チルトステアリング …… 90

テ

TRC…… 143
TRC OFF 表示灯 …… 146
低水温表示灯 …… 102
ディスクホイール（タイヤ）の交換 …… 191
ディスクホイール（タイヤ）のデータ …… 252
テールインジケーター …… 102
デフォッガースイッチ …… 170
デフロスター（曇り取り）
・フロント (オートエアコン)…… 163
・リヤ …… 170
デュアル SRS エアバッグ …… 42
点火プラグの型式 …… 250
電球の交換 …… 199
点検整備項目（サービスデータ） … 249
電池の交換 …… 207
電動パワーステアリング警告灯 …… 99
電力回生制御 …… 160

ト

ドア …… 65
ドア（パワー）ウインド …… 74
ドアポケット …… 177
ドアミラー …… 89
ドアロック …… 69
時計
・メーター …… 107
時計調整
・メーター …… 113
トランク …… 70
トランスミッションオイルのデータ …… 251
トリップメーター（区間距離計） … 109

ナ

内気センサー …… 170

ニ

日射センサー …… 170

ネ

燃費（平均燃費） …… 112
燃料カットシステム …… 228
燃料給油口（フューエルリッド） …… 84
燃料計 …… 107
燃料残量警告灯 …… 97
燃料（フューエル）タンクの容量 … 250

ハ

パーキング（駐車）ブレーキ …… 134
パーキング（駐車）ブレーキの
点検基準値 …… 250
ハイビーム（ヘッドランプ上向き）
表示灯 …… 102
ハザードインジケーター
（非常点滅表示灯） …… 101
ハザード（非常点滅灯）スイッチ … 120
発炎筒 …… 230
バック（ルーム）ミラー …… 88
パッシング
（ヘッドランプの切り替え） …… 116
バッテリー …… 159
バッテリーあがり …… 233
バッテリーあがり防止機能 …… 172
バッテリーの型式 …… 250
発電制御 …… 160
パドルシフト …… 136
バルブ（電球）の交換 …… 199
パワーウインド …… 74
パワーステアリング警告灯 …… 99
パワードアロック …… 69
パンク …… 233
パンク応急修理セット …… 220
半ドア警告灯 …… 97
ハンドル（チルトステアリング） …… 90

ヒ

ヒーター（エアコン）
・オートエアコン …… 162
非常点滅灯スイッチ …… 120
非常点滅表示灯 …… 101
ヒューズの交換 …… 197
表示灯 …… 101
ヒルスタートシステム …… 158

フ

ファンベルトの点検基準値 …… 250
VSC …… 142
VSC&TRC OFF スイッチ …… 147
VSC&TRC 警告灯 …… 145
VSC OFF 表示灯 …… 146
V（ファン）ベルトの点検基準値 … 250
フィルターのデータ …… 251
フォースリミッター機構付
シートベルト …… 35
フォグランプスイッチ …… 118
フォグランプ表示灯 …… 102
プッシュボタンスタートスイッチ … 129
不凍液（冷却水）のデータ …… 252
フューエルウォーニング
（燃料残量警告灯） …… 97
フューエルタンクの容量 …… 250
フューエル（燃料）カット
システム …… 228
フューエルメーター（燃料計） …… 107
フューエルリッド …… 84
冬用タイヤ …… 212
プラグの型式 …… 250

プリテンショナー＆フォース
リミッター機構付シートベルト …… 35
ブレーキ（ABS）…… 140
ブレーキオイルのデータ …… 252
ブレーキオーバーライドシステム … 122
ブレーキオーバーライド
システム表示灯 …… 105
ブレーキ警告灯 …… 94
ブレーキペダルの点検基準値 …… 250
ブレード（ワイパー）の交換 …… 194
フロントシートベルト …… 33
フロントドア …… 65
フロントフォグランプスイッチ …… 118
フロントワイパー・ウォッシャー
スイッチ …… 118

へ

平均燃費 …… 112
ヘッドランプ上向き表示灯 …… 102
ヘッドランプの切り替え …… 116
ベルトの点検基準値 …… 250

ホ

ホイール（タイヤ）の交換 …… 191
ホイール（タイヤ）のデータ …… 252
防眩式ルームミラー …… 88
方向指示スイッチ …… 120
方向指示表示灯 …… 101
ホーンスイッチ …… 119
補給口（フューエルリッド） …… 84
ポジション表示
（シフトインジケーター）…… 103
ボンネット …… 184

マ

窓ガラス（パワーウインド） …… 74
マニュアルシフトレバー …… 139
マニュアルモード（CVT 車）…… 136
マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 108

ミ

ミラー
・ドアミラー …… 89
・ルームミラー …… 88

メ

メーター …… 106
メンテナンスデータ
（サービスデータ）…… 249

ユ

油圧警告灯 …… 93

ラ

ライト消し忘れ警告ブザー …… 117
ライト自動消灯機能 …… 117
ライトスイッチ …… 115
ラゲージパーティション …… 81
ラジエーター液（冷却水）の
データ …… 252
ラバー（ワイパー）の交換 …… 194

リ

リモコンスイッチ
・ドア …… 66
・トランク …… 72

リヤウインドデフォッガー
スイッチ …… 170

ル

ルーフ …… 77
ルーフロックレバー …… 81
ルームミラー …… 88
ルームランプ …… 172

レ

冷却水のデータ …… 252
冷房（エアコン） …… 162

ロ

ローテーション …… 190

ワ

ワイパー・ウォッシャースイッチ … 118
ワイパーの交換 …… 194
W 数（電球） …… 200

3

3 点式 ELR シートベルト …… 33

A

ABS …… 140
ABS 警告灯 …… 98
A/C（エアコン） …… 162

C

CVT 警告灯 …… 95
CVT シフトインジケーター …… 103
CVT 車 …… 122

E

EBD …… 140
eco IDLE（エコアイドル）…… 149
eco IDLE OFF スイッチ …… 157
eco IDLE OFF 表示灯 …… 156
eco IDLE 表示灯 …… 155
eco リーフゲージ …… 114
ELR シートベルト …… 33
EPS（電動パワーステアリング）
警告灯 …… 99

L

LED ヘッドランプ警告灯 …… 99
LLC（冷却水）のデータ …… 252

M

M/T（マニュアル車） …… 139

S

SRS エアバッグ …… 42
SRS エアバッグ警告灯 …… 98
SRS エアバッグコンピューター …… 47

T

TRC …… 143
TRC OFF 表示灯 …… 146

V

VSC …… 142
VSC OFF 表示灯 …… 146
VSC&TRC OFF スイッチ …… 147
VSC&TRC 警告灯 …… 145
V（ファン）ベルトの点検基準値 … 250

W

W 数（電球）…… 200

- “eco IDLE”、“アクティブトップ”、“キーフリーシステム”、“アミックス” はダイハツ工業株式会社の登録商標です。
- “VSC”、“TRC” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。
- QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

軽自動車を廃車したときは

自動車検査証返納の手続きが必要になりますので、軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

返納に必要な書類など（Aは一時使用中止時、Bは解体返納時に必要です）

- A　自動車検査証返納証明書交付申請書・自動車検査証返納届出書
- B　解体届出書
- A B　自動車検査証
- A B　車両番号標（ない場合は「車両番号標未処分理由書」）
- A B　軽自動車税申告書
- A B　印鑑

A 一時使用中止時

7番窓口

ナンバー頒布

⇩

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

⇩

2番窓口

申請書類の確認

⇩

3番窓口

検査手数料収納

⇩

2番窓口

申請書類の確認

B 解体返納時

7番窓口

ナンバー頒布

⇩

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

⇩

2番窓口

申請書類の確認

⇩

5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※上記の順序は一般的な例です。

使用者・所有者・使用者の住所を変更したときは

検査証記載事項変更の手続きが必要になりますので、使用中の本拠位置を管轄する軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

申請に必要な書類など（Cは使用者・所有者を変更した場合、Dは引っ越しなどにより、使用者の住所を変更した場合に必要です）

- C D 自動車検査証記入申請書
- C D 自動車検査証
- C D 使用者の住所を証する書面（印鑑証明書、または住民票抄本などで発行後３ヶ月以内のもの）
- C 自動車損害賠償責任保険証明書、または自動車損害賠償責任共済証明書（使用者が変わった場合に必要です）
- C D 車両番号標（同じ管轄であれば変更する必要がありません）
- C 軽自動車税申告書・自動車取得税申告書
- D 軽自動車税申告書
- C D 印鑑

C D（ナンバー変更あり）

2番窓口

申請書類の確認

⇩

7番窓口

ナンバー頒布

⇩

5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

⇩

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

⇩

7番窓口

ナンバー頒布

C D（ナンバー変更なし）

2番窓口

申請書類の確認

⇩

6番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告

⇩

5番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※上記の順序は一般的な例です。

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
お近くのダイハツ販売会社、または
ダイハツお客様コールセンターまでお願いいたします。

お問い合わせには、あらかじめ下記の事項について確認のうえ、ご連絡願います。

⑴ 車名および型式、登録番号
⑵ ご購入年月日
⑶ 走行距離
⑷ お客様のご住所、お名前、電話番号

●印刷＝ 2022 年 1 月 24 日　●発行＝ 2022 年 2 月 1 日＜非売品＞

220201-1

01999-B2545

ダイハツ工業株式会社

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
お近くのダイハツ販売会社または下記までお願いいたします。

ダイハツお客様コールセンター

フリーコール 0800-500-0182
受付時間 9：00～17：00
〒563-8651 大阪府池田市ダイハツ町1番1号

弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて掲載しております。（https://www.daihatsu.com/jp/privacy.html）

シートベルトを締めましょう

車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と
一致しない場合がありますのでご了承ください。